令和４年度北九州市高齢者等実態調査
報 告 書

令和５年３月

北九州市保健福祉局

目　次

第１章　調査の概要 1

第２章　調査対象の基本属性 3
　１．基本事項 3
　２．同居人 5
　３．住居 6

第３章　共通設問の調査結果 7
　１．健康・医療 7
　２．介護予防 13
　３．生きがい・社会参加 19
　４．就労 22
　５．ＩＴリテラシー 24
　６．地域との関わり・支援の状況 29
　７．終活 32
　８．認知症 33
　９．虐待・権利擁護 38
　１０．地域包括支援センター 42
　１１．介護保険制度 42
　１２．保健・福祉サービスの利用意向 46
　１３．介護保険の負担に対する考え方 50
　１４．生活環境 51
　１５．暮らし向き 54
　１６．高齢者 55
　１７．高齢者福祉施策 57
　１８．子育てと介護（ダブルケア） 60

第４章　在宅高齢者の介護者 64
　１．主な介護者 64
　２．介護の状況 69
　３．高齢者の虐待 74

第５章　施設入居者の状況 76
　１．施設サービスの利用状況 76
　２．家族の状況 78
　３．暮らし向き 80
　４．施設での生活全体の印象 80

【参考】
クロス集計表 81
調 査 票 315

第１章　調査の概要

１．調査の目的

北九州市に在住する高齢者等の保健福祉に関するニーズ、意識及び実態を把握することで今後の高齢社会対策を進めるうえでの基礎資料を得ることを目的に実施した。

２．調査対象者

（１）一般高齢者　＊『一般高齢者』『一般』と表記
令和4年10月1日現在、北九州市在住の高齢者（65歳以上）の中から無作為に抽出した3,000人
＊ただし、要支援・要介護認定を受けている人を除く

（２）在宅（要支援・要介護）高齢者　＊『在宅高齢者』『在宅』と表記
令和4年10月1日現在、北九州市在住で、介護保険の要支援・要介護の認定を受けている在宅高齢者（65歳以上）の中から、無作為に抽出した3,600人

（３）施設入所高齢者　＊『施設入所者』『施設』と表記
令和4年8月1日現在、北九州市内の介護保険施設に入所する施設入所者の中から無作為に抽出した600人

（４）若年者　＊『若年者』『若年』と表記
令和4年11月15日現在、北九州市在住の40歳～64歳の市民から無作為に抽出した3,000人

３．調査方法

郵送による配布回収
※若年者は、郵送またはインターネットによる回答

４．調査実施期間

令和4年12月16日～令和5年1月10日

５．回収状況

（１）一般高齢者3,000通発送、1,686通の回答（有効回答率56.2%）
（２）在宅高齢者3,600通発送、1,230通の回答（有効回答率34.2%）
（３）施設入所者600通発送、270件の回答（有効回答率45.0%）
517件の回答があったが、このうち247件については調査不能である
（４）若年者3,000通発送、1,102通の回答（有効回答率36.7%）

６．調査・集計・分析機関

【調査主体】北九州市保健福祉局長寿社会対策課
【集計分析】株式会社サーベイリサーチセンター

７．集計分析上の注意事項

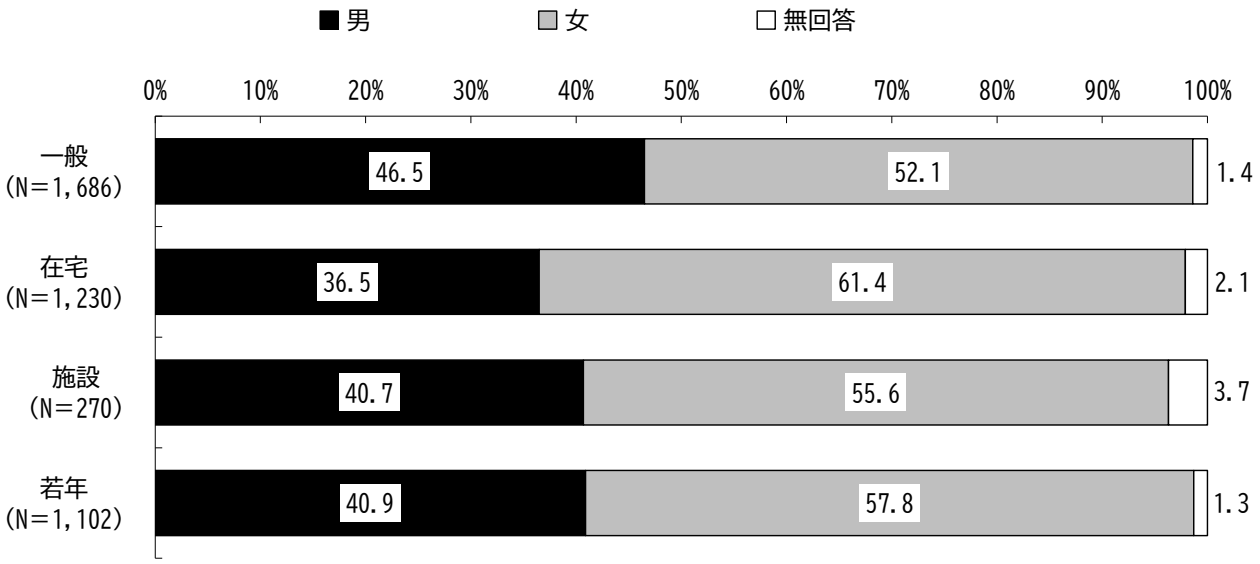
・図表においては、回答者の数を「N」で表記した。
・比率は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100％にならない場合がある。
・複数回答の設問については、合計が100％を超える場合がある。
・クロス集計の表側の項目については無回答があるため、回答者数の内訳の合計が全体の回答者数に一致しない場合がある。
・属性別のグラフについては属性が無回答の回答者がいるため、属性別回答者数の合計が全体の回答者数に一致しない場合がある。

第２章　調査対象の基本属性

１．基本事項

（１）性別

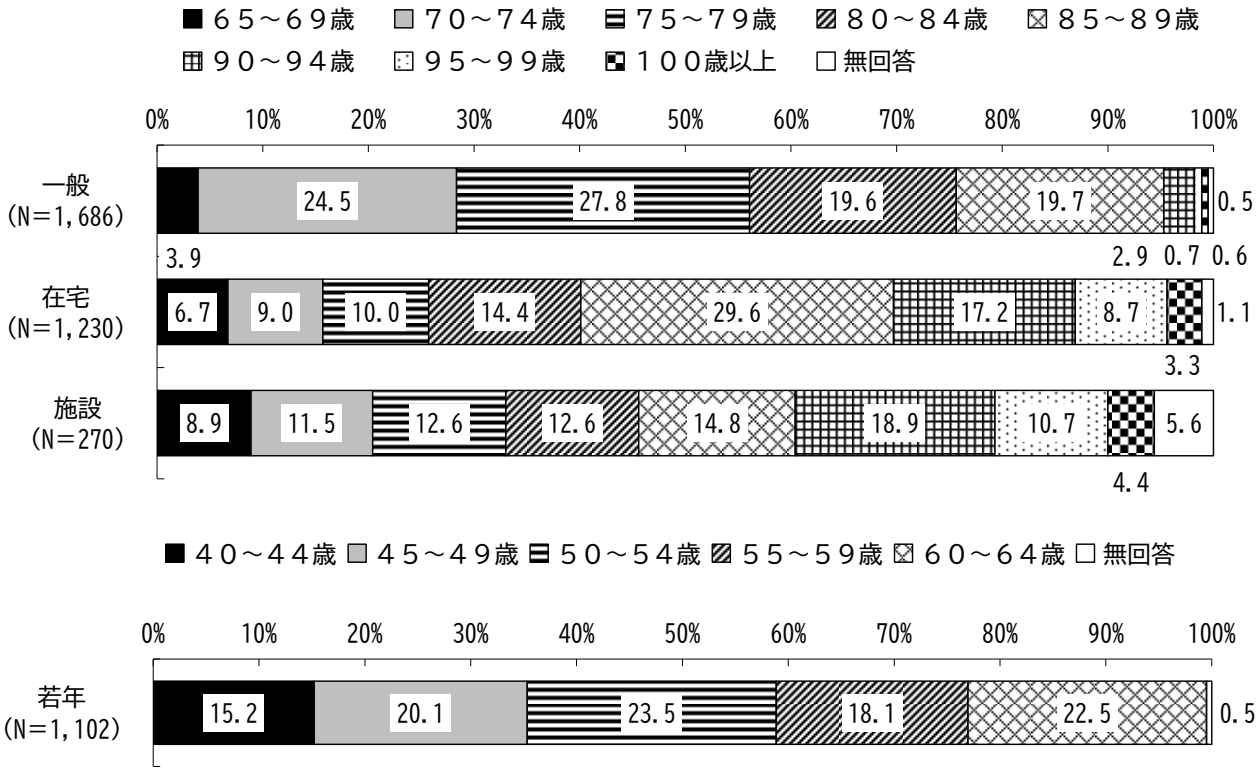
回答者の性別をみると、いずれの調査も女性が多く、在宅高齢者では61.4%が女性である。



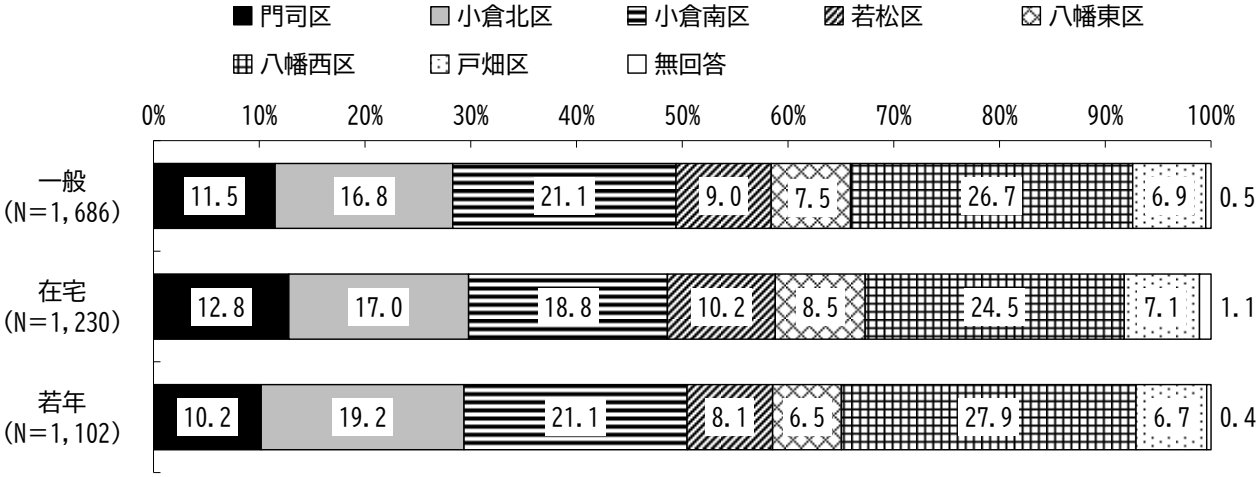
（２）年齢

回答者の年齢をみると、一般高齢者では75～79歳の割合が27.8%と最も高くなっているが、在宅高齢者では10.0%、施設入所者では12.6%と低い。

若年者に関しては、50～54歳の割合が最も高い。



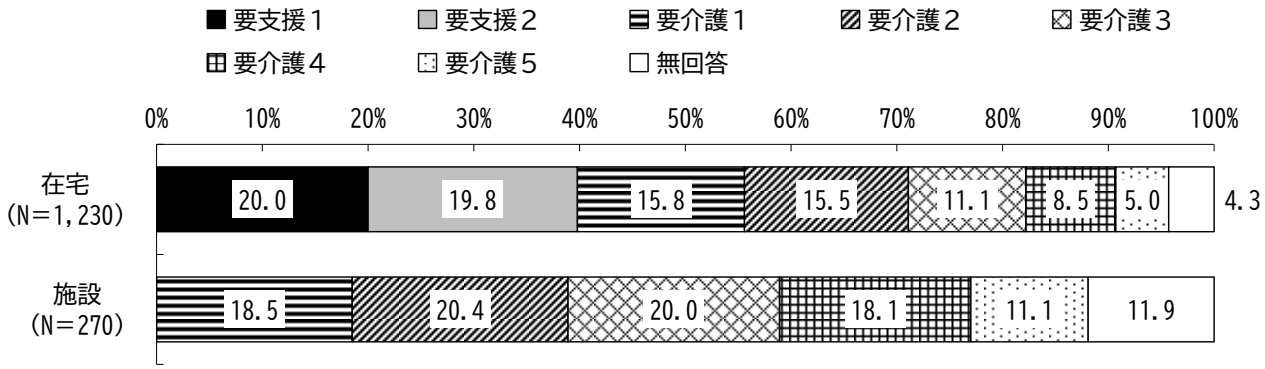
（３）住所区



（４）要介護度

要介護度についてみると、在宅高齢者では「要支援1」が20.0％と最も多く、次いで「要支援2」が19.8％、「要介護1」が15.8％、「要介護2」が15.5％、「要介護3」が11.1％となっている。

施設入所者では「要介護2」が20.4％と最も多く、次いで「要介護3」が20.0％、「要介護1」が18.5％、「要介護4」が18.1％、「要介護5」が11.1％となっている。



＊要介護度

区分	身体の状態
要支援1	社会的支援を部分的に必要とする状態
要支援2	社会的支援を必要とする状態
要介護1	心身の状態が安定していないか、認知症などにより部分的な介護を必要とする状態
要介護2	軽度の介護を必要とする状態
要介護3	中度の介護を必要とする状態
要介護4	重度の介護を必要とする状態
要介護5	最重度の介護を必要とする状態

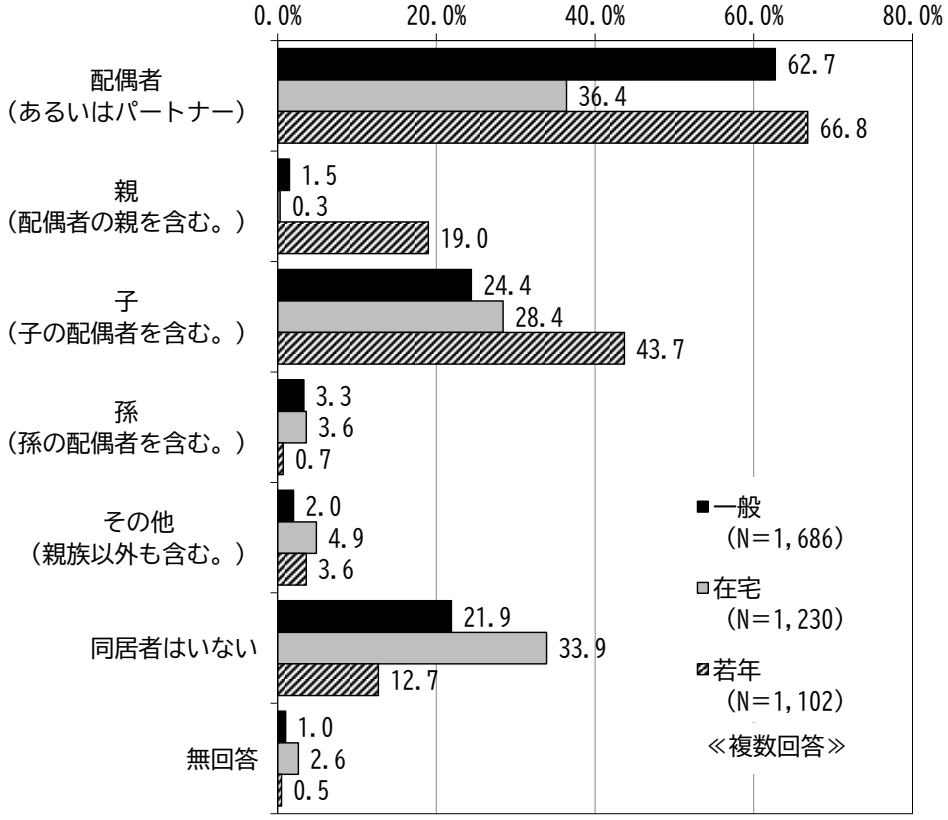
２．同居人

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

同居人については、一般高齢者では「配偶者（あるいはパートナー）」が62.7％と最も多く、次いで「子（子の配偶者を含む。）」が24.4％、「同居者はいない」が21.9％となっている。

在宅高齢者では「配偶者（あるいはパートナー）」が36.4％と最も多く、次いで「同居者はいない」が33.9％、「子（子の配偶者を含む。）」が28.4％となっている。

若年者では「配偶者（あるいはパートナー）」が66.8％と最も多く、次いで「子（子の配偶者を含む。）」が43.7％、「親（配偶者の親を含む。）」が19.0％となっている。



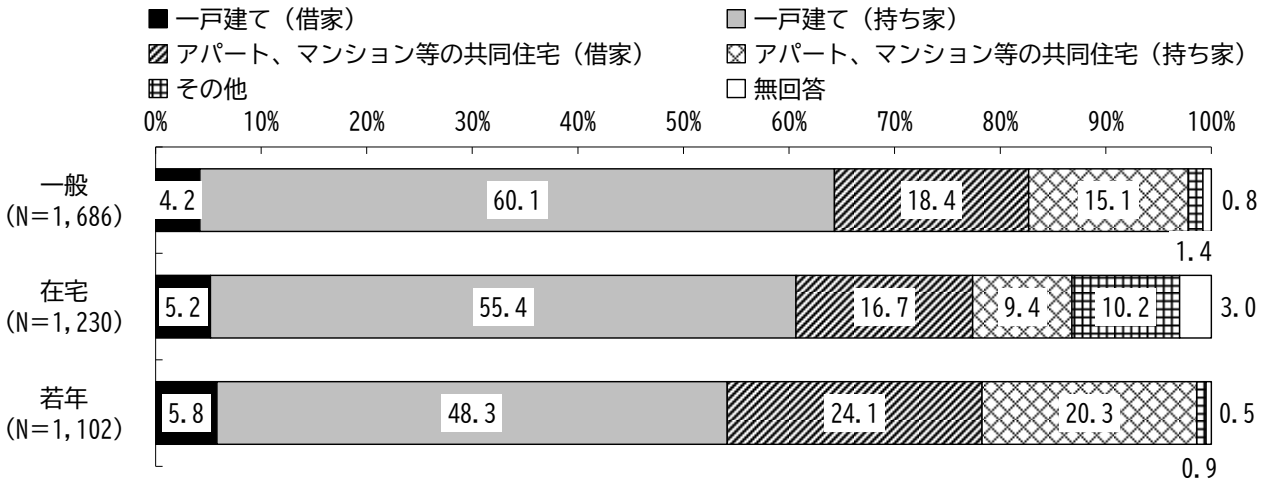
３．住居

（１）住居の形態

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

一般高齢者では『持ち家』(「一戸建て（持ち家)」と「アパート、マンション等の共同住宅（持ち家)」の合計）は75.2%、『借家』(「一戸建て（借家)」と「アパート、マンション等の共同住宅（借家)」の合計）は22.6%となっている。

在宅高齢者では『持ち家』は64.8%、『借家』は21.9%、若年者では『持ち家』は68.6%、『借家』は29.9%となっている。



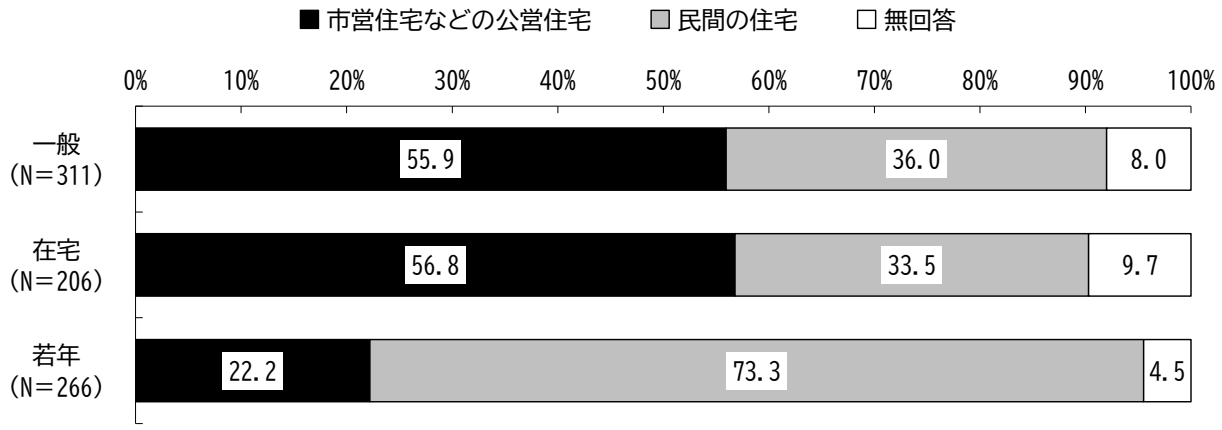
（１）－1　共同住宅（借家）の種類

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

アパート、マンション等の共同住宅（借家）に住んでいる人に対し、共同住宅が公営住宅か民間の住宅かを尋ねたところ、一般高齢者では「市営住宅などの公営住宅」が55.9%、「民間の住宅」が36.0%となっている。

在宅高齢者では「市営住宅などの公営住宅」が56.8%、「民間の住宅」が33.5%となっている。

若年者では「民間の住宅」が73.3%、「市営住宅などの公営住宅」が22.2%となっている。



第３章　共通設問の調査結果

１．健康・医療

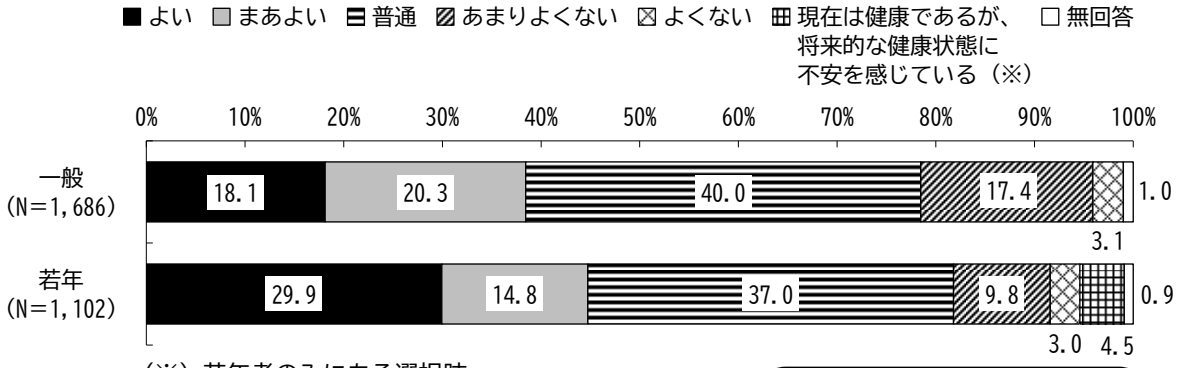
（１）健康状態

対象：『一般高齢者』、『若年者』

健康状態については、一般高齢者では「普通」が40.0％と最も多く、次いで「まあよい」が20.3％、「よい」が18.1％となっている。

若年者では、一般高齢者と選択肢の数が異なるが、「普通」が37.0％と最も多い。次いで「よい」が29.9％、「まあよい」が14.8％、「あまりよくない」9.8％、「現在は健康であるが、将来的な健康状態に不安を感じている」が4.5％となっている。

普通以上と感じている人の割合（「よい」、「まあよい」、「普通」の合計）は、一般高齢者で78.4％、若年者で81.7％となっている。



（※）若年者のみにある選択肢

普通以上
【令和元年度】
一般：７８．８％　若年：８１．３％

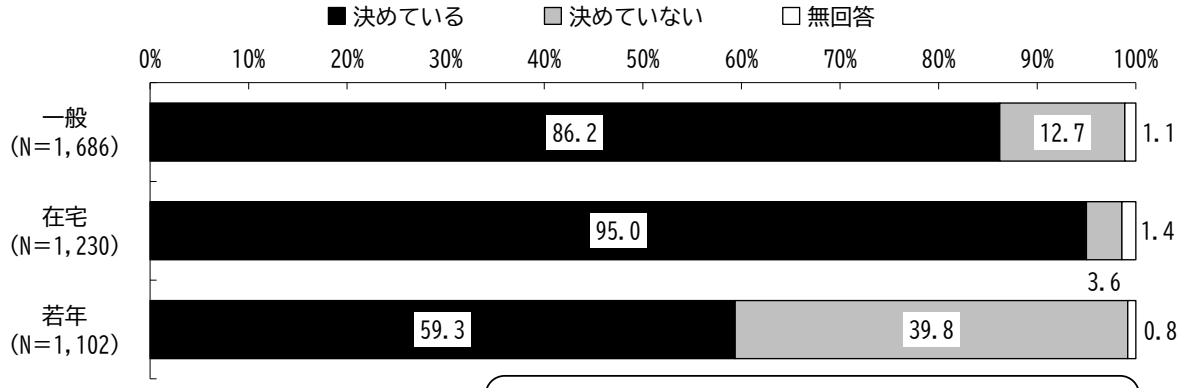
【令和４年度】
一般：７８．４％　若年：８１．７％

（２）かかりつけ医

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

かかりつけ医を「決めている」人の割合は、一般高齢者で86.2％、在宅高齢者で95.0％といずれも8割を超えている。

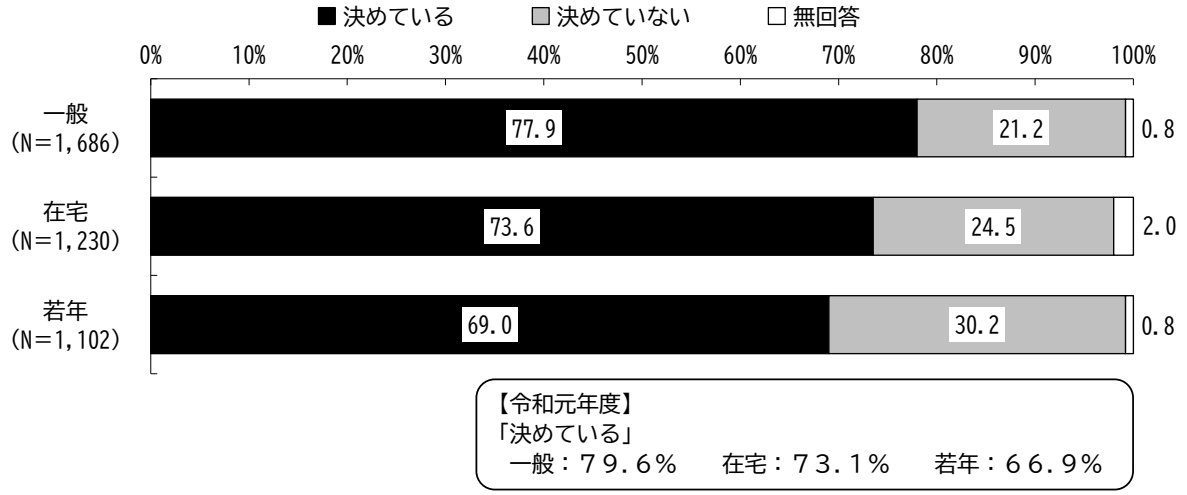
一方、若年者では、かかりつけ医を「決めている」人は59.3％と6割弱にとどまっている。



【令和元年度】
「決めている」
一般：８６．２％　在宅：９５．４％　若年：５９．９％

（３）かかりつけ歯科医
対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

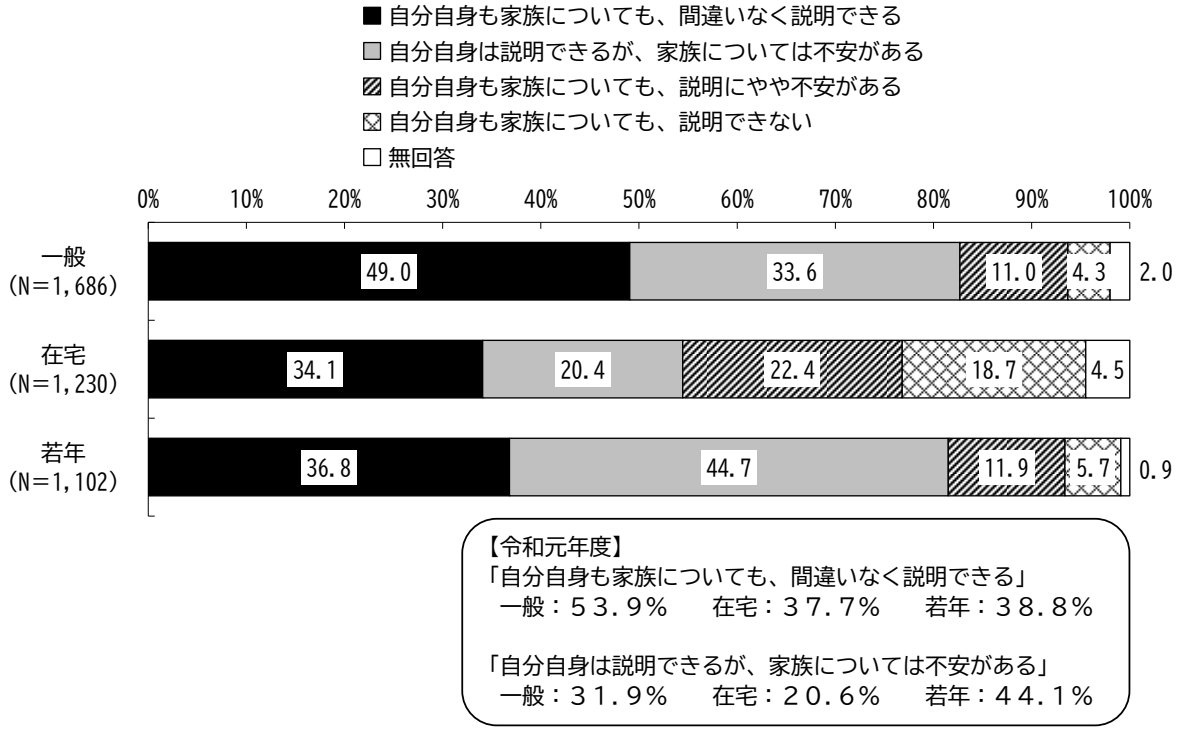
かかりつけ歯科医を「決めている」人は、一般高齢者で77.9%、在宅高齢者で73.6%、若年者で69.0%となっている。



（４）自身や家族の「病気の名前」、「薬の情報」、「医療・介護情報」を説明できるか
対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

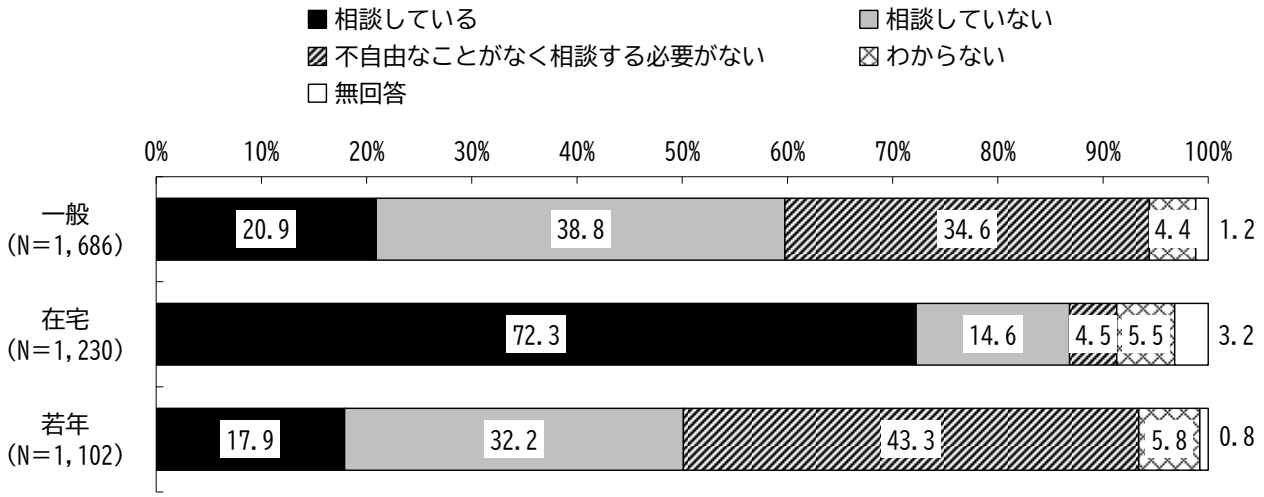
救急搬送の際や入院した際、新しく病院にかかった際に、「病気の名前」、「薬の情報」、「医療・介護情報」を説明できるかについては、一般高齢者、在宅高齢者では「自分自身も家族についても、間違いなく説明できる」が最も多く、一般高齢者で49.0%、在宅高齢者で34.1%となっている。

一方、若年者では「自分自身は説明できるが、家族については不安がある」が最も多く、44.7%となっている。



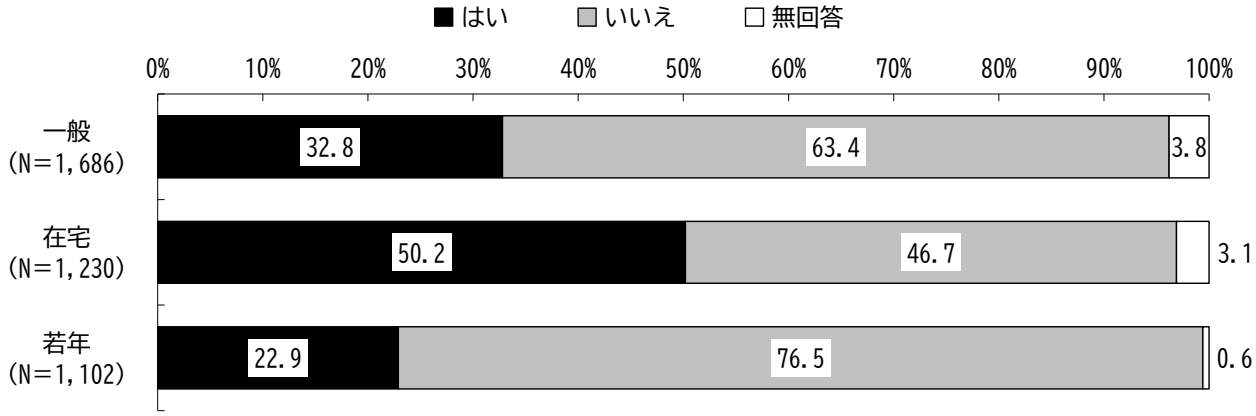
（５）日常生活に不自由さが生じた場合、医療・介護関係者に相談しているか
対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

日常生活に不自由さが生じた場合、リハビリテーションについて医療・介護関係者に相談しているかについては、一般高齢者では「相談していない」が38.8%、在宅高齢者では「相談している」が72.3%、若年者では「不自由なことがなく相談する必要がない」が43.3%と最も多くなっている。



（６）日頃から信頼できる人と人生会議（ＡＣＰ：アドバンス・ケア・プランニング）をしているか
対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

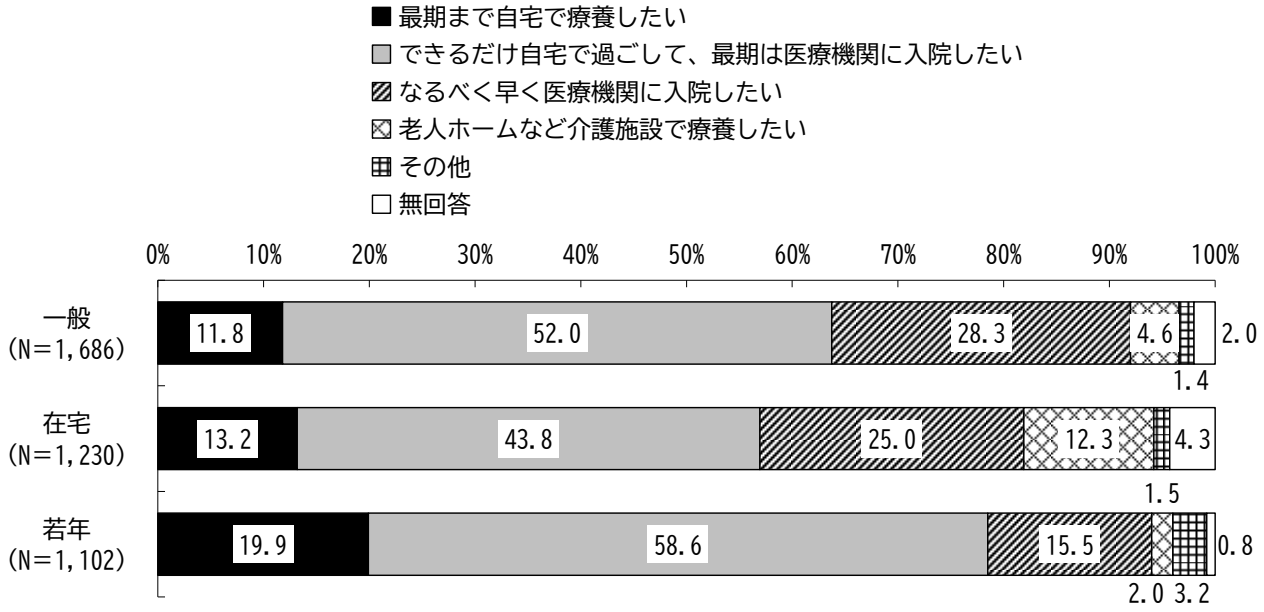
日頃から信頼できる人と人生会議（ＡＣＰ）をしている人は、一般高齢者で32.8%、在宅高齢者で50.2%、若年者で22.9%となっている。



（７）余命6か月と告げられた場合の治療
対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

余命6か月と告げられた場合の治療のあり方については、一般高齢者、在宅高齢者、若年者のいずれも「できるだけ自宅で過ごして、最期は医療機関に入院したい」が最も多く、一般高齢者で52.0%、在宅高齢者で43.8%、若年者で58.6%となっている。

2番目に多い回答は、一般高齢者、在宅高齢者では「なるべく早く医療機関に入院したい」、若年者では「最期まで自宅で療養したい」であった。



【令和元年度】
「最期まで自宅で療養したい」
一般：１１.５%　在宅：１２.４%　若年：１６.３%

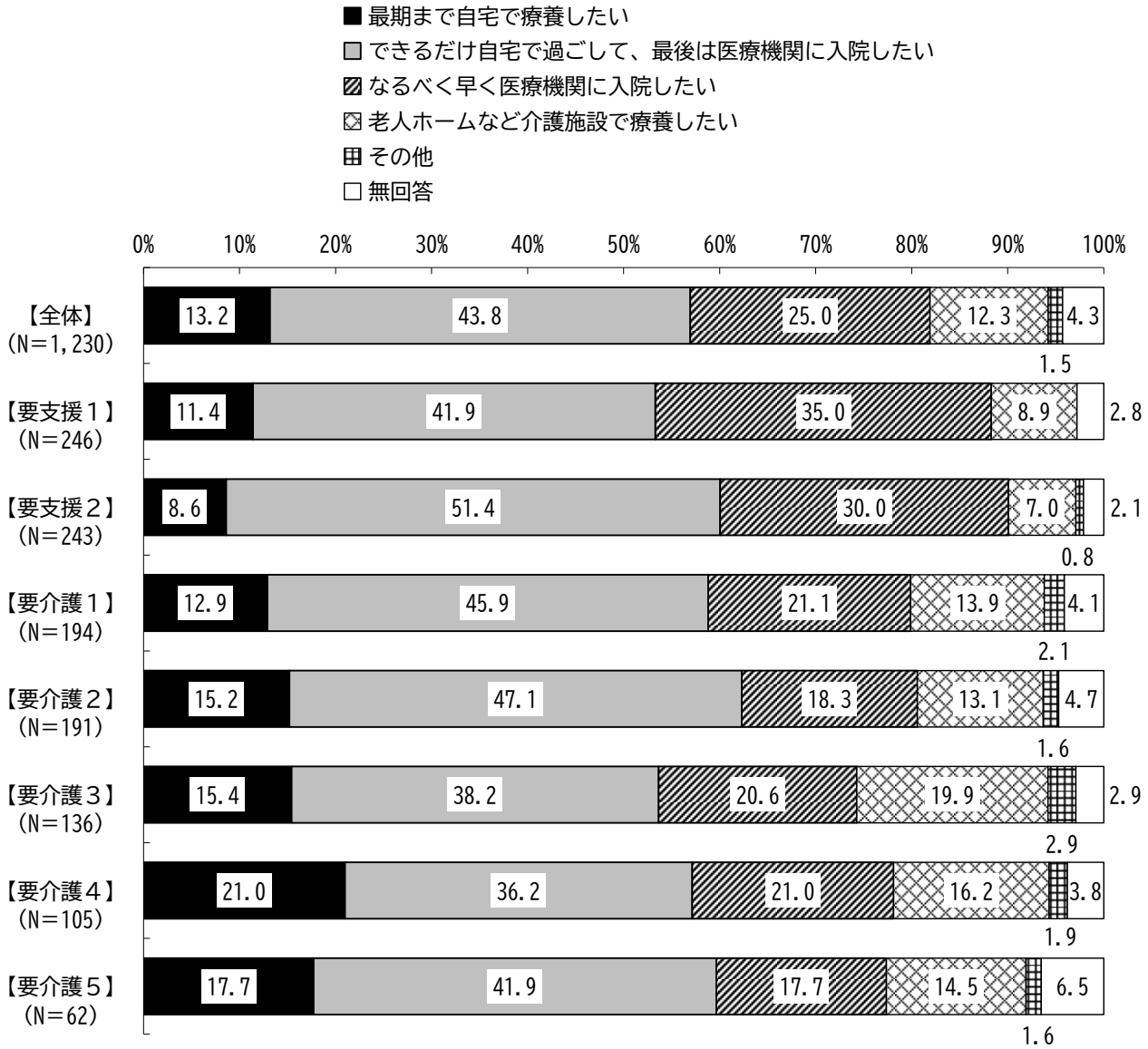
「できるだけ自宅で過ごして、最期は医療機関に入院したい」
一般：５５.３%　在宅：４２.７%　若年：５９.９%

「なるべく早く医療機関に入院したい」
一般：２６.５%　在宅：２６.９%　若年：１８.７%

【属性別特徴】

在宅高齢者について要介護度別にみると、いずれも「できるだけ自宅で過ごして、最期は医療機関に入院したい」が最も多く、要支援2では51.4％と半数を超えている。

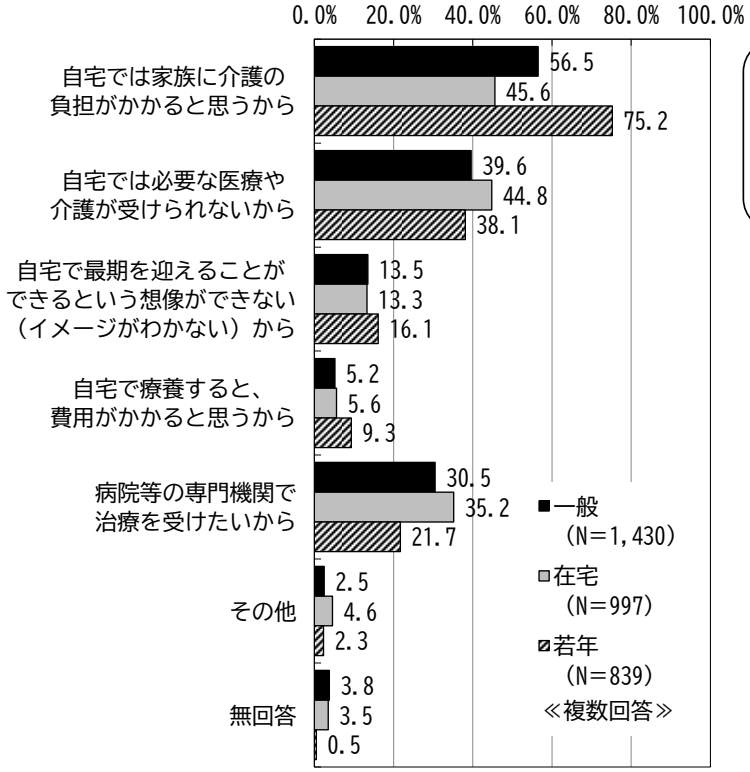
在宅高齢者（要介護度別）



（７）－１　自宅以外の選択理由

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

自宅以外を選択した人に対し、その理由を尋ねたところ、一般高齢者、在宅高齢者、若年者のいずれも「自宅では家族に介護の負担がかかると思うから」が最も多く、次いで「自宅では必要な医療や介護が受けられないから」、「病院等の専門機関で治療を受けたいから」の順となっている。



【令和元年度】
「自宅では家族に介護の負担がかかると思うから」
一般：６１.１％　在宅：４６.６％　若年：７３.５％

「自宅では必要な医療や介護が受けられないから」
一般：３６.７％　在宅：４０.３％　若年：３７.４％

【属性別特徴】

在宅高齢者について要介護度別にみると、要支援1、要介護1、要介護5では「自宅では必要な医療や介護が受けられないから」が最も多く、要支援2、要介護2～4では「自宅では家族に介護の負担がかかると思うから」が最も多くなっている。

在宅高齢者（要介護度別）

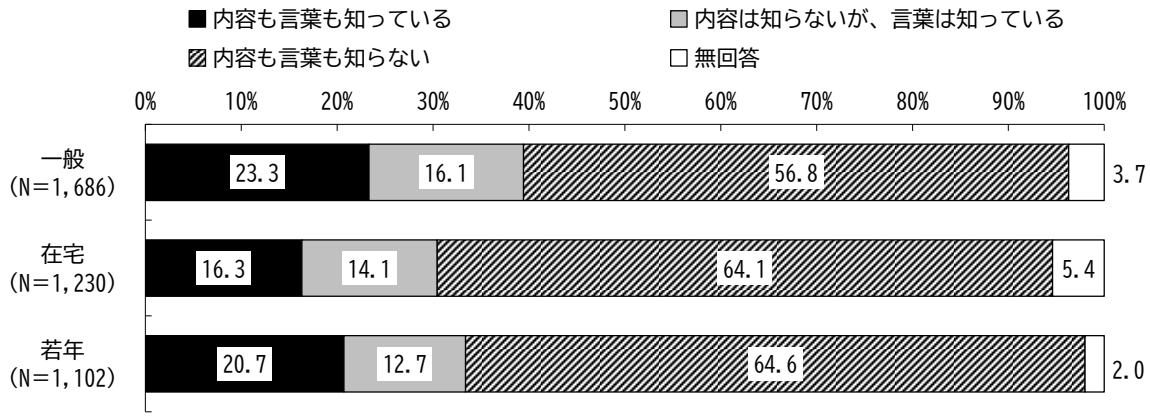
		合計	自宅では家族に介護の負担がかかると思うから	自宅では必要な医療や介護が受けられないから	自宅で最期を迎えることができるという想像ができないから	自宅で療養すると、費用がかかると思うから	病院等の専門機関で治療を受けたいから	その他	無回答
全体		997	45.6%	44.8%	13.3%	5.6%	35.2%	4.6%	3.5%
要介護度別	要支援１	211	40.8%	43.6%	18.5%	4.7%	42.2%	6.2%	2.4%
	要支援２	215	49.3%	46.0%	14.9%	6.5%	41.4%	4.2%	4.2%
	要介護１	157	42.0%	44.6%	15.3%	3.8%	32.5%	3.8%	2.5%
	要介護２	150	49.3%	48.0%	7.3%	2.7%	22.0%	4.0%	2.0%
	要介護３	107	49.5%	43.0%	12.1%	10.3%	40.2%	4.7%	4.7%
	要介護４	77	44.2%	40.3%	10.4%	9.1%	27.3%	3.9%	6.5%
	要介護５	46	45.7%	56.5%	4.3%	8.7%	26.1%	4.3%	4.3%

２．介護予防

（１）フレイルの認知度

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

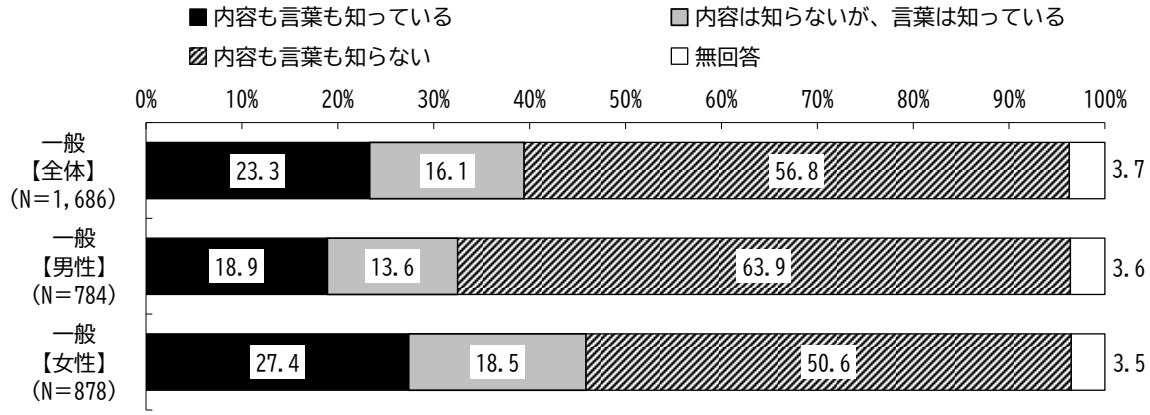
フレイルの認知度について、「内容も言葉も知っている」と「内容は知らないが、言葉は知っている」を合わせた『言葉は知っている』の割合は、一般高齢者で39.4%、在宅高齢者で30.4%、若年者で33.4%となっている。



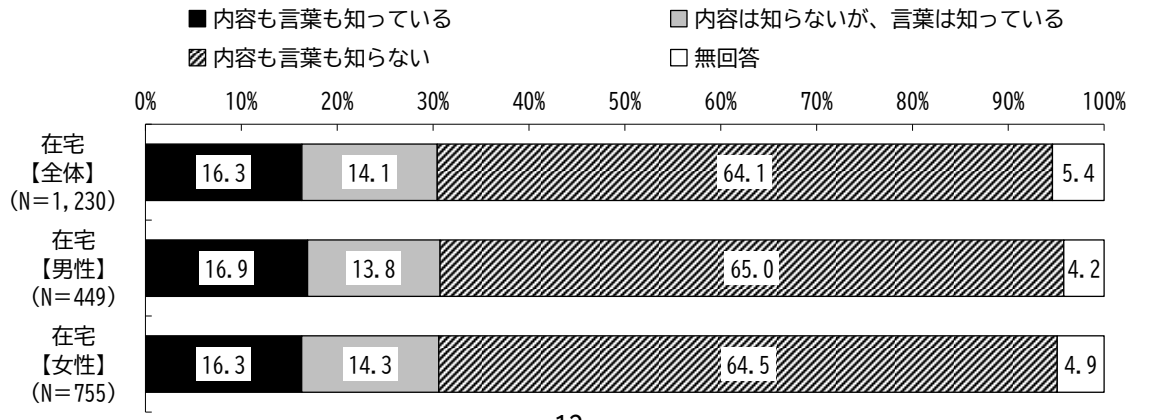
【属性別特徴】

男女別にみると、一般高齢者、若年者では『言葉は知っている』の割合は、女性の方が男性に比べ高くなっている。

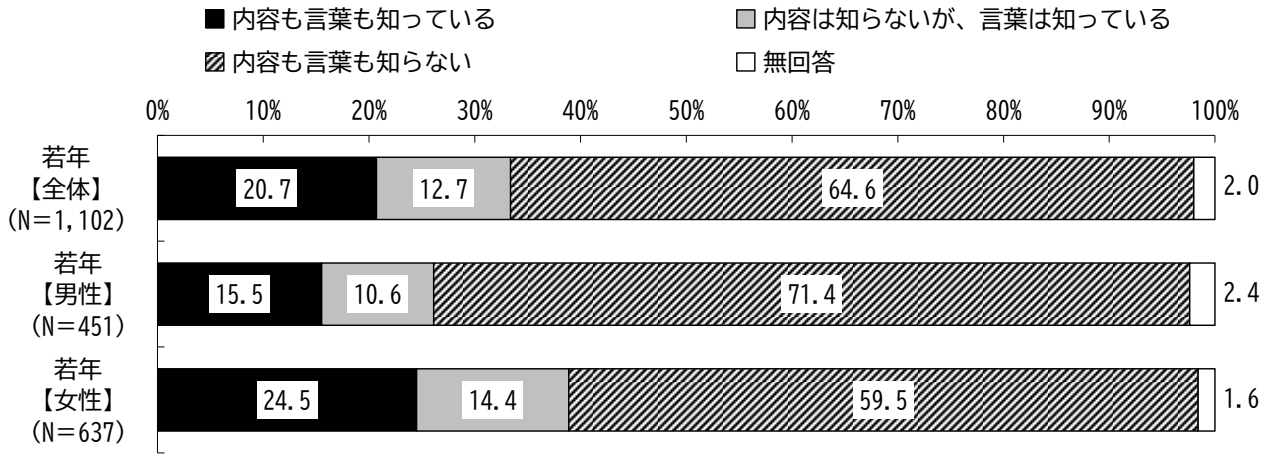
一般高齢者（男女別）



在宅高齢者（男女別）



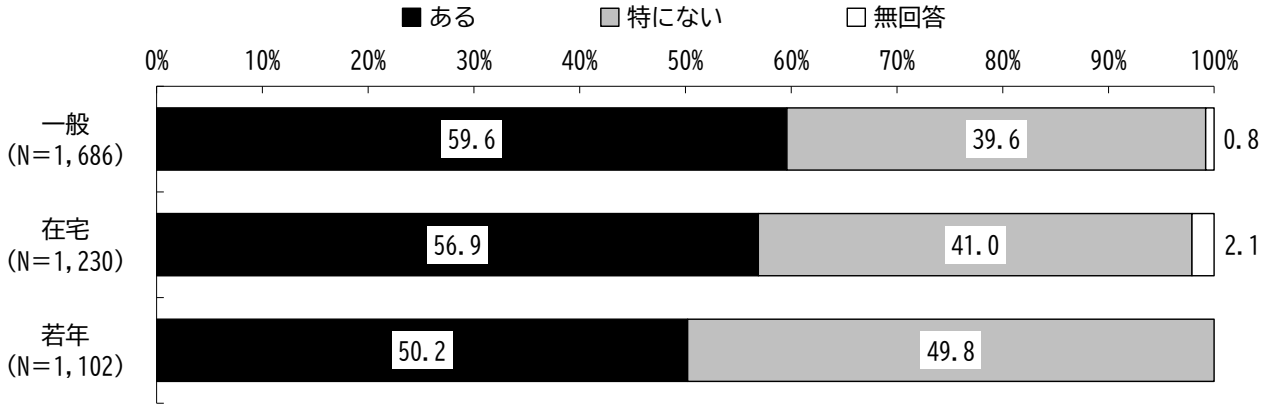
若年者（男女別）



（２）介護予防（フレイル予防）の取り組み状況

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

健康づくりや介護予防（フレイル予防）のために、日ごろから取り組んでいることがあるかどうか尋ねたところ、「ある」の割合は一般高齢者で59.6％、在宅高齢者で56.9％、若年者で50.2％となっている。

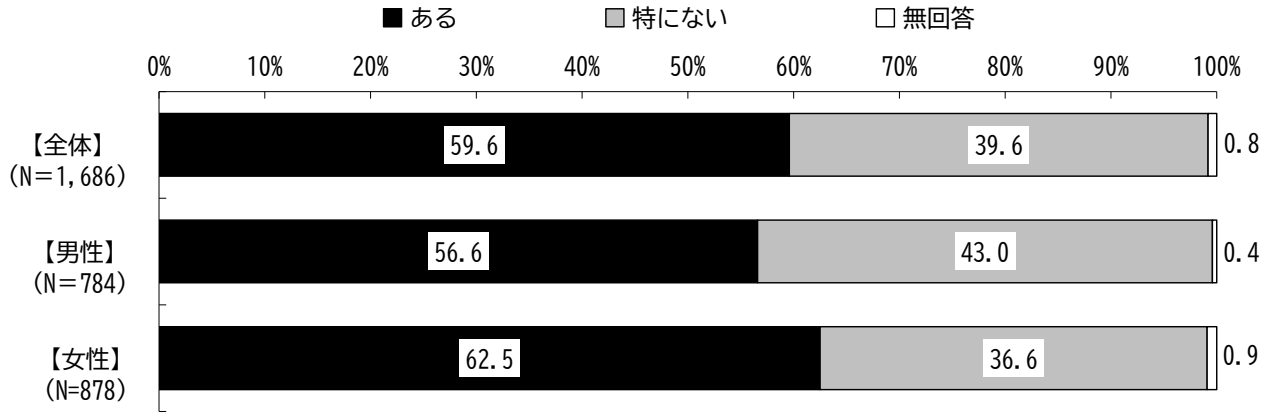


【令和元年度】
「ある」
一般：６２．６％　在宅：５３．２％　若年：４６．６％

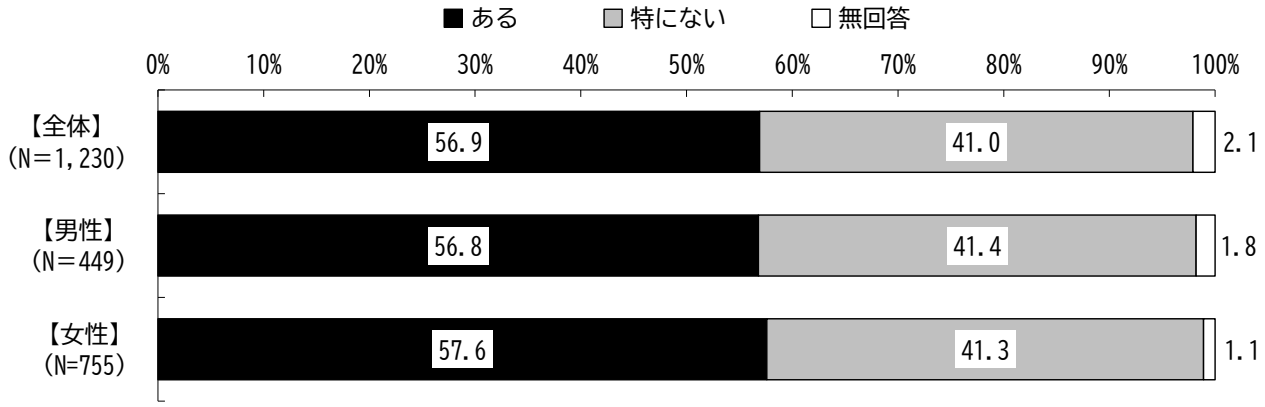
【属性別特徴】

男女別にみると、一般高齢者、在宅高齢者、若年者いずれも「ある」の割合は女性の方が男性に比べやや高くなっている。

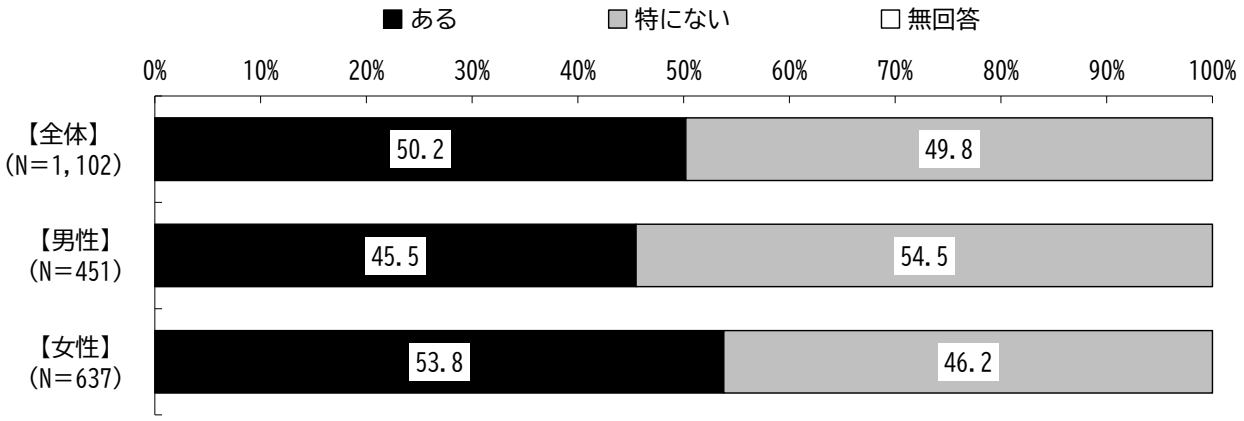
一般高齢者（男女別）



在宅高齢者（男女別）



若年者（男女別）



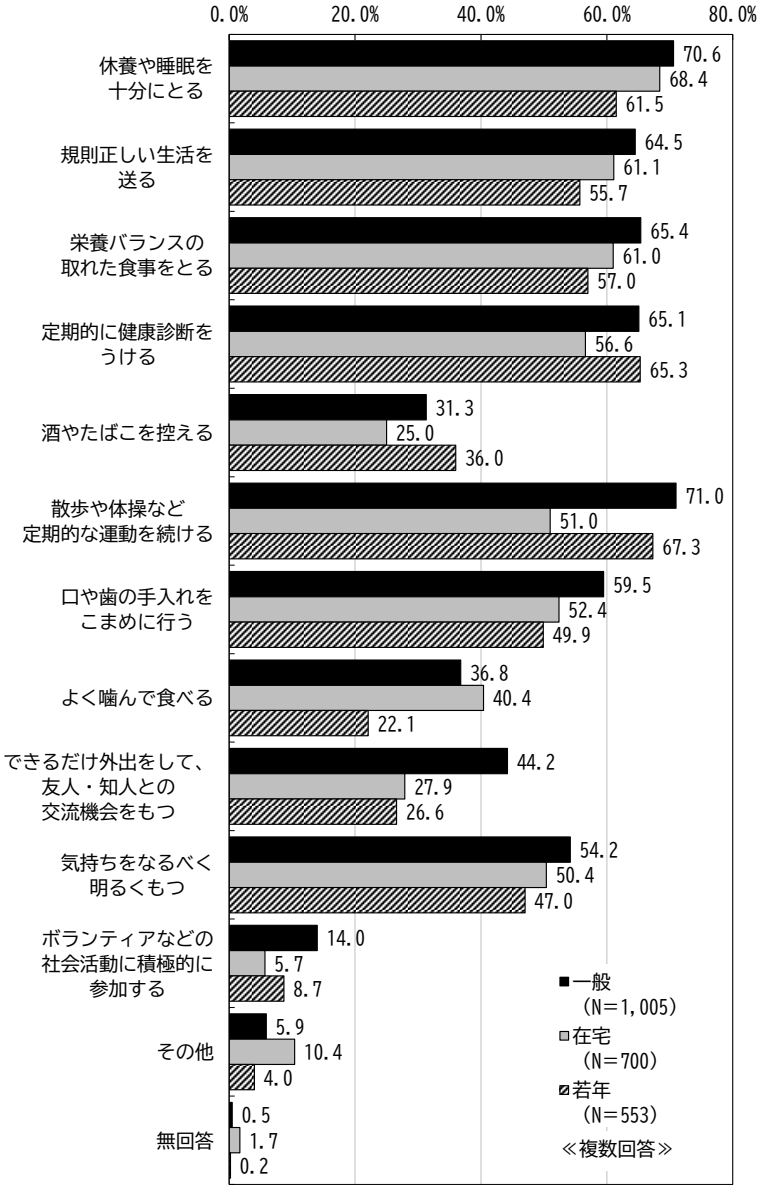
（２）－１　介護予防（フレイル予防）の取り組み内容

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

介護予防（フレイル予防）に日ごろから取り組んでいることが「ある」と回答した人に対し、その内容を尋ねたところ、一般高齢者では「散歩や体操など定期的な運動を続ける」が71.0％と最も多く、次いで「休養や睡眠を十分にとる」が70.6％、「栄養バランスの取れた食事をとる」が65.4％となっている。

在宅高齢者では「休養や睡眠を十分にとる」が68.4％で最も多く、次いで「規則正しい生活を送る」が61.1％、「栄養バランスの取れた食事をとる」が61.0％となっている。

若年者では「散歩や体操など定期的な運動を続ける」が67.3％で最も多く、次いで「定期的に健康診断をうける」が65.3％、「休養や睡眠を十分にとる」が61.5％となっている。



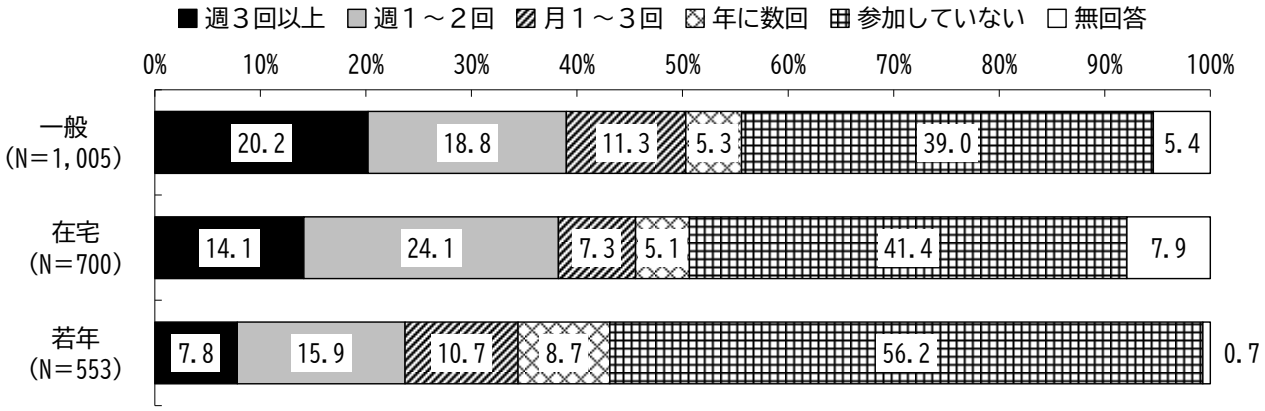
【令和元年度】
一般：６８．９％「散歩や体操など定期的な運動を続ける」
　　６７．３％「栄養バランスの取れた食事をとる」
　　６４．６％「休養や睡眠を十分にとる」

在宅：６２．１％「休養や睡眠を十分にとる」
　　６０．５％「栄養バランスの取れた食事をとる」
　　５４．０％「規則正しい生活を送る」

若年：６６．０％「散歩や体操など定期的な運動を続ける」
　　５９．１％「栄養バランスの取れた食事をとる」
　　５７．２％「休養や睡眠を十分にとる」

（２）－２　「通いの場」への参加頻度
対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

介護予防（フレイル予防）に日ごろから取り組んでいることが「ある」と回答した人に対し、「通いの場」への参加頻度を尋ねたところ、「週3回以上」の割合は一般高齢者で20.2%、在宅高齢者で14.1%、若年者で7.8%、「週1～2回」の割合は一般高齢者で18.8%、在宅高齢者で24.1%、若年者で15.9%となっている。

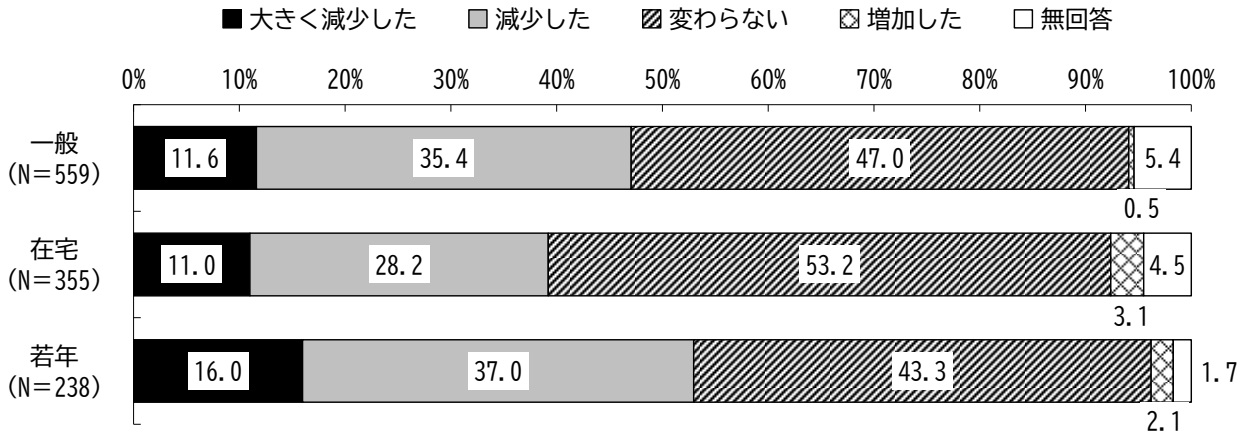


『月１回以上』（「週３回以上」+「週１～２回」+「月１～３回」の合計）
【令和元年度】
一般：５７.７%　在宅：５３.０%　若年：４７.５%
【令和４年度】
一般：５０.３%　在宅：４５.５%　若年：３４.４%

「年に数回」
【令和元年度】
一般：２０.９%　在宅：１８.５%　若年：３７.３%

（２）－３　新型コロナウイルス感染症流行前と比較した参加頻度の変化
対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

「通いの場」へ参加していると回答した人に対し、新型コロナウイルス感染症流行前と比較した「通いの場」への参加頻度の変化を尋ねたところ、「大きく減少した」と「減少した」の合計は一般高齢者で47.0%、在宅高齢者で39.2%、若年者で53.0%となっている。



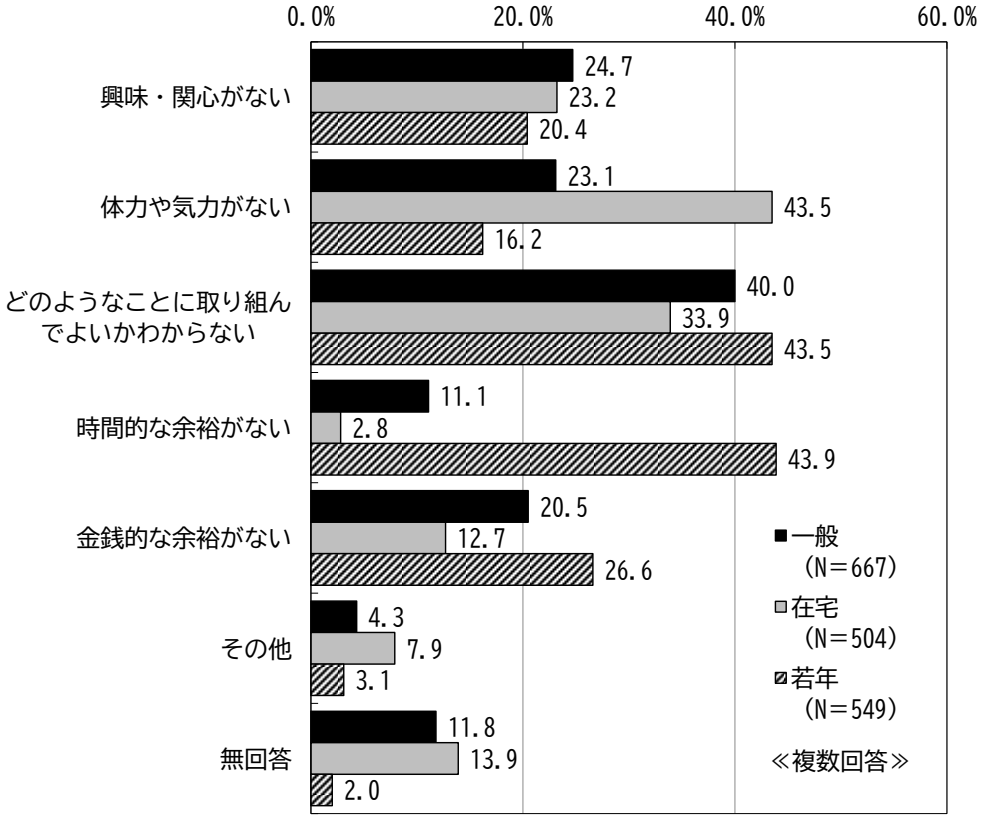
（２）－４　介護予防（フレイル予防）に取り組まない理由

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

介護予防（フレイル予防）に日ごろから取り組んでいることが「特にない」と回答した人に理由を尋ねたところ、一般高齢者では「どのようなことに取り組んでよいかわからない」が40.0％と最も多く、次いで「興味・関心がない」が24.7％、「体力や気力がない」が23.1％となっている。

在宅高齢者では「体力や気力がない」が43.5％と最も多く、次いで「どのようなことに取り組んでよいかわからない」が33.9％、「興味・関心がない」が23.2％となっている。

若年者では「時間的な余裕がない」が43.9％と最も多く、次いで「どのようなことに取り組んでよいかわからない」が43.5％、「金銭的な余裕がない」が26.6％となっている。

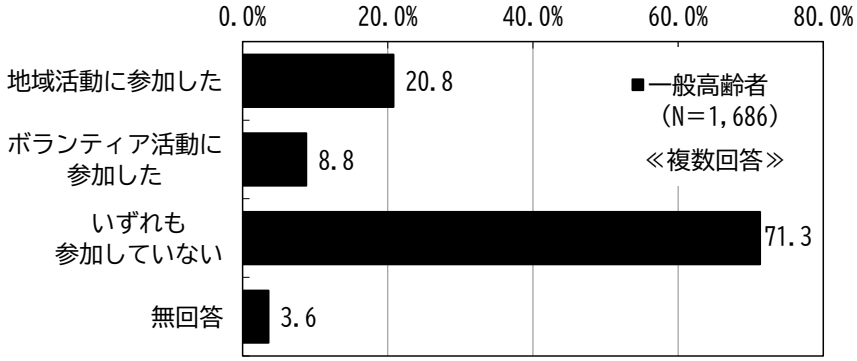


３．生きがい・社会参加

（１）地域活動の状況

対象：『一般高齢者』

この1年間に、自治会やまちづくり協議会、老人クラブなどの地域活動に参加したかどうかを尋ねたところ、「地域活動に参加した」が20.8％、「ボランティア活動に参加した」が8.8％、「いずれも参加していない」が71.3％であった。



【令和元年度】
「地域活動に参加した」
一般：２５．７％

「ボランティア活動に参加した」
一般：１０．３％

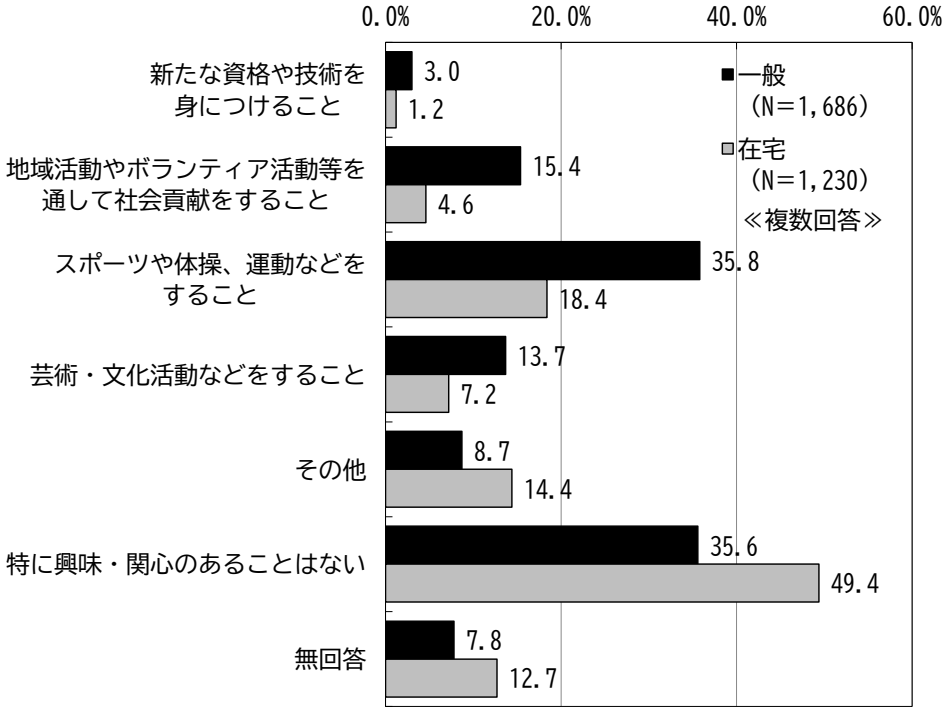
「いずれも参加していない」
一般：６４．０％

（２）興味・関心のあること、今後取り組んでみたいこと

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

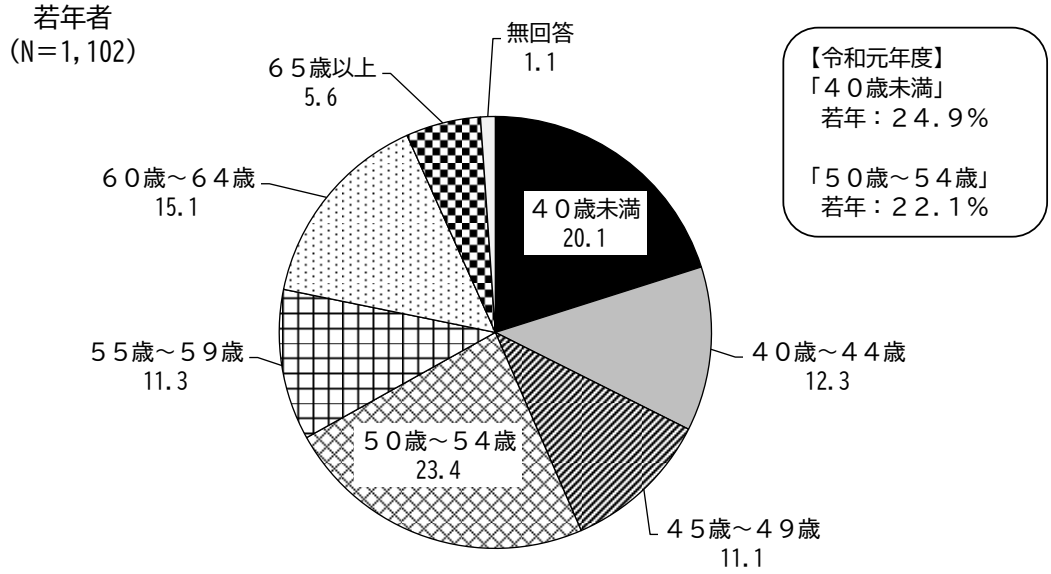
興味・関心があること、今後取り組みたいことについて尋ねたところ、一般高齢者では「スポーツや体操、運動などをすること」が35.8％と最も多く、次いで「特に興味・関心のあることはない」が35.6％となっている。

在宅高齢者では「特に興味・関心のあることはない」が49.4％と最も多く、次いで「スポーツや体操、運動などをすること」が18.4％となっている。



（３）老後に向けての準備開始時期
対象：『若年者』

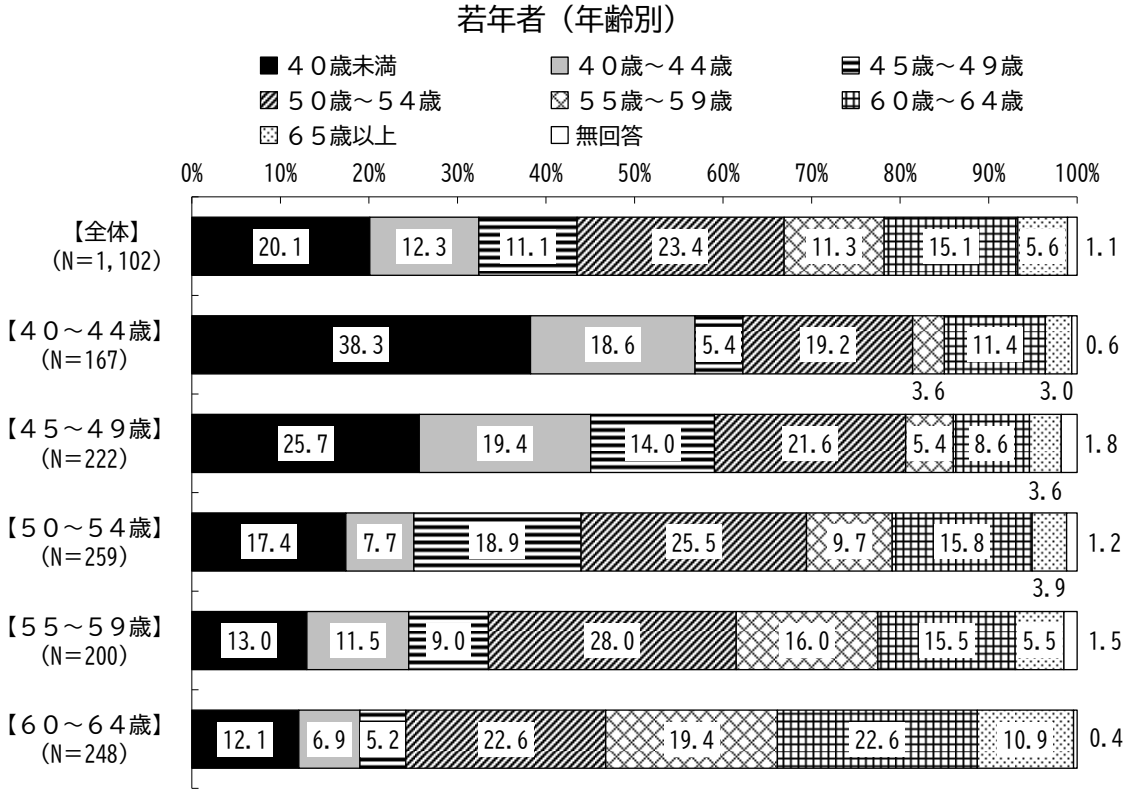
自身が老後に向けての準備（健康づくり、趣味、貯蓄など）を何歳から始めたか、あるいは何歳から始めたらよいと思うか尋ねたところ、「50歳～54歳」が23.4％と最も多く、次いで「40歳未満」が20.1％となっている。



【属性別特徴】

若年者について年齢別にみると、49歳以下の年齢層では「40歳未満」との回答が最も多くなっている。

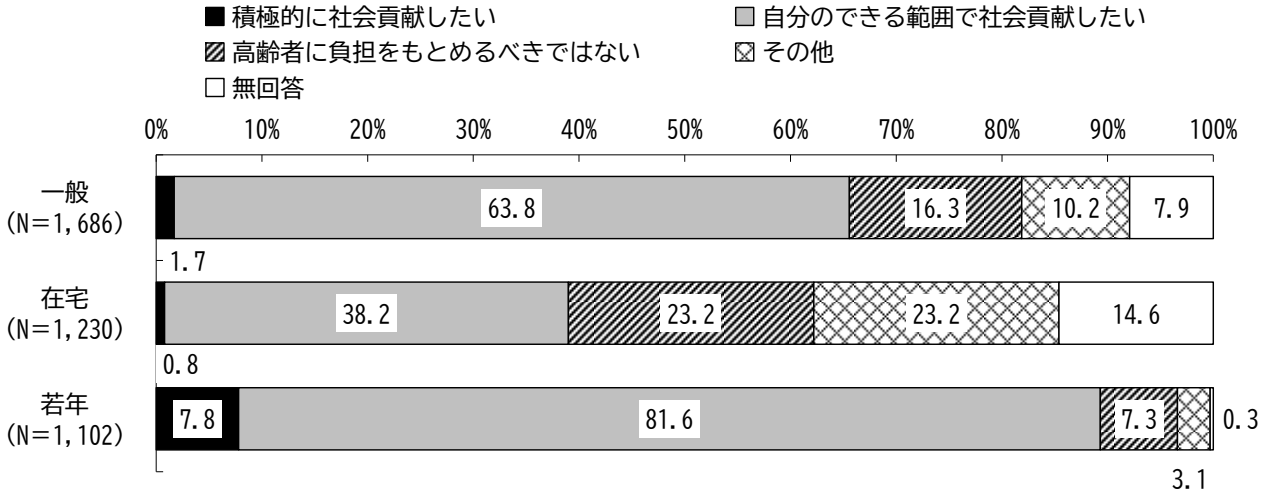
おおむね若い年齢ほど、若いうちから始めた（始めたらよいと思う）割合が高い傾向がみられる。



（４）高齢者（高齢者になった時）の社会貢献

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

高齢化が進む中、高齢者（高齢者となった時）としての社会貢献についてどのように考えるか尋ねたところ、「自分のできる範囲で社会貢献したい」が最も多く、一般高齢者で63.8%、在宅高齢者で38.2%、若年者で81.6%となっている。



【令和元年度】
「積極的に社会貢献したい」
一般：２.２％　在宅：１.０％　若年：５.９％

「自分のできる範囲で社会貢献したい」
一般：７０.３％　在宅：４２.２％　若年：８５.４％

「高齢者に負担をもとめるべきではない」
一般：１１.８％　在宅：２２.６％　若年：５.３％

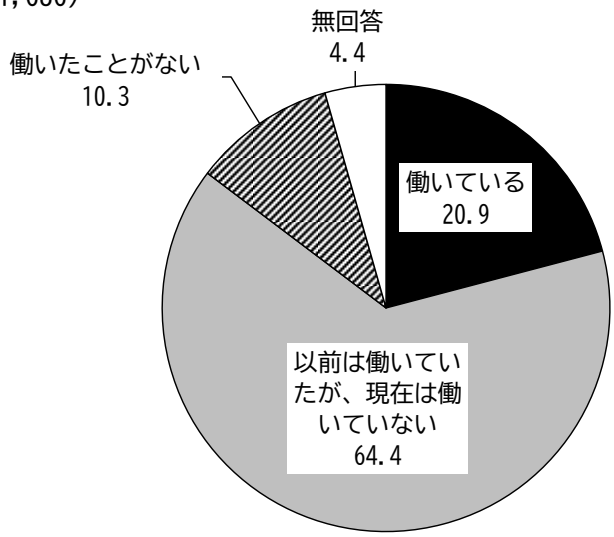
４．就労

（１）就労状況

対象：『一般高齢者』

就労状況については、「以前は働いていたが、現在は働いていない」が64.4％で最も多く、次いで「働いている」が20.9％、「働いたことがない」が10.3％となっている。

一般高齢者
（N＝1,686）



【令和元年度】
「働いている」
一般：２９．８％

「以前は働いていたが、現在は働いていない」
一般：５７．４％

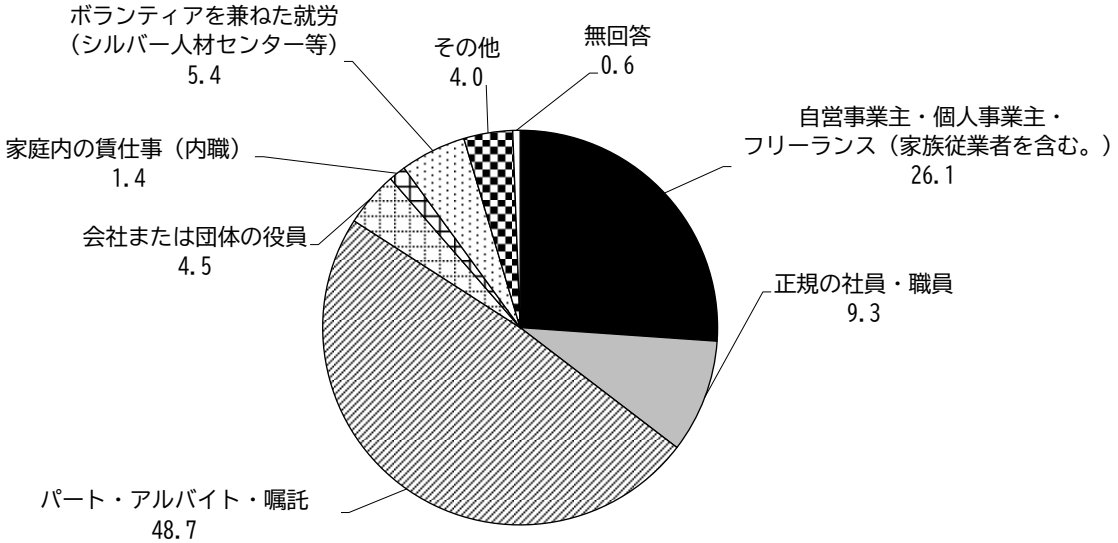
「働いたことがない」
一般：７．７％

（１）－１　就労形態

対象：『一般高齢者』

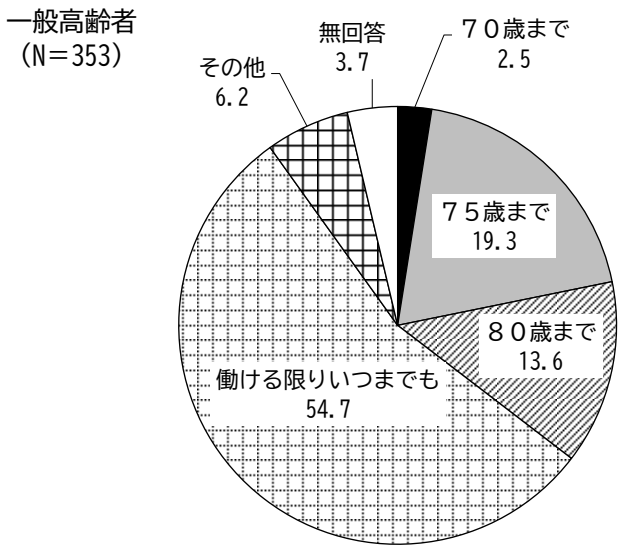
「働いている」と回答した人に就労形態を尋ねたところ、「パート・アルバイト・嘱託」が48.7％と最も多く、次いで「自営事業主・個人事業主・フリーランス（家族従業員を含む。）」が26.1％、「正規の社員・職員」が9.3％となっている。

一般高齢者
（N＝353）



（１）－２　いくつまで働きたいか
対象：『一般高齢者』

「働いている」と回答した人にいくつまで働きたいか尋ねたところ、「働ける限りいつまでも」が54.7％と最も多く、次いで「75歳まで」が19.3％、「80歳まで」が13.6％となっている。



【令和元年度】
「７０歳まで」
一般：１４．３％

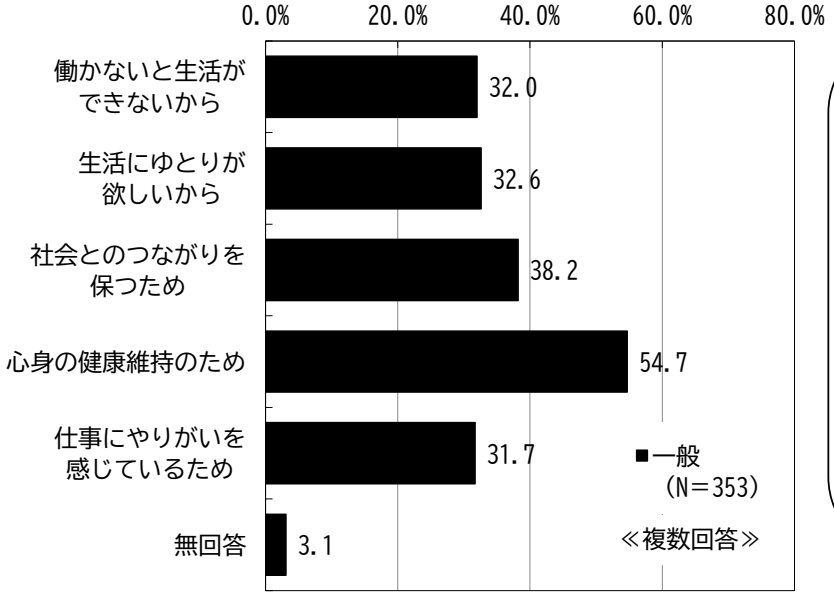
「７５歳まで」
一般：２５．５％

「８０歳まで」
一般：８．５％

「働ける限りいつまでも」
一般：４５．３％

（１）－３　働く目的
対象：『一般高齢者』

「働いている」と回答した人に働く目的を尋ねたところ、「心身の健康維持のため」が54.7％と最も多く、次いで「社会とのつながりを保つため」が38.2％、「生活にゆとりが欲しいから」が32.6％、「働かないと生活ができないから」が32.0％、「仕事にやりがいを感じているため」が31.7％となっている。



【令和元年度】
「働かないと生活ができないから」
３２．７％

「生活にゆとりが欲しいから」
４２．３％

「社会とのつながりを保つため」
３４．０％

「心身の健康維持のため」
５３．５％

「仕事にやりがいを感じているため」
３５．２％

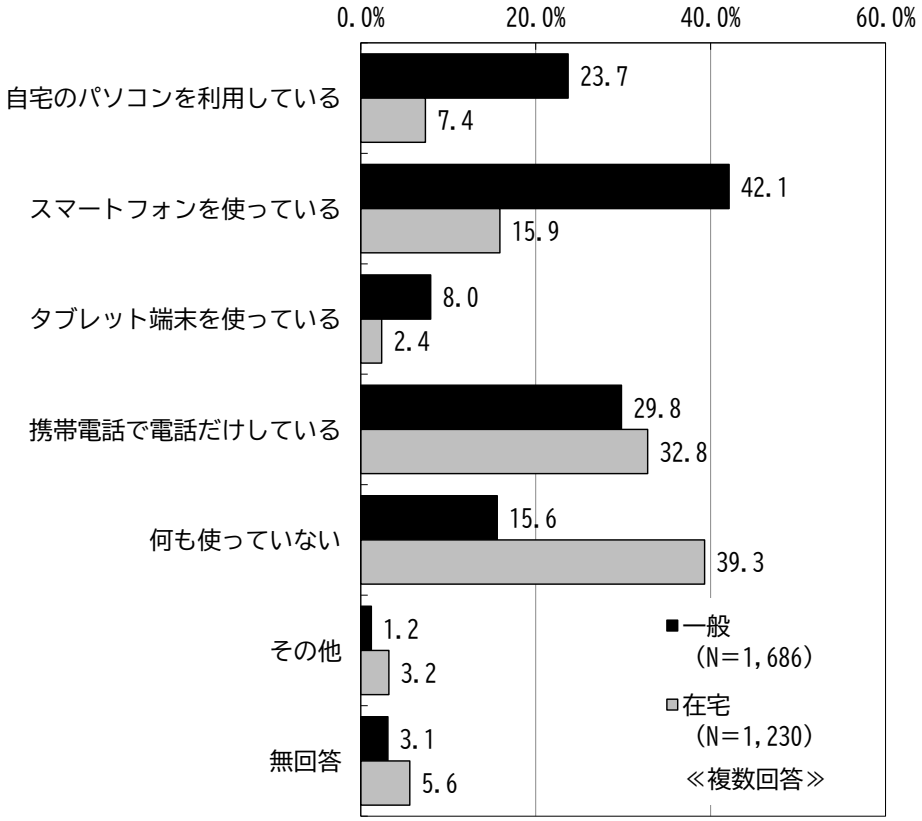
５．ＩＴリテラシー

（１）インターネット等の活用状況

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

インターネット等の活用状況について尋ねたところ、一般高齢者では「スマートフォンを使っている」が42.1％と最も多く、次いで「携帯電話で電話だけしている」が29.8％、「自宅のパソコンを利用している」が23.7％となっている。

在宅高齢者では「何も使っていない」が39.3％と最も多く、次いで「携帯電話で電話だけしている」が32.8％、「スマートフォンを使っている」が15.9％となっている。



【令和元年度】
「スマートフォンを使っている」
一般：３５．９％　　在宅：７．２％

【属性別特徴】

「スマートフォンを使っている」、「携帯電話で電話だけしている」と回答した人について、年齢別にみると、「スマートフォンを使っている」の割合は、一般高齢者では70～74歳で6割を超えている。

また、一般高齢者、在宅高齢者いずれも年齢が高くなるにつれて「スマートフォンを使っている」の割合は低くなる傾向にある。

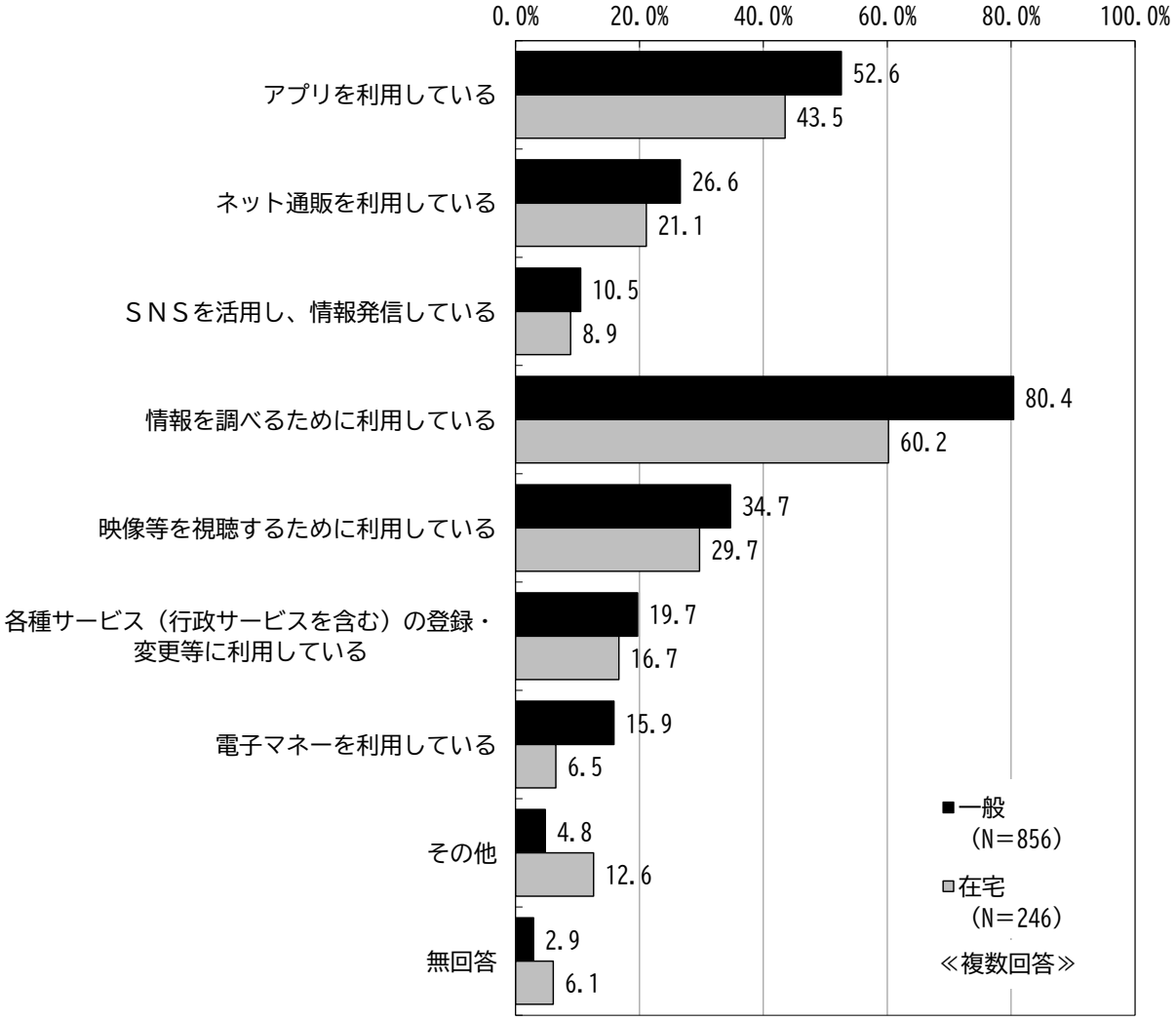
一般高齢者・在宅高齢者（年齢別）

		スマートフォンを使っている			携帯電話で電話だけしている		
		高齢者全体	一般高齢者	在宅高齢者	高齢者全体	一般高齢者	在宅高齢者
全体 （高齢者全体　N＝2,916） （一般高齢者　N＝1,686） （在宅高齢者　N＝1,230）		31.0%	42.1%	15.9%	31.1%	29.8%	32.8%
年齢別	６５～６９歳 （高齢者全体　N＝148） （一般高齢者　N＝65） （在宅高齢者　N＝83）	38.5%	44.6%	33.7%	27.0%	29.2%	25.3%
	７０～７４歳 （高齢者全体　N＝524） （一般高齢者　N＝413） （在宅高齢者　N＝111）	53.6%	60.8%	27.0%	22.1%	19.6%	31.5%
	７５～７９歳 （高齢者全体　N＝591） （一般高齢者　N＝468） （在宅高齢者　N＝123）	44.0%	49.1%	24.4%	30.6%	28.2%	39.8%
	８０～８４歳 （高齢者全体　N＝507） （一般高齢者　N＝330） （在宅高齢者　N＝177）	31.4%	35.2%	24.3%	32.1%	32.1%	32.2%
	８５～８９歳 （高齢者全体　N＝696） （一般高齢者　N＝332） （在宅高齢者　N＝364）	17.5%	22.6%	12.9%	39.1%	41.3%	37.1%
	９０～９４歳 （高齢者全体　N＝261） （一般高齢者　N＝49） （在宅高齢者　N＝212）	6.9%	12.2%	5.7%	37.2%	40.8%	36.3%
	９５～９９歳 （高齢者全体　N＝118） （一般高齢者　N＝11） （在宅高齢者　N＝107）	3.4%	－	3.7%	22.0%	36.4%	20.6%
	１００歳以上 （高齢者全体　N＝50） （一般高齢者　N＝10） （在宅高齢者　N＝40）	2.0%	－	2.5%	18.0%	20.0%	17.5%

（１）－１　利用目的

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

インターネット等の利用目的について尋ねたところ、一般高齢者、在宅高齢者いずれも「情報を調べるために利用している」が最も多く、一般高齢者で80.4％、在宅高齢者で60.2％となっている。次いで「アプリを利用している」（一般高齢者：52.6％、在宅高齢者：43.5％）、「映像等を視聴するために利用している」（一般高齢者：34.7％、在宅高齢者：29.7％）となっている。



【属性別特徴】

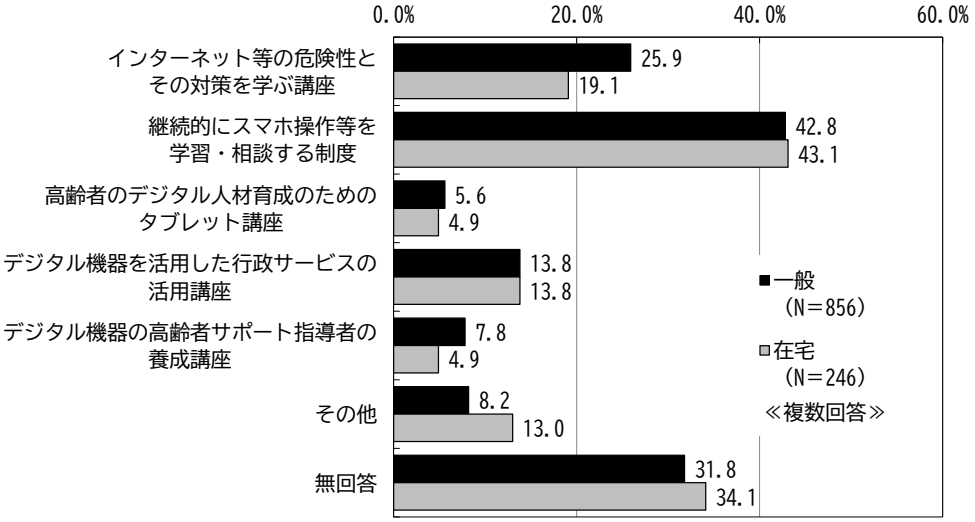
「アプリを利用している」、「情報を調べるために利用している」と回答した人について、年齢別にみると、「アプリを利用している」の割合は、一般高齢者では70～74歳で6割を超えている。また、「情報を調べるために利用している」の割合は、一般高齢者では70～74歳で9割弱と高くなっている。

一般高齢者・在宅高齢者（年齢別）

		アプリを利用している			情報を調べるために利用している		
		高齢者全体	一般高齢者	在宅高齢者	高齢者全体	一般高齢者	在宅高齢者
全体 （高齢者全体　N＝1,102） （一般高齢者　N＝856） （在宅高齢者　N＝246）		50.5%	52.6%	43.5%	75.9%	80.4%	60.2%
年齢別	６５～６９歳 （高齢者全体　N＝71） （一般高齢者　N＝37） （在宅高齢者　N＝34）	53.5%	48.6%	58.8%	74.6%	78.4%	70.6%
	７０～７４歳 （高齢者全体　N＝318） （一般高齢者　N＝281） （在宅高齢者　N＝37）	61.6%	63.7%	45.9%	87.4%	89.3%	73.0%
	７５～７９歳 （高齢者全体　N＝316） （一般高齢者　N＝281） （在宅高齢者　N＝35）	48.7%	50.2%	37.1%	78.5%	80.8%	60.0%
	８０～８４歳 （高齢者全体　N＝201） （一般高齢者　N＝150） （在宅高齢者　N＝51）	45.3%	46.7%	41.2%	68.2%	69.3%	64.7%
	８５～８９歳 （高齢者全体　N＝157） （一般高齢者　N＝98） （在宅高齢者　N＝59）	39.5%	38.8%	40.7%	65.6%	72.4%	54.2%
	９０～９４歳 （高齢者全体　N＝27） （一般高齢者　N＝7） （在宅高齢者　N＝20）	51.9%	42.9%	55.0%	40.7%	57.1%	35.0%
	９５～９９歳 （高齢者全体　N＝8） （一般高齢者　N＝0） （在宅高齢者　N＝8）	12.5%	－	12.5%	37.5%	－	37.5%
	１００歳以上 （高齢者全体　N＝2） （一般高齢者　N＝0） （在宅高齢者　N＝2）	－	－	－	50.0%	－	50.0%

（１）－２　利用したい講座や制度
対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

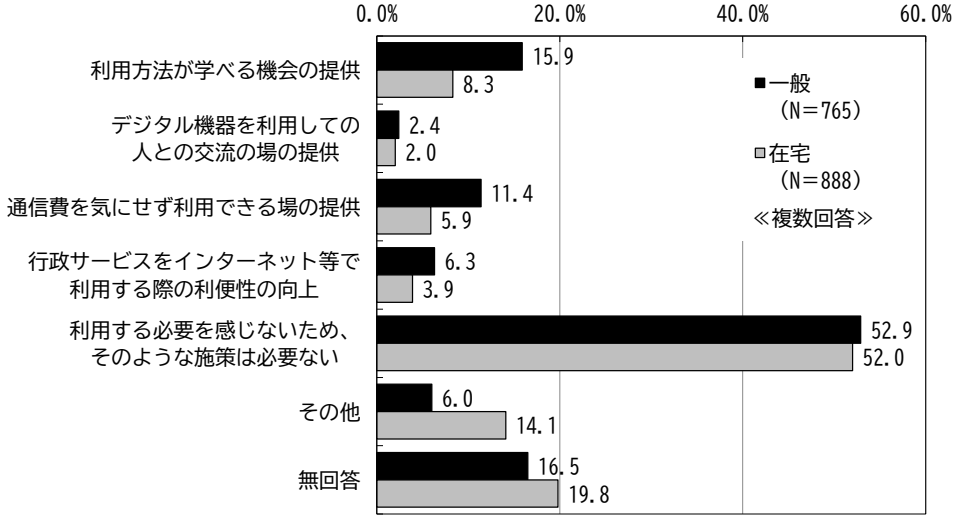
「自宅のパソコンを利用している」、「スマートフォンを使っている」、「タブレット端末を使っている」と回答した人に、利用したい講座や制度について尋ねたところ、一般高齢者、在宅高齢者いずれも「継続的にスマホ操作等を学習・相談する制度」が最も多く、一般高齢者で42.8%、在宅高齢者で43.1%となっている。次いで「インターネット等の危険性とその対策を学ぶ講座」（一般高齢者：25.9%、在宅高齢者：19.1%）、「デジタル機器を活用した行政サービスの活用講座」（一般高齢者、在宅高齢者ともに13.8%）となっている。



（１）－３　インターネット等を利用したいと思うきっかけ
対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

「携帯電話で電話だけしている」、「何も使っていない」と回答した人に、インターネット等を利用したいと思うきっかけについて尋ねたところ、一般高齢者では「利用する必要を感じないため、そのような施策は必要ない」が52.9%と最も多く、次いで「利用方法が学べる機会の提供」が15.9%、「通信費を気にせず利用できる場の提供」が11.4%となっている。

在宅高齢者では「利用する必要を感じないため、そのような施策は必要ない」が52.0%と最も多く、次いで「その他」が14.1%、「利用方法が学べる機会の提供」が8.3%となっている。



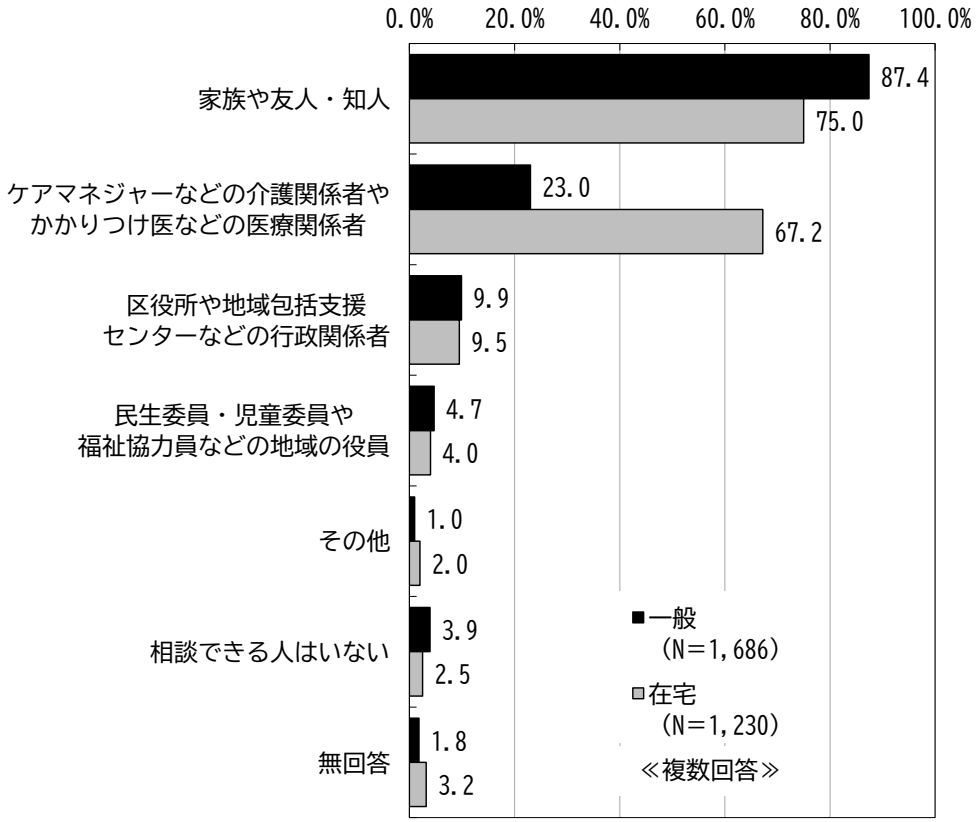
６．地域との関わり・支援の状況

（１）相談できる人

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

介護や病気などで困ったときに相談できる人について尋ねたところ、「家族や友人・知人」が一般高齢者で87.4％、在宅高齢者で75.0％と最も多くなっている。

また在宅高齢者では、「ケアマネジャーなどの介護関係者やかかりつけ医などの医療関係者」が67.2％と一般高齢者に比べて大幅に高くなっている。



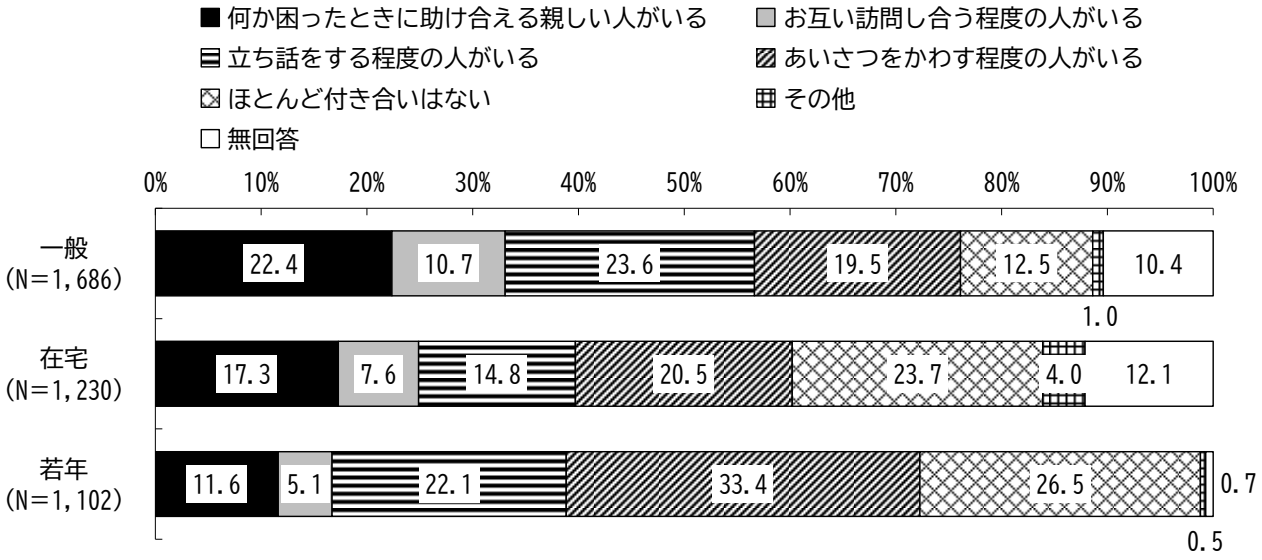
【令和元年度】
一般：８７．０％「家族や友人・知人」
　　２６．７％「ケアマネジャーなどの介護関係者やかかりつけ医などの医療関係者」

在宅：７３．０％「家族や友人・知人」
　　６２．１％「ケアマネジャーなどの介護関係者やかかりつけ医などの医療関係者」

（２）近所づきあい

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

近所で親しく付き合っている人がいるか尋ねたところ、一般高齢者では「立ち話をする程度の人がいる」が23.6％と最も多く、在宅高齢者では「ほとんど付き合いはない」が23.7％と最も多く、若年者では「あいさつをかわす程度の人がいる」が33.4％と最も多くなっている。



【令和元年度】
「何か困ったときに助け合える親しい人がいる」
一般：３０.３％　在宅：２５.１％　若年：１３.８％

「お互い訪問し合う程度の人がいる」
一般：１０.３％　在宅：１０.８％　若年：８.３％

「立ち話をする程度の人がいる」
一般：３０.１％　在宅：１９.８％　若年：２６.３％

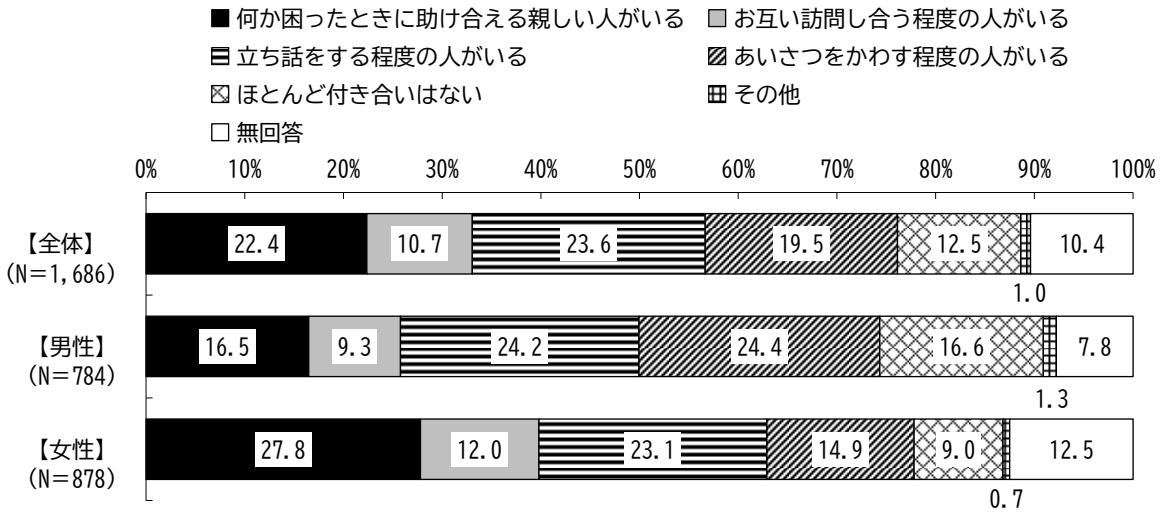
「あいさつをかわす程度の人がいる」
一般：１８.０％　在宅：１９.０％　若年：３２.９％

「ほとんど付き合いはない」
一般：８.７％　在宅：１６.１％　若年：１７.５％

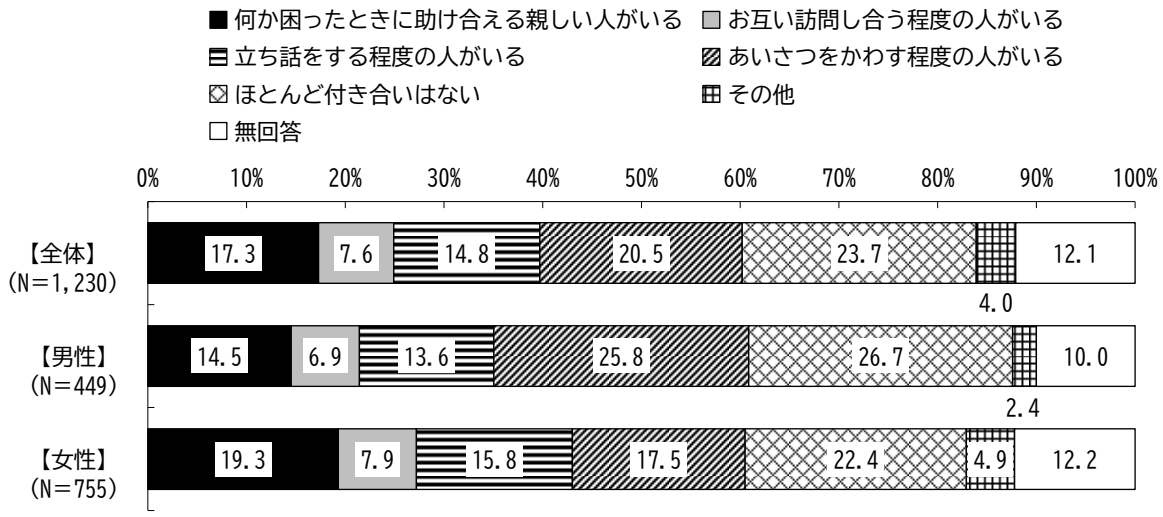
【属性別特徴】

男女別にみると、一般高齢者、在宅高齢者、若年者のいずれにおいても、「何か困ったときに助け合える親しい人がいる」の割合は女性の方が男性よりも高くなっている。

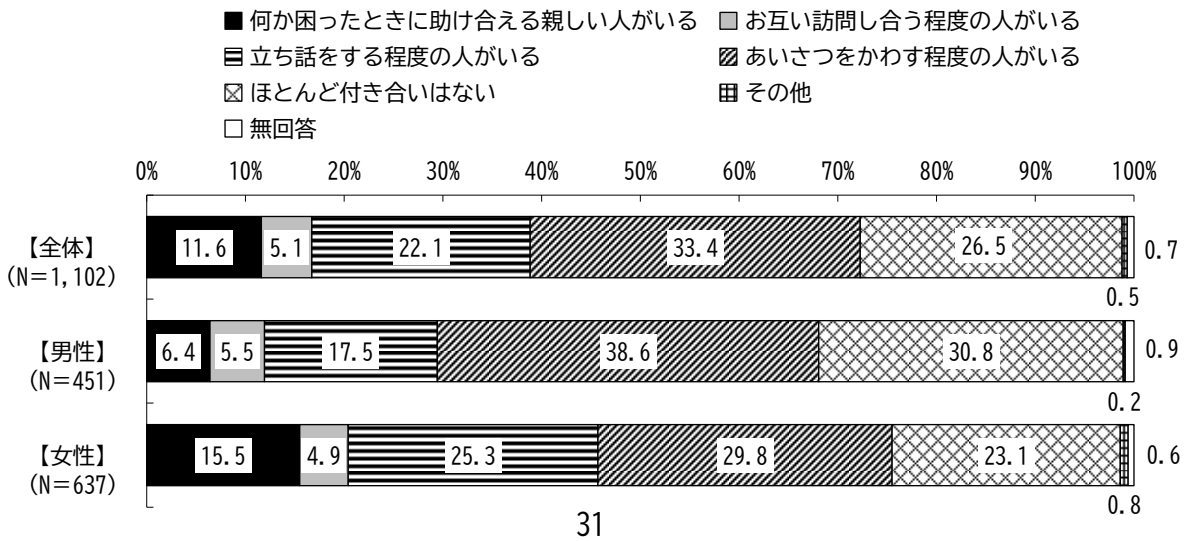
一般高齢者（男女別）



在宅高齢者（男女別）



若年者（男女別）

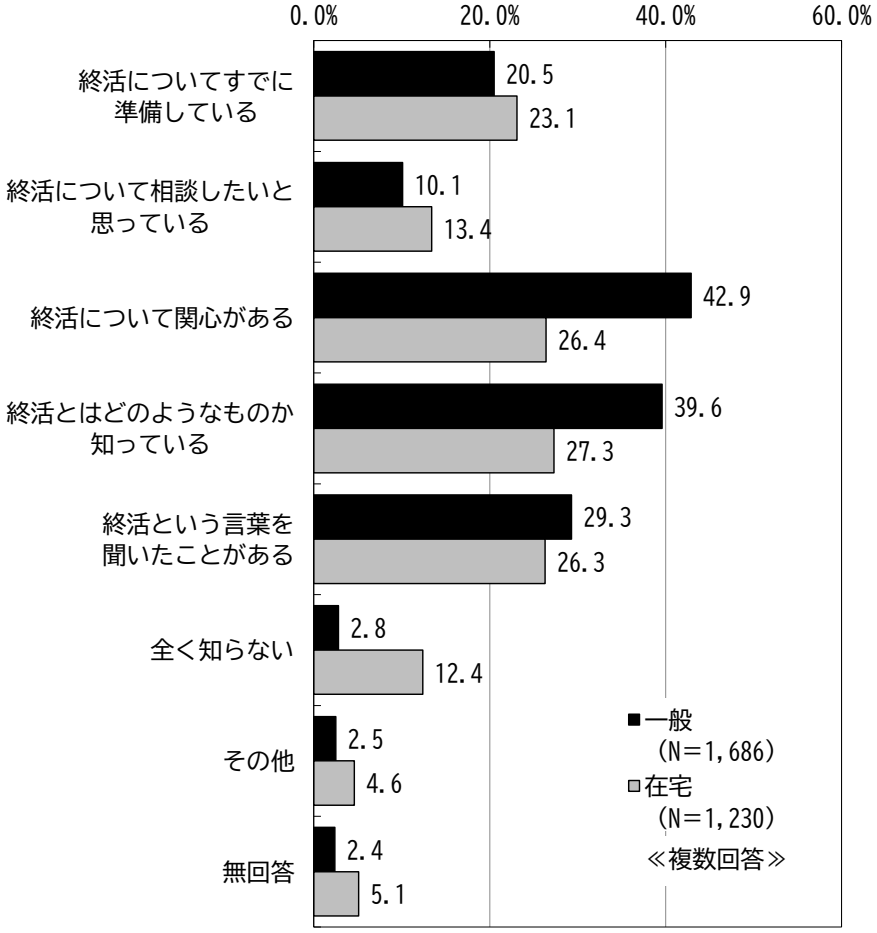


７．終活

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

終活について尋ねたところ、一般高齢者では「終活について関心がある」が42.9％と最も多く、次いで「終活とはどのようなものか知っている」が39.6％、「終活という言葉を聞いたことがある」が29.3％となっている。

在宅高齢者では「終活とはどのようなものか知っている」が27.3％と最も多く、次いで「終活について関心がある」が26.4％、「終活という言葉を聞いたことがある」が26.3％となっている。



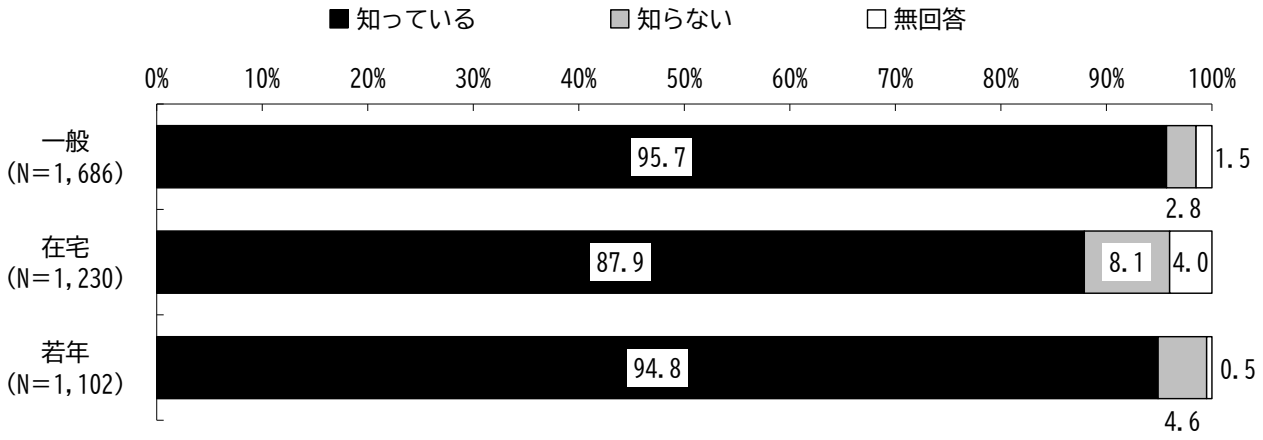
【令和元年度】
一般：４７．９％「終活について関心がある」
　　３１．１％「終活という言葉を聞いたことがある」
　　３０．６％「終活とはどのようなものか知っている」

在宅：２９．６％「終活という言葉を聞いたことがある」
　　２９．３％「終活について関心がある」
　　２０．８％「終活とはどのようなものか知っている」

８．認知症

（１）認知症は年齢に関係なく誰でもかかりうる病気であることを知っているか
対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

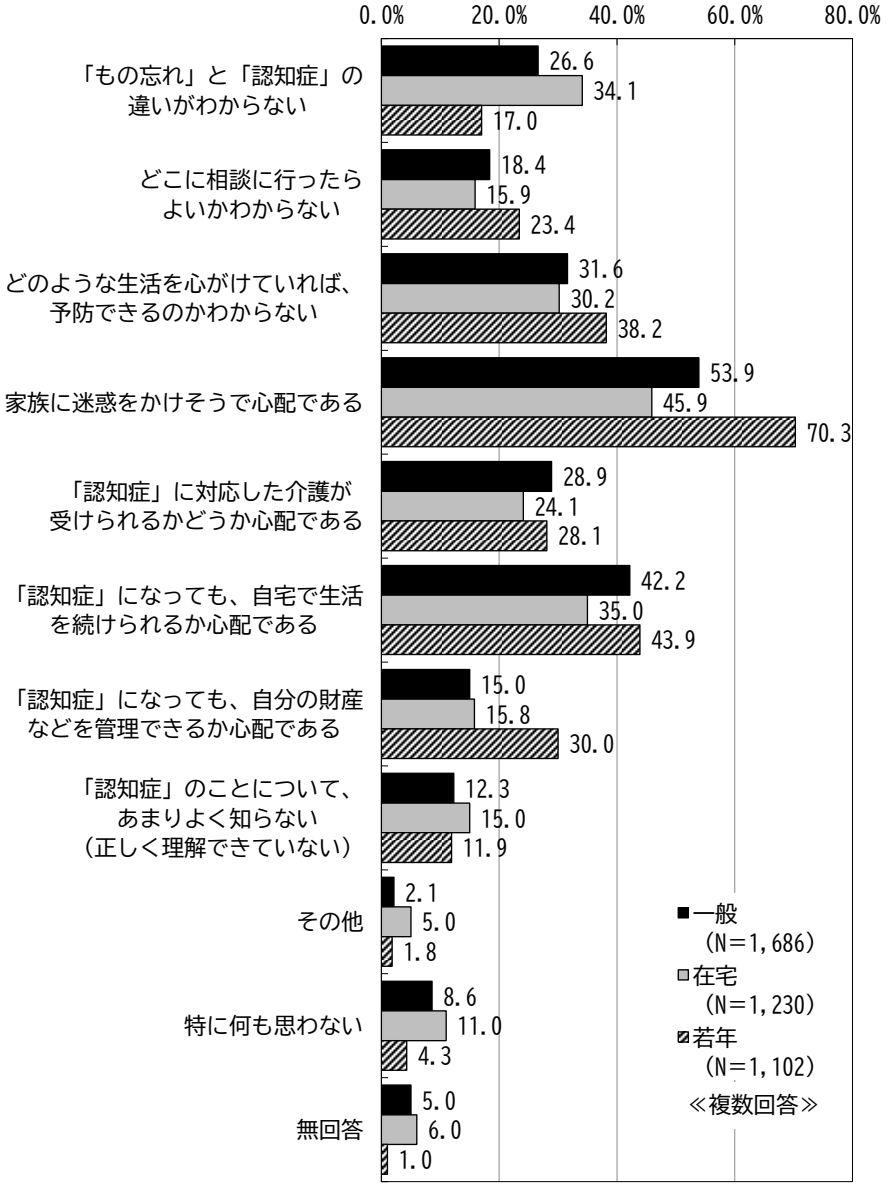
認知症は年齢に関係なく誰でもかかりうる病気であることを知っているか尋ねたところ、「知っている」の割合は一般高齢者で95.7％、在宅高齢者で87.9％、若年者で94.8％となっている。



（２）認知症と聞いて最初に思うこと

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

認知症と聞いて、最初に思うことはどのようなことか尋ねたところ、「家族に迷惑をかけそうで心配である」が最も多く、一般高齢者が53.9%、在宅高齢者が45.9%、若年者が70.3%となっている。次いで「『認知症』になっても、自宅で生活を続けられるか心配である」が一般高齢者で42.2%、在宅高齢者で35.0%、若年者で43.9%となっている。



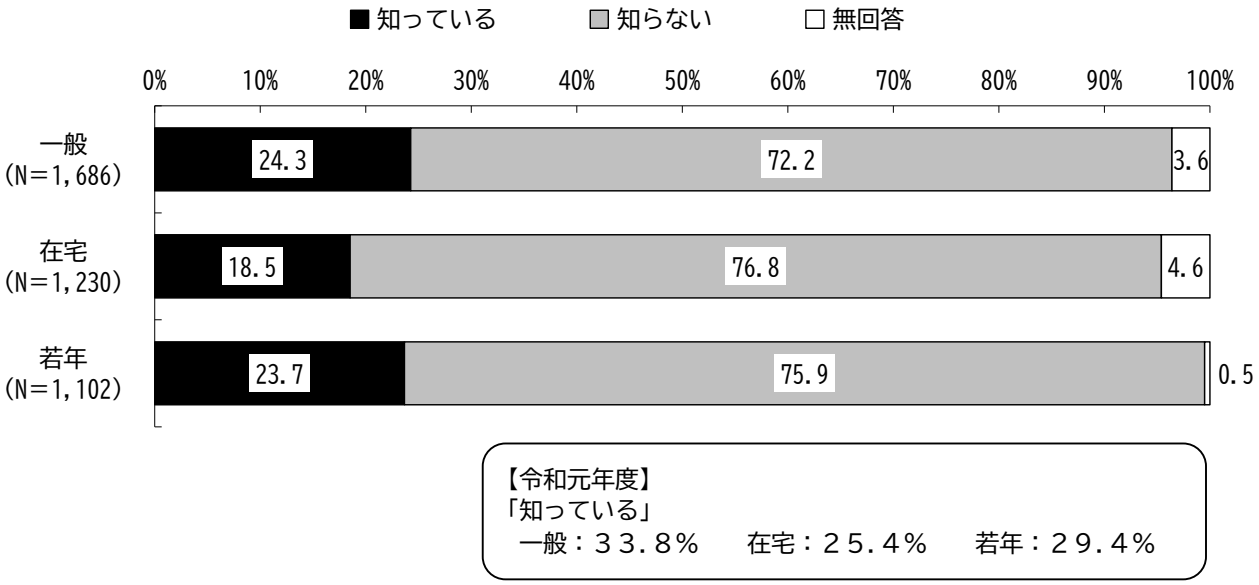
【令和元年度】
一般：５９．６％「家族に迷惑をかけそうで心配である」
　　４３．２％「『認知症』になっても、自宅で生活を続けられるか心配である」
　　３０．９％「どのような生活を心がけていれば、予防できるのかわからない」

在宅：４２．３％「家族に迷惑をかけそうで心配である」
　　３０．５％「『もの忘れ』と『認知症』の違いがわからない」
　　２９．９％「「認知症」になっても、自宅で生活を続けられるか心配である」

若年：６８．１％「家族に迷惑をかけそうで心配である」
　　４３．６％「『認知症』になっても、自宅で生活を続けられるか心配である」
　　３５．７％「どのような生活を心がけていれば、予防できるのかわからない」

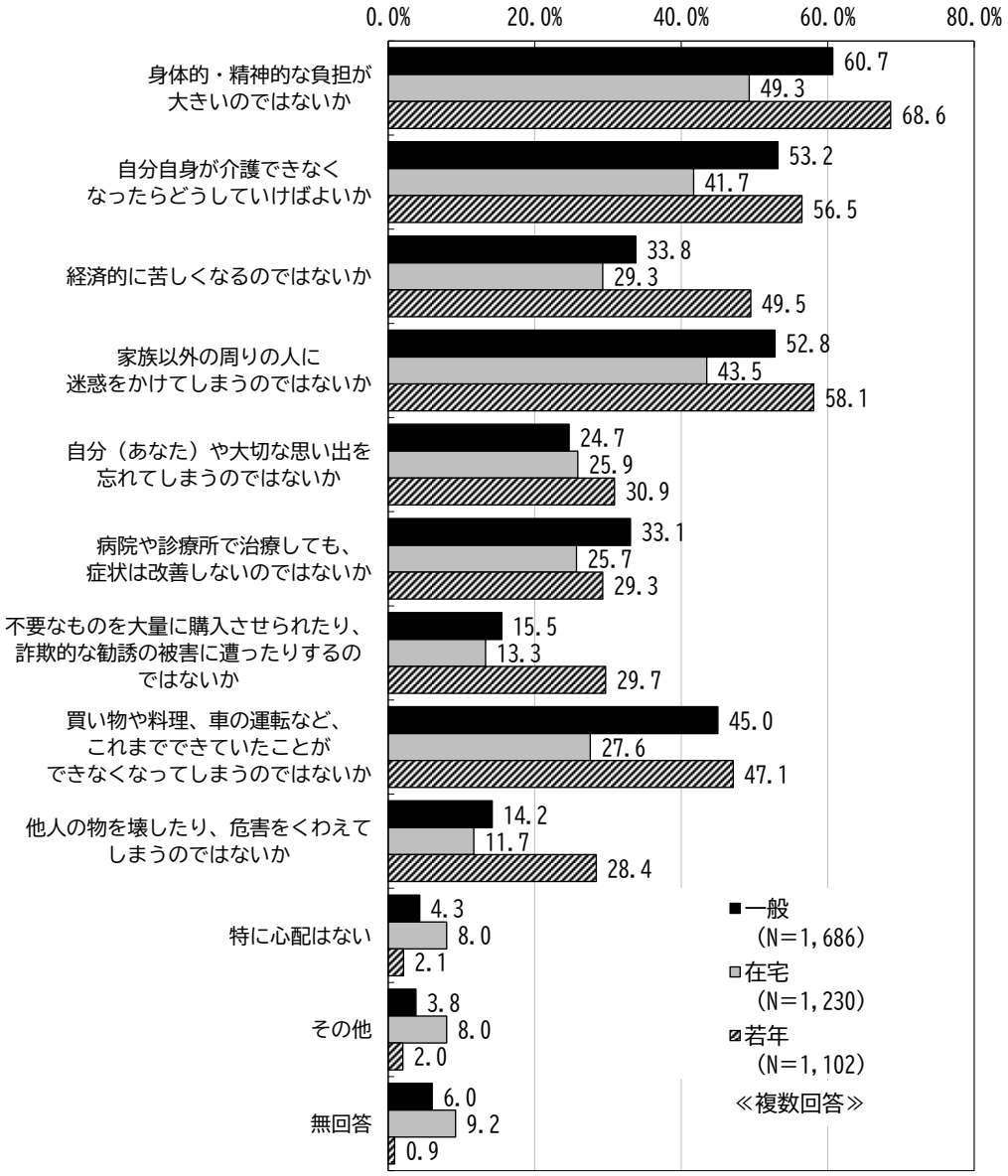
（３）認知症の人（本人）の講演会活動などの認知度
対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

認知症の人（本人）が自身の体験談や思いなどを講演会などで発信する活動について知っているか尋ねたところ、「知っている」の割合は、一般高齢者で24.3％、在宅高齢者で18.5％、若年者で23.7％となっている。



（４）家族が認知症になった場合、または認知症のご家族がいる方の心配だと思う（感じる）こと
対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

家族が認知症になった場合や、現在、認知症の家族がいる方はどのようなことを心配だと思う（感じる）か尋ねたところ、「身体的・精神的な負担が大きいのではないか」が最も多く、一般高齢者で60.7%、在宅高齢者で49.3%、若年者で68.6%となっている。次いで、一般高齢者では「自分自身が介護できなくなったらどうしていけばよいか」が53.2%、在宅高齢者と若年者では「家族以外の周りの人に迷惑をかけてしまうのではないか」が在宅高齢者で43.5%、若年者で58.1%となっている。



【令和元年度】
一般：６３．８％「身体的・精神的な負担が大きいのではないか」
　　５４．７％「自分自身が介護できなくなったらどうしていけばよいか」

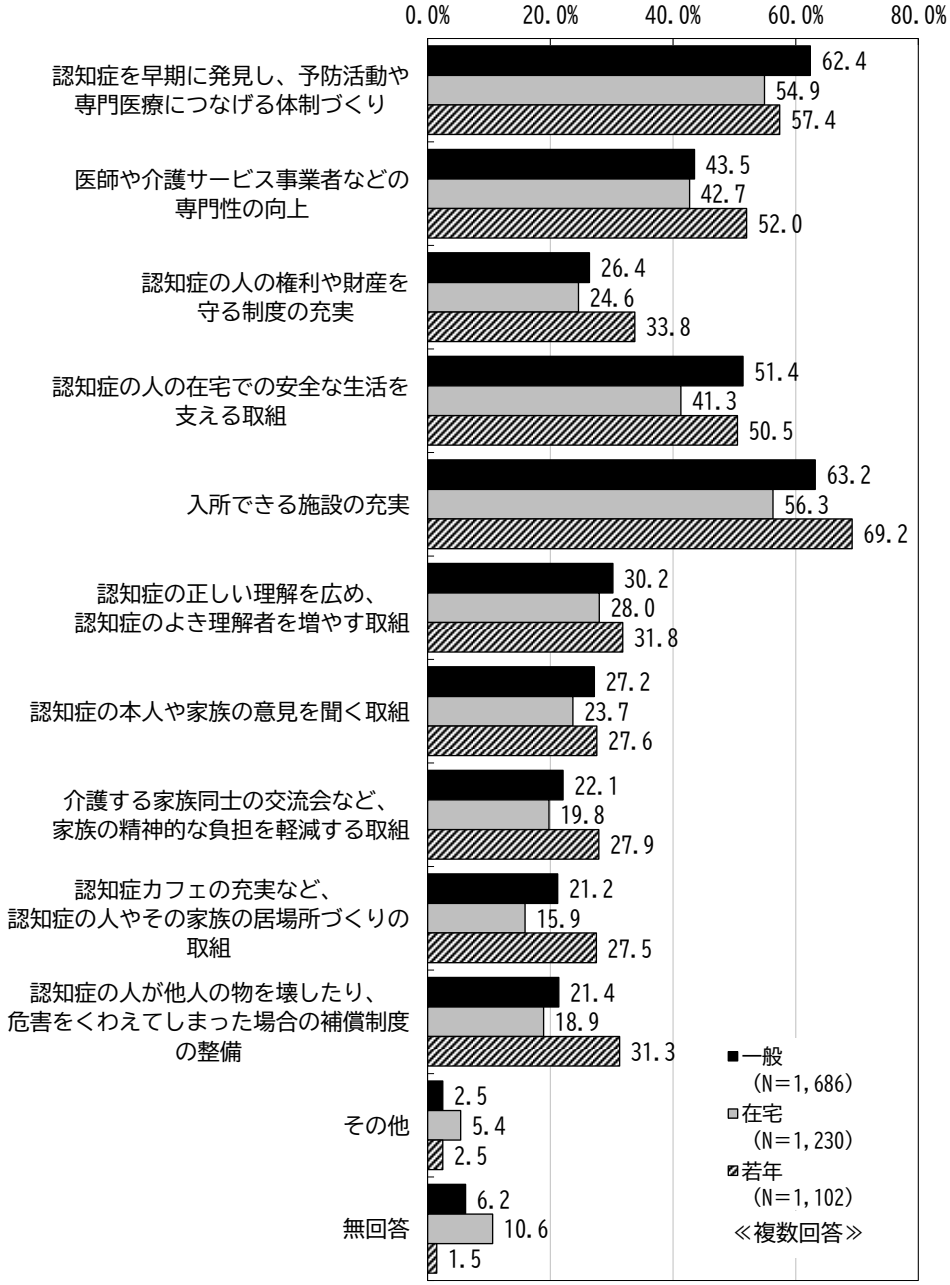
在宅：４６．５％「身体的・精神的な負担が大きいのではないか」
　　４３．８％「家族以外の周りの人に迷惑をかけてしまうのではないか」

若年：６８．２％「身体的・精神的な負担が大きいのではないか」
　　５９．６％「家族以外の周りの人に迷惑をかけてしまうのではないか」

（５）認知症に関して市が力を入れるべき取組

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

認知症に関して市が力を入れるべき取組については、一般高齢者、在宅高齢者、若年者いずれも「入所できる施設の充実」が最も多く、一般高齢者で63.2%、在宅高齢者で56.3%、若年者で69.2%となっている。次いで「認知症を早期に発見し、予防活動や専門医療につなげる体制づくり」が一般高齢者で62.4%、在宅高齢者で54.9%、若年者が57.4%となっている。



【令和元年度】
一般：６６．５％「入所できる施設の充実」
　　６３．２％「認知症を早期に発見し、予防活動や専門医療につなげる体制づくり」

在宅：５６．８％「入所できる施設の充実」
　　５１．６％「認知症を早期に発見し、予防活動や専門医療につなげる体制づくり」

若年：６６．５％「入所できる施設の充実」
　　５６．９％「認知症を早期に発見し、予防活動や専門医療につなげる体制づくり」

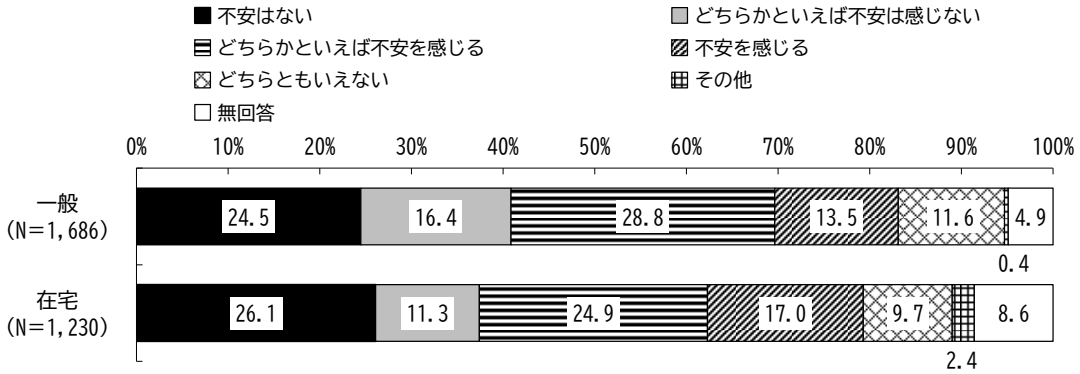
９．虐待・権利擁護

（１）高齢者の権利侵害に対する不安

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

虐待や財産をねらった詐欺など高齢者の権利を侵害するものに対する不安があるか尋ねたところ、一般高齢者では「どちらかといえば不安を感じる」が28.8％と最も多く、在宅高齢者では「不安はない」が26.1％と最も多くなっている。

「不安はない」、「どちらかといえば不安は感じない」を合わせた割合は、一般高齢者で40.9％、在宅高齢者で37.4％となっている。これに対して「不安を感じる」、「どちらかといえば不安を感じる」を合わせた割合は、一般高齢者で42.3％、在宅高齢者で41.9％となっている。



「不安はない」+「どちらかといえば不安は感じない」の合計
【令和元年度】　一般：４５.４％　　在宅：３７.３％
【令和４年度】　一般：４０.９％　　在宅：３７.４％

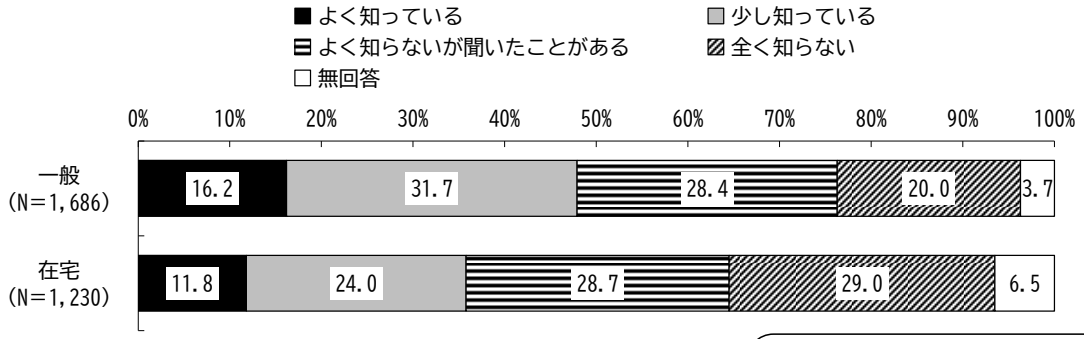
「不安を感じる」+「どちらかといえば不安を感じる」の合計
【令和元年度】　一般：３９.８％　　在宅：４１.６％
【令和４年度】　一般：４２.３％　　在宅：４１.９％

（２）成年後見制度の認知度

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

成年後見制度を知っているか尋ねたところ、一般高齢者では「少し知っている」が31.7％と最も多く、次いで「よく知らないが聞いたことがある」が28.4％となっている。

在宅高齢者では「全く知らない」が29.0％と最も多く、次いで「よく知らないが聞いたことがある」が28.7％となっている。

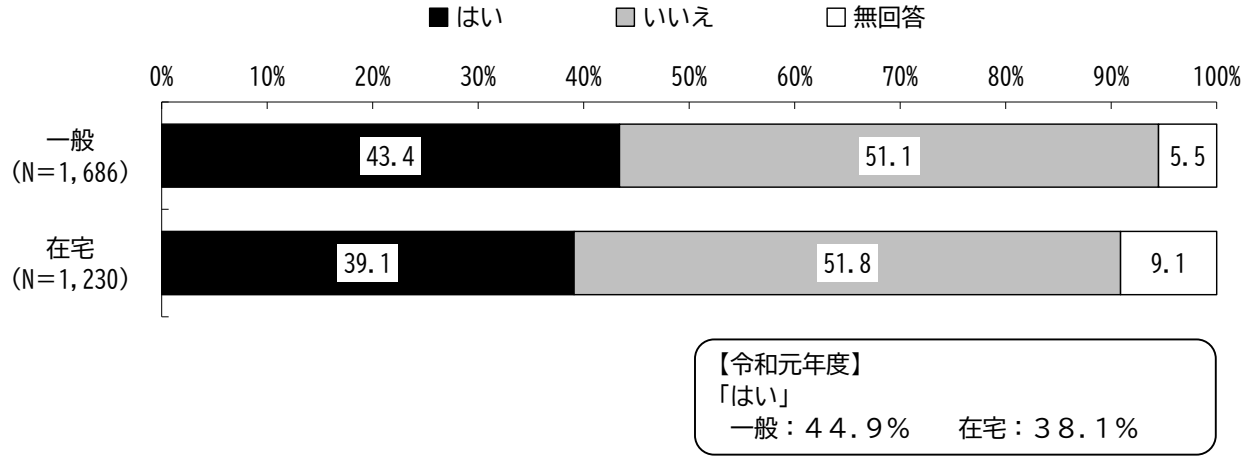


「よく知っている」+「少し知っている」の合計
【令和元年度】
一般：４９.５％　　在宅：３３.５％
【令和４年度】
一般：４７.９％　　在宅：３５.８％

（３）成年後見制度の利用意向

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

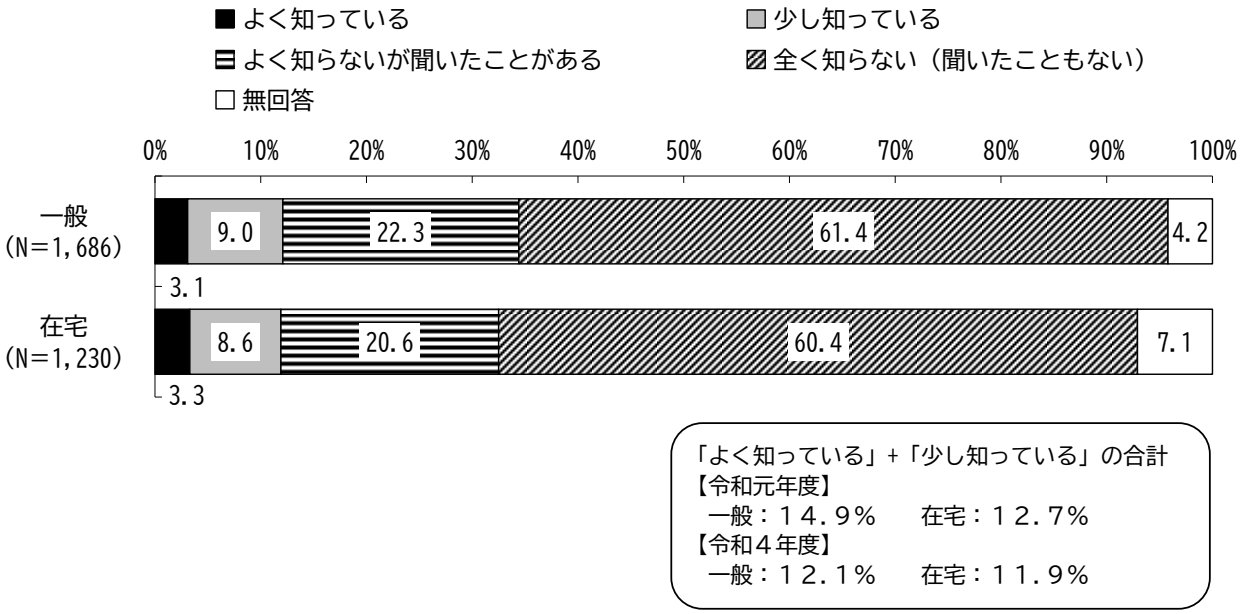
認知症などで判断が十分にできなくなったとき、「成年後見制度」を利用したいか尋ねたところ、「はい」と回答した割合は、一般高齢者で43.4％、在宅高齢者で39.1％となっている。



（４）市民後見人の認知度

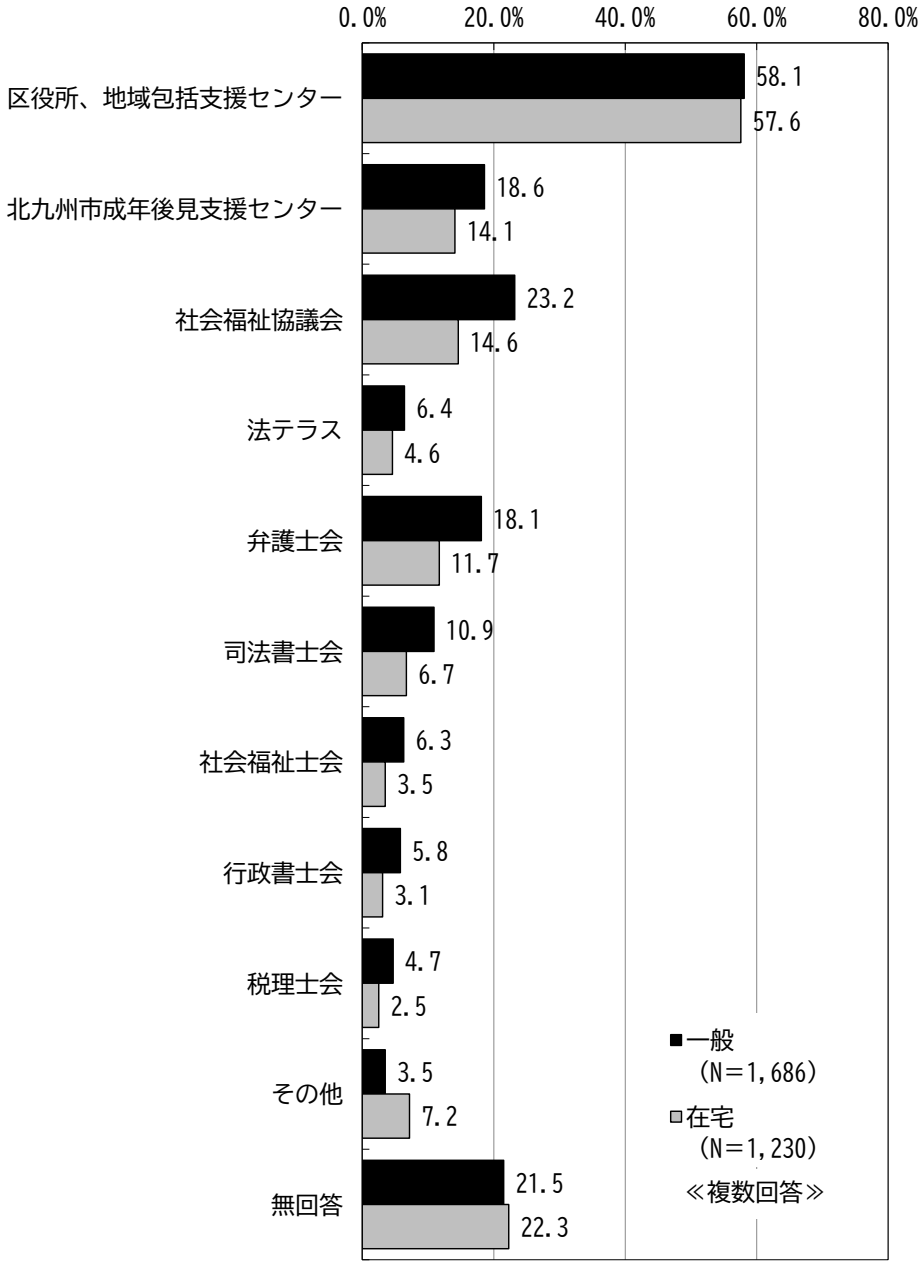
対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

市民後見人を知っているか尋ねたところ、「全く知らない（聞いたこともない）」が一般高齢者で61.4％、在宅高齢者で60.4％と最も多く、次いで「よく知らないが聞いたことがある」が一般高齢者で22.3％、在宅高齢者で20.6％となっている。



（５）成年後見制度の相談窓口の認知度
対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

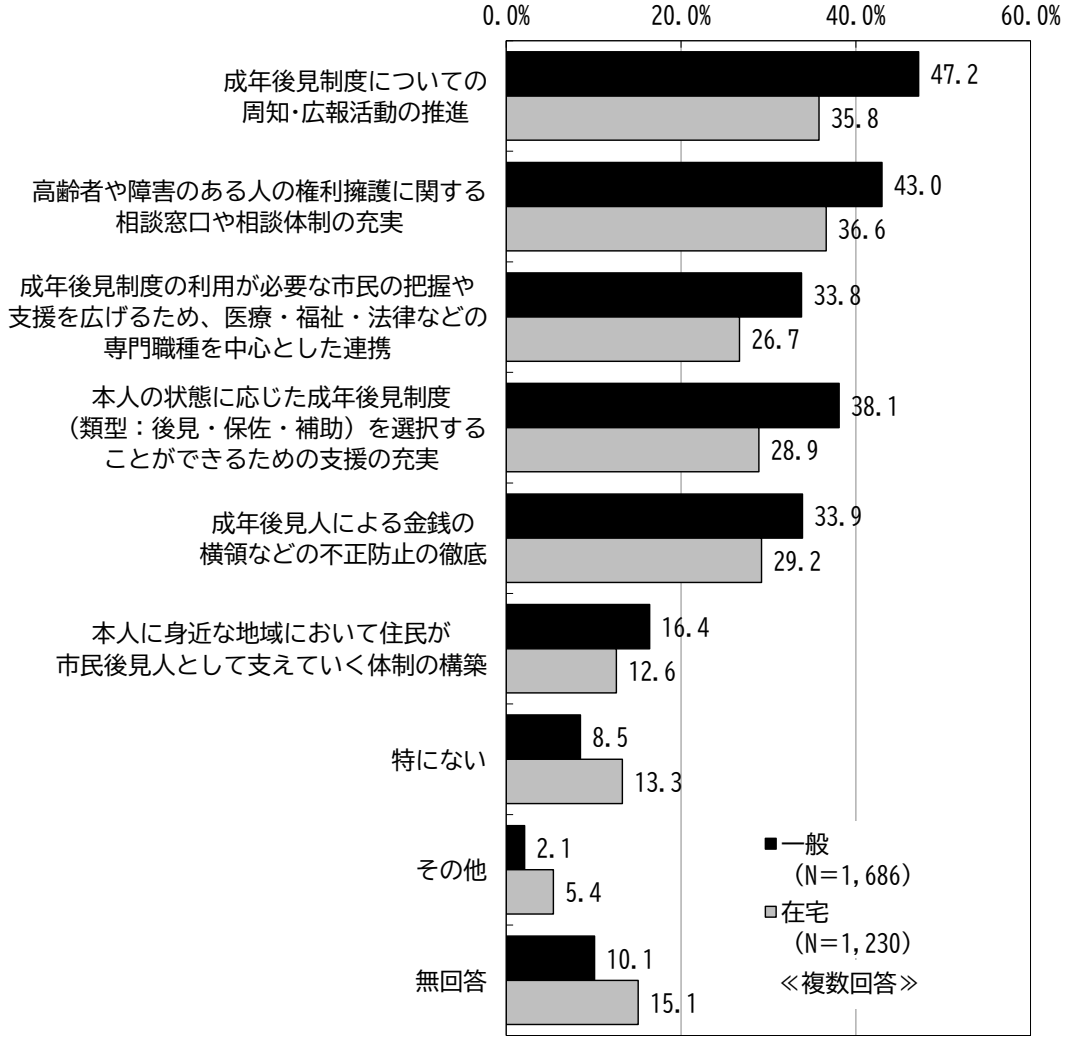
成年後見制度の相談に応じてくれる窓口を知っているか尋ねたところ、一般高齢者、在宅高齢者いずれも「区役所、地域包括支援センター」が最も多く、一般高齢者で58.1％、在宅高齢者で57.6％となっている。次いで「社会福祉協議会」（一般高齢者：23.2％、在宅高齢者：14.6％）、「北九州市成年後見支援センター」（一般高齢者：18.6％、在宅高齢者：14.1％）となっている。



（６）成年後見制度の利用促進・充実
対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

成年後見制度の利用の促進・充実を図るためにどのようなことが必要か尋ねたところ、一般高齢者では「成年後見制度についての周知・広報活動の推進」が47.2%と最も多く、次いで「高齢者や障害のある人の権利擁護に関する相談窓口や相談体制の充実」が43.0%、「本人の状態に応じた成年後見制度（類型：後見・保佐・補助）を選択することができるための支援の充実」が38.1%となっている。

在宅高齢者では「高齢者や障害のある人の権利擁護に関する相談窓口や相談体制の充実」が36.6%と最も多く、次いで「成年後見制度についての周知・広報活動の推進」が35.8%、「成年後見人による金銭の横領などの不正防止の徹底」が29.2%となっている。



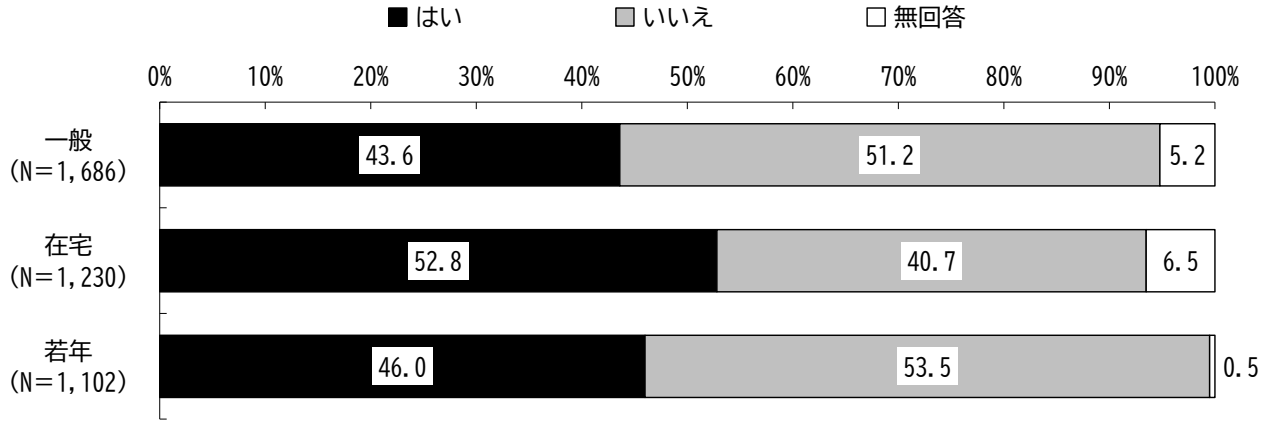
【令和元年度】
一般：４７．７％「成年後見制度についての周知・広報活動の推進」
　　４１．５％「高齢者や障害のある人の権利擁護に関する相談窓口や相談体制の充実」
　　３８．６％「本人の状態に応じた成年後見制度（類型：後見・保佐・補助）を選択することができるための支援の充実」

在宅：３４．５％「高齢者や障害のある人の権利擁護に関する相談窓口や相談体制の充実」
　　３１．０％「成年後見制度についての周知・広報活動の推進」
　　２８．１％「本人の状態に応じた成年後見制度（類型：後見・保佐・補助）を選択することができるための支援の充実」

１０．地域包括支援センター

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

「地域包括支援センター」を知っているか尋ねたところ、「はい」と回答した割合は、一般高齢者で43.6％、在宅高齢者で52.8％、若年者で46.0％となっている。



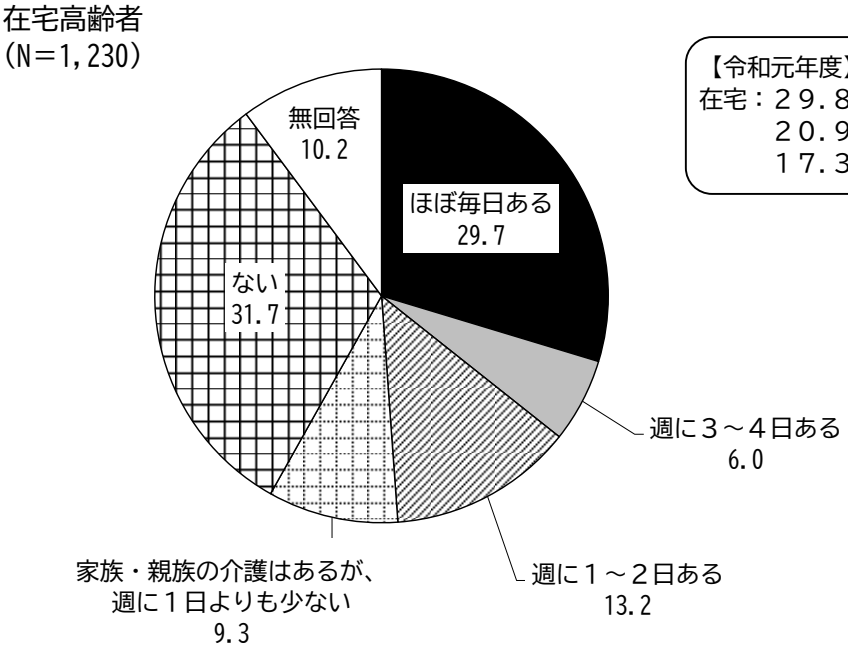
【令和元年度】
「はい」
一般：４１.８％　在宅：４９.８％　若年：４３.２％

１１．介護保険制度

（１）家族や親族からの介護の頻度

対象：『在宅高齢者』

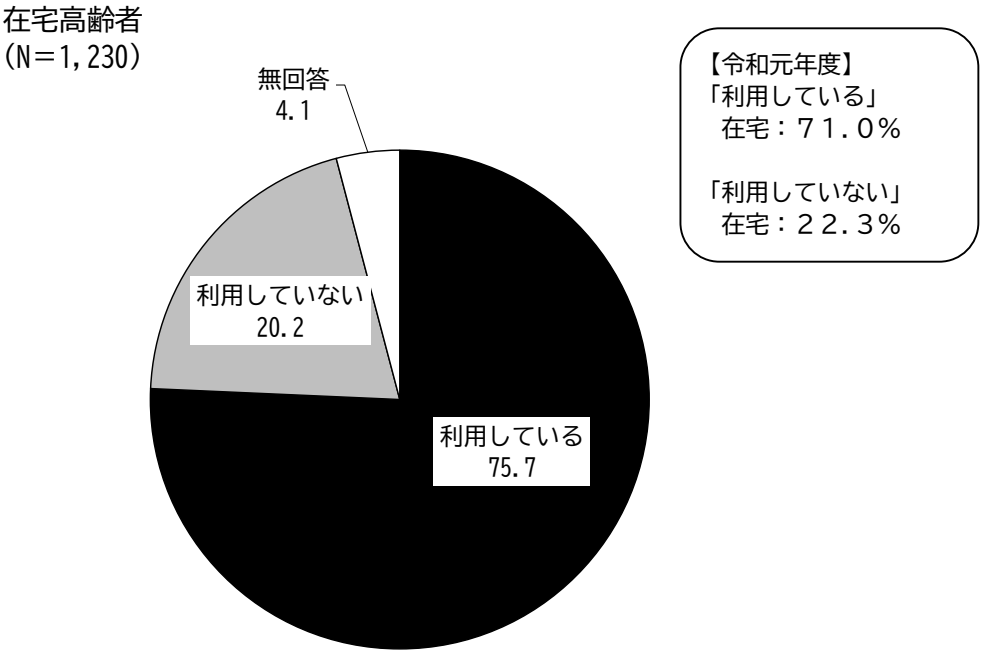
家族や親族からの介護が週どのくらいあるか尋ねたところ、「ない」が31.7％と最も多く、次いで「ほぼ毎日ある」が29.7％、「週に1～2日ある」で13.2％となっている。



【令和元年度】
在宅：２９.８％「ほぼ毎日ある」
２０.９％「ない」
１７.３％「週に１～２日ある」

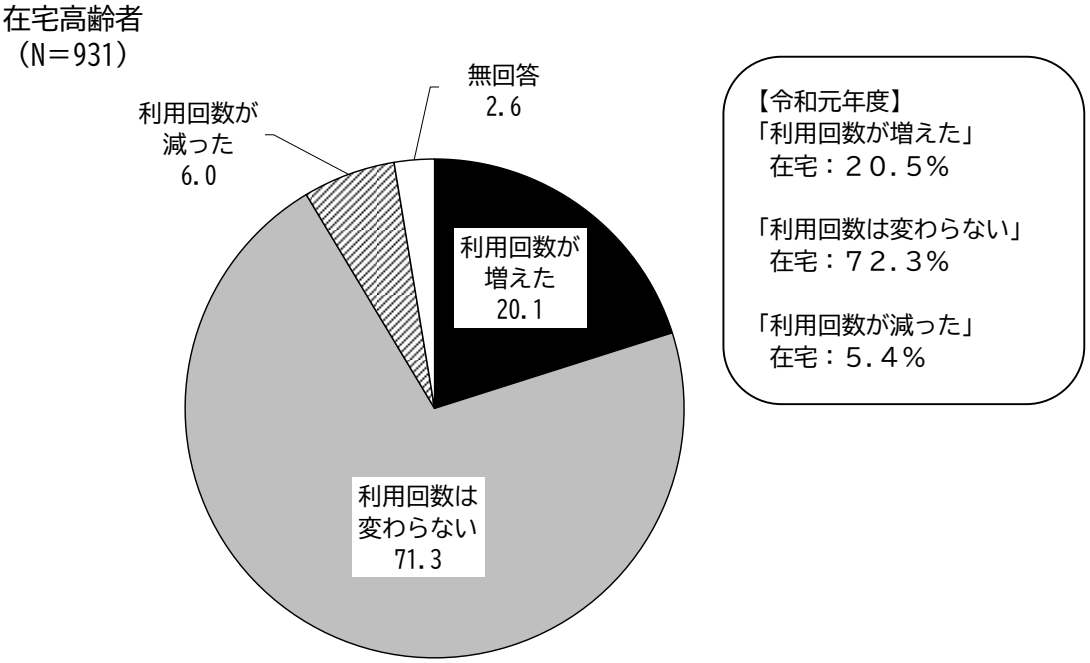
（２）介護保険サービスの利用状況
対象：『在宅高齢者』

現在、介護保険のサービスを「利用している」在宅高齢者は75.7%であり、「利用していない」人は20.2%となっている。



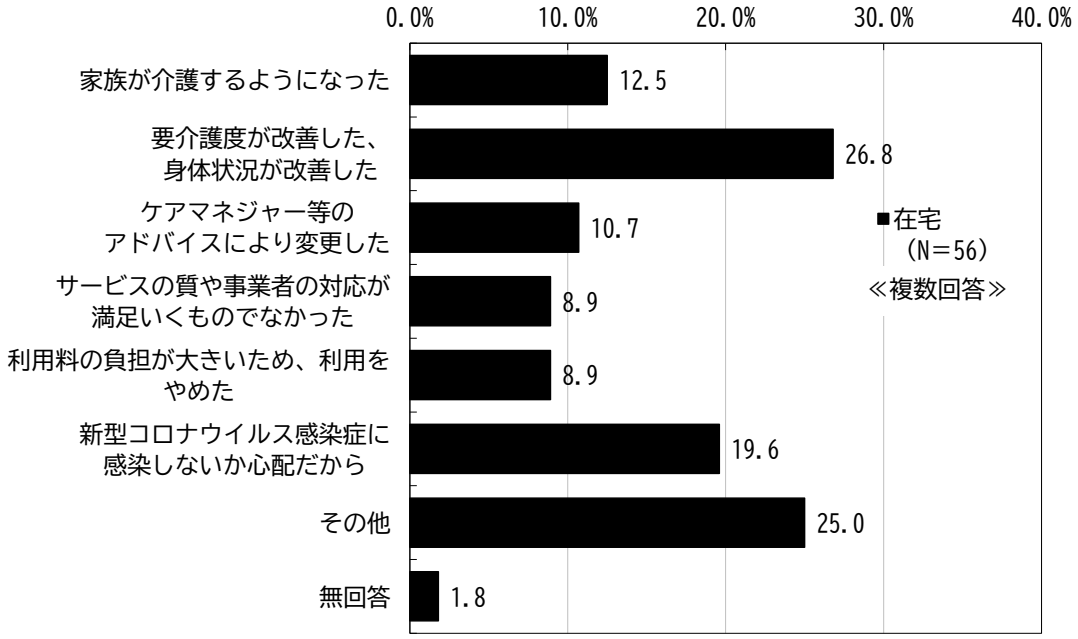
（２）－１　介護保険サービスの利用回数の変化
対象：『在宅高齢者』

介護サービスを利用すると回答した人にこの1年間で、利用回数の変化があったか尋ねたところ、「利用回数は変わらない」が71.3%と過半数を占め、「利用回数が増えた」が20.1%、「利用回数が減った」が6.0%となっている。



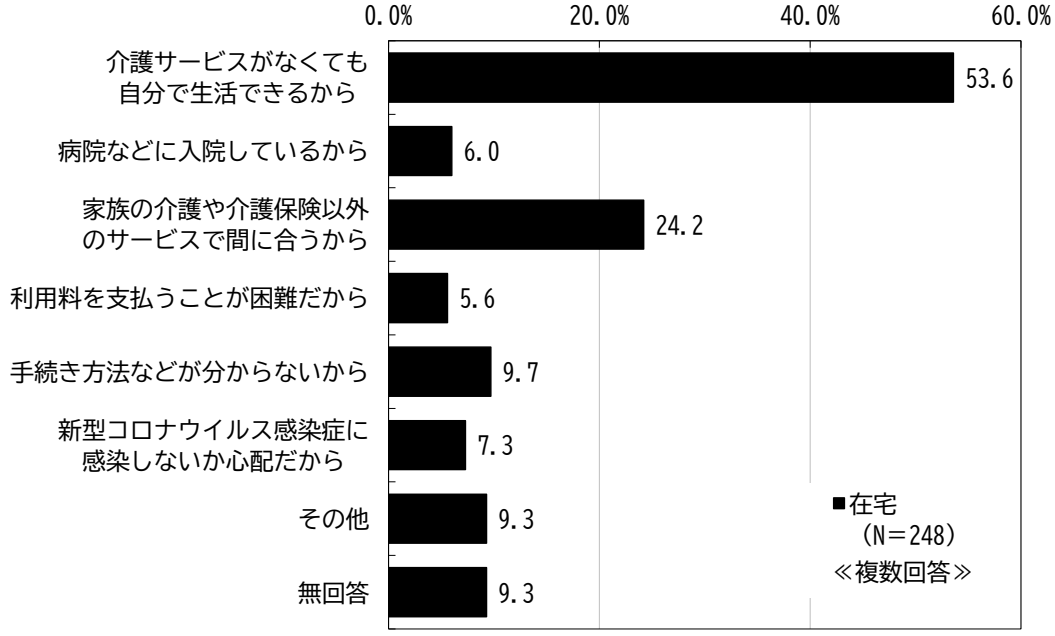
（２）－１－１　介護保険サービスの利用回数が減った理由
対象：『在宅高齢者』

介護保険のサービスの利用回数が減ったと回答した人に理由を尋ねたところ、「要介護度が改善した、身体状況が改善した」が26.8％と最も多かった。



（２）－２　介護保険サービスを利用していない理由
対象：『在宅高齢者』

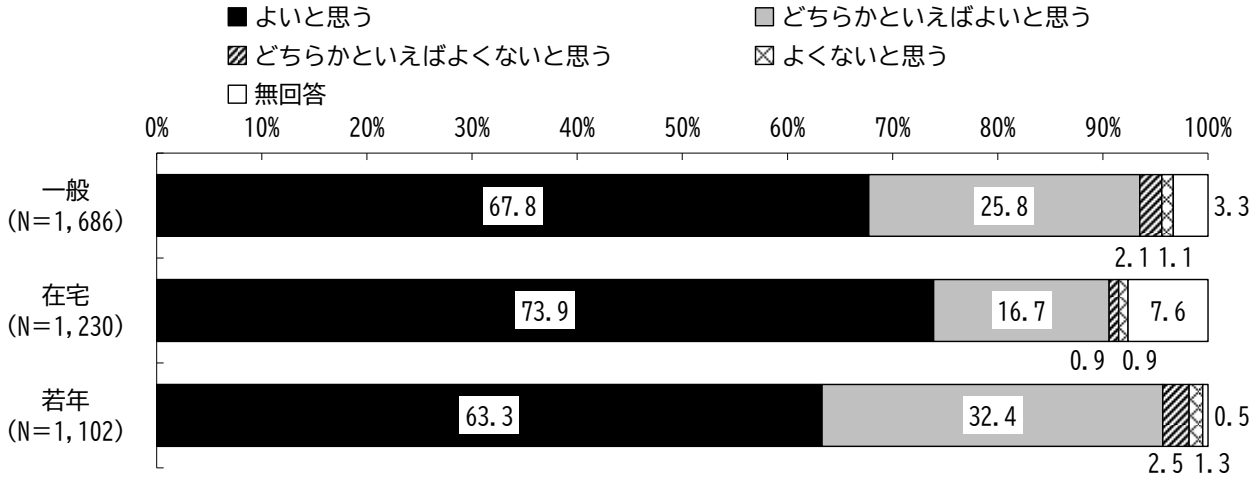
介護保険のサービスを利用していないと回答した人に理由を尋ねたところ、「介護サービスがなくても自分で生活できるから」が53.6％と最も多く、次いで「家族の介護や介護保険以外のサービスで間に合うから」が24.2％、「手続き方法などが分からないから」が9.7％となっている。



（３）介護保険制度に対する考え

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

介護保険についてどのように考えるか尋ねたところ、「よいと思う」が一般高齢者で67.8%、在宅高齢者で73.9%、若年者で63.3%と最も多く、「どちらかといえばよいと思う」と答えた人と合わせると、一般高齢者で93.6%、在宅高齢者で90.6%、若年者で95.7%と、いずれも9割を超えている。



「よいと思う」+「どちらかといえばよいと思う」の合計

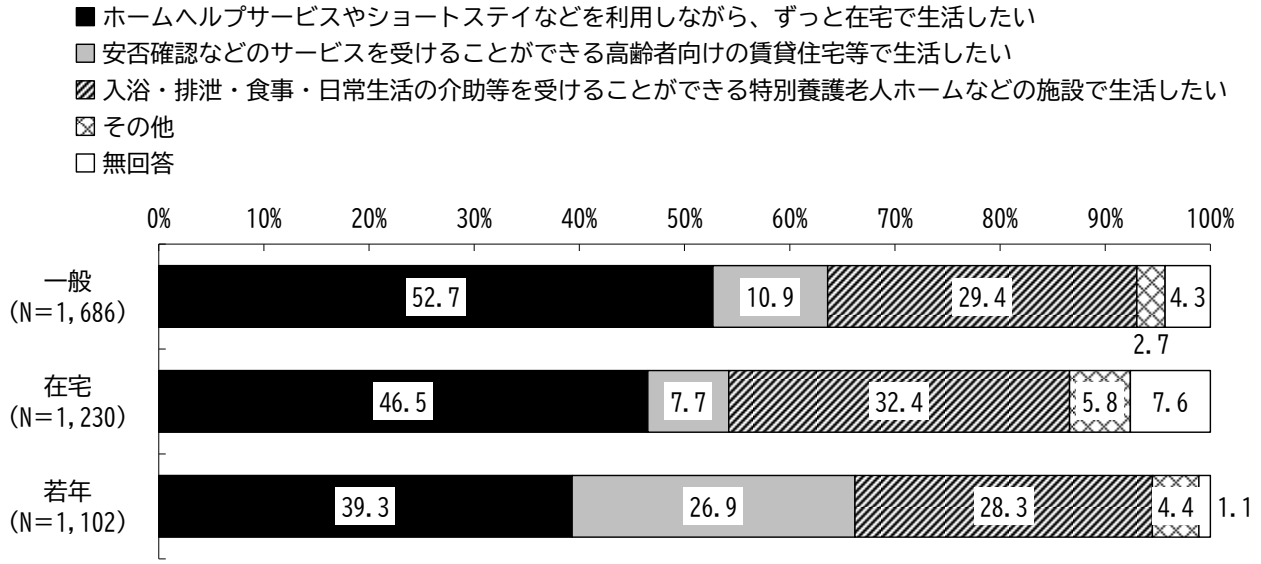
【令和元年度】
一般：９２.６％　在宅：９０.２％　若年：９２.２％
【令和４年度】
一般：９３.６％　在宅：９０.６％　若年：９５.７％

１２．保健・福祉サービスの利用意向

（１）介護が必要な状態になったときに希望する生活場所

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

介護が必要な状態になったとき（在宅高齢者の場合は、現在よりもさらに介護が必要になったとき）に、どこで生活することを希望するか尋ねたところ、「ホームヘルプサービスやショートステイなどを利用しながら、ずっと在宅で生活したい」が一般高齢者で52.7％、在宅高齢者で46.5％、若年者で39.3％と最も多くなっている。また、若年者では「安否確認などのサービスを受けることができる高齢者向けの賃貸住宅等で生活したい」が26.9％と一般高齢者の10.9％、在宅高齢者の7.7％に比べて割合が高くなっている。

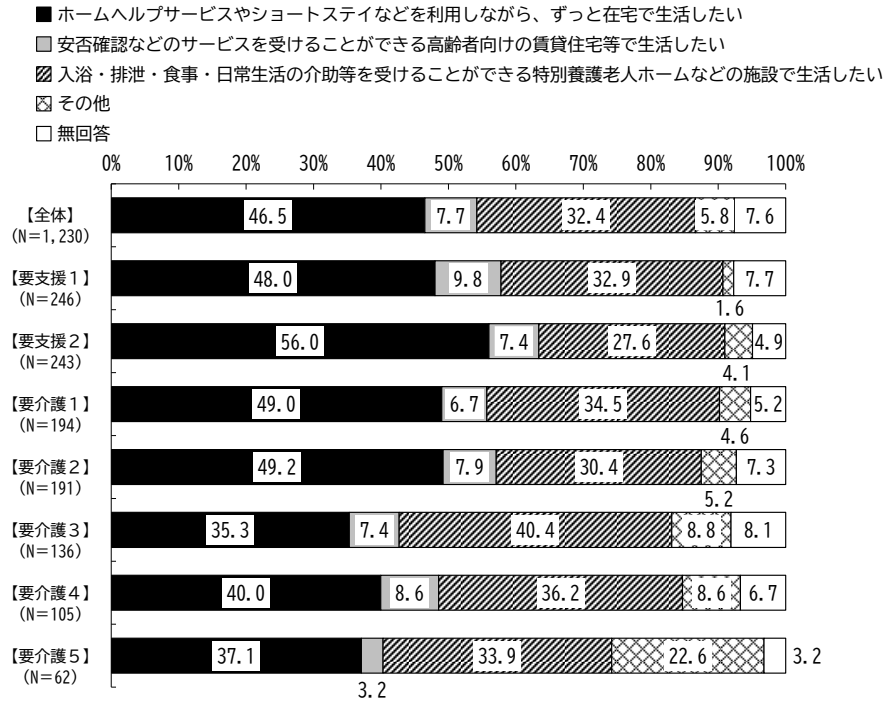


【令和元年度】
「ホームヘルプサービスやショートステイなどを利用しながら、ずっと在宅で生活したい」
一般：５４．０％　　在宅：４８．３％　　若年：３８．３％

【属性別特徴】

在宅高齢者について要介護度別にみると、要介護3では「入浴・排泄・食事・日常生活の介助等を受けることができる特別養護老人ホームなどの施設で生活したい」の割合が最も高くなっている。その他の区分については、「ホームヘルプサービスやショートステイなどを利用しながら、ずっと在宅で生活したい」の割合が最も高くなっている。

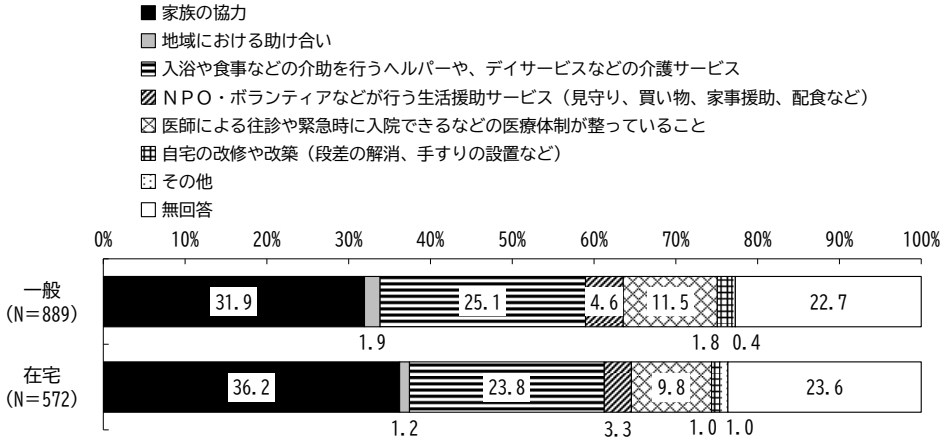
在宅高齢者（要介護度別）



（１）－１　自宅で暮らし続けるために最も必要なこと

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

「ホームヘルプサービスやショートステイなどを利用しながら、ずっと在宅で生活したい」と回答した人に、自宅で暮らし続けるために最も必要なことを尋ねたところ、「家族の協力」が一般高齢者で31.9%、在宅高齢者で36.2%と最も多く、次いで「入浴や食事などの介助を行うヘルパーや、デイサービスなどの介護サービス」（一般高齢者：25.1%、在宅高齢者：23.8%）、「医師による往診や緊急時に入院できるなどの医療体制が整っていること」（一般高齢者：11.5%、在宅高齢者：9.8%）となっている。



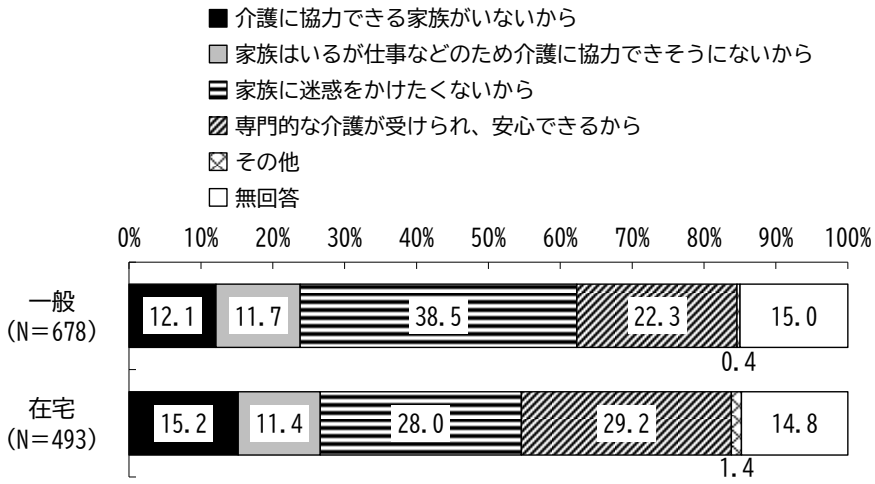
【令和元年度】
「家族の協力」
一般：４５.０％　在宅：４９.５％

（１）－２　施設で生活を希望する理由

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

「安否確認などのサービスを受けることができる高齢者向けの賃貸住宅等で生活したい」、「入浴・排泄・食事・日常生活の介助等を受けることができる特別養護老人ホームなどの施設で生活したい」と回答した人に理由を尋ねたところ、一般高齢者では「家族に迷惑をかけたくないから」が38.5％と最も多く、次いで「専門的な介護が受けられ、安心できるから」が22.3％となっている。

在宅高齢者では「専門的な介護が受けられ、安心できるから」が29.2％と最も多く、次いで「家族に迷惑をかけたくないから」が28.0％となっている。



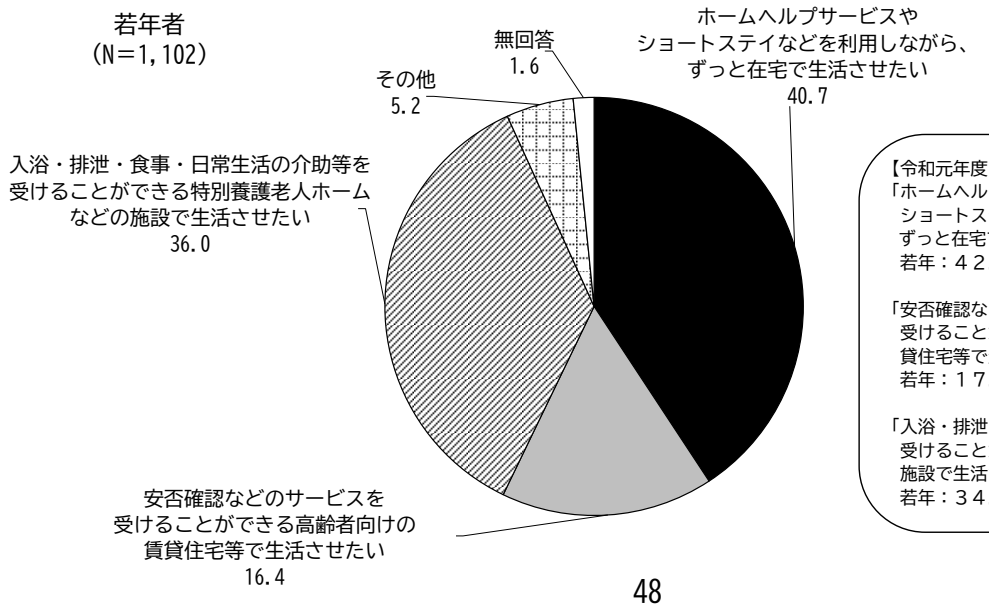
【令和元年度】
「家族に迷惑をかけたくないから」
一般：４４．７％　　在宅：２８．３％

「専門的な介護が受けられ、安心できるから」
一般：２０．３％　　在宅：２７．０％

（２）家族の介護を行う場合に希望する介護

対象：『若年者』

家族の介護を行うこととなったとき、どのような介護を希望するか尋ねたところ、「ホームヘルプサービスやショートステイなどを利用しながら、ずっと在宅で生活させたい」が40.7％と最も多く、次いで「入浴・排泄・食事・日常生活の介助等を受けることができる特別養護老人ホームなどの施設で生活させたい」が36.0％、「安否確認などのサービスを受けることができる高齢者向けの賃貸住宅等で生活させたい」が16.4％となっている。



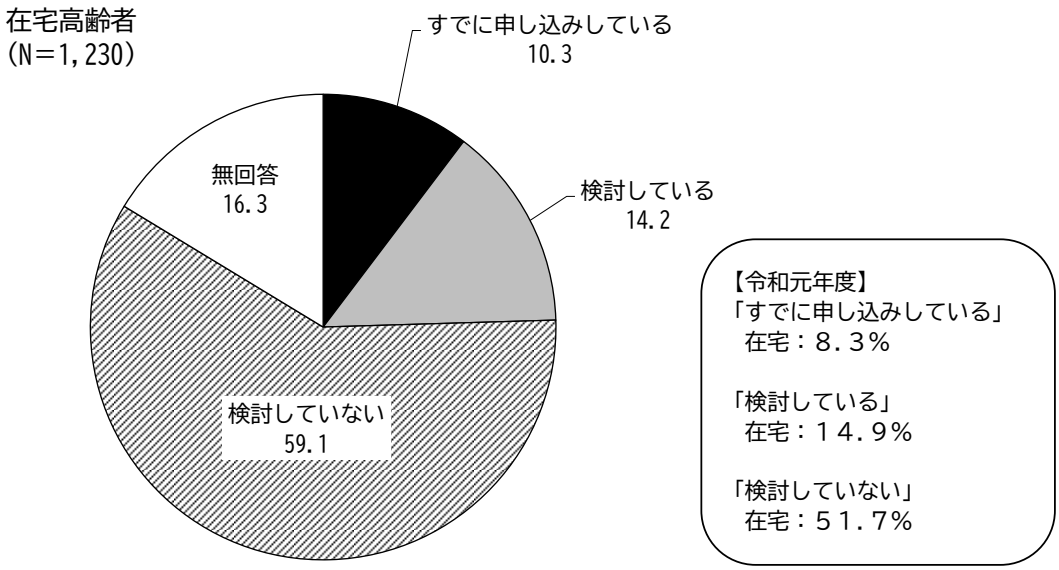
【令和元年度】
「ホームヘルプサービスや
ショートステイなどを利用しながら、
ずっと在宅で生活させたい」
若年：４２．２％

「安否確認などのサービスを
受けることができる高齢者向けの賃
貸住宅等で生活させたい」
若年：１７．０％

「入浴・排泄・食事・日常生活の介助等を
受けることができる特別養護老人ホームなどの
施設で生活させたい」
若年：３４．２％

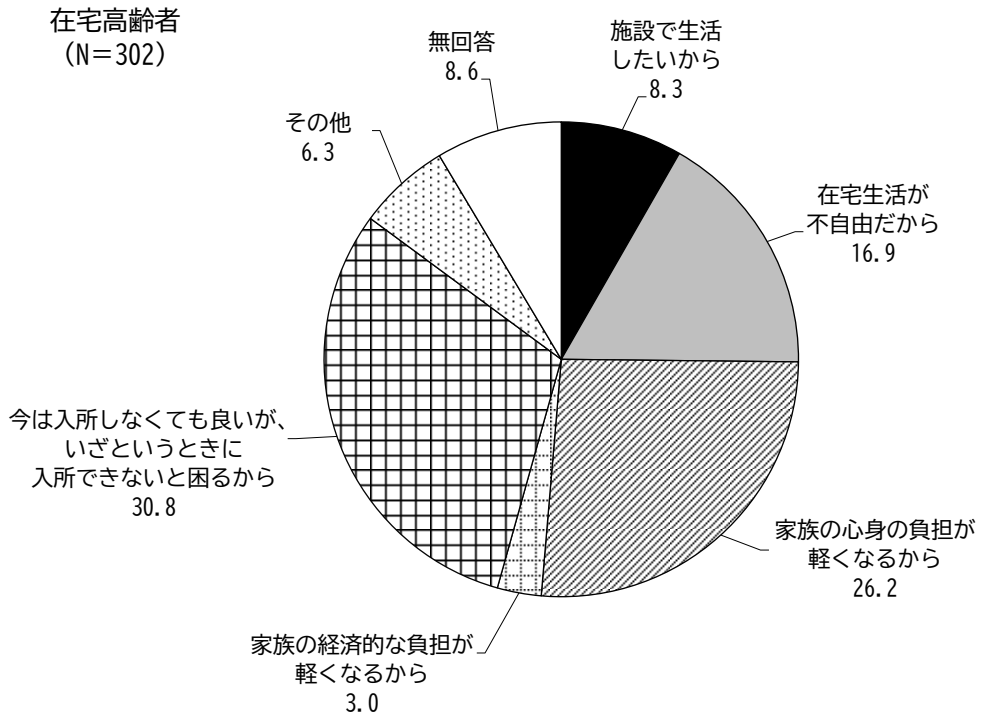
（３）施設への入所申し込み
対象：『在宅高齢者』

施設への入所申し込みについては、「すでに申し込みしている」が10.3%、「検討している」が14.2%、「検討していない」が59.1%となっている。



（３）－１　施設への入所申込理由
対象：『在宅高齢者』

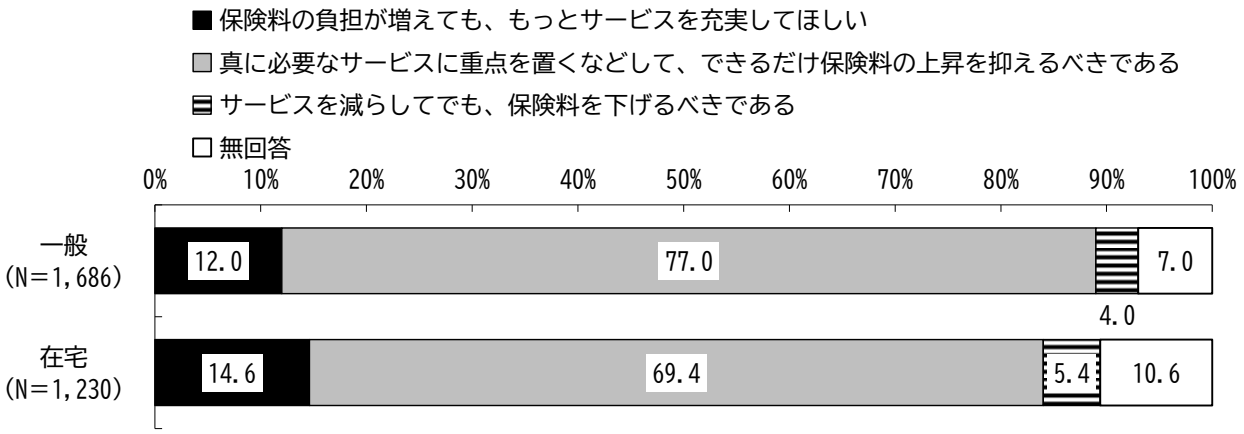
施設への入所申し込みについて「すでに申し込みしている」または「検討している」と答えた人に対し、施設への入所申し込みをしている理由を尋ねたところ、「今は入所しなくても良いが、いざというときに入所できないと困るから」が30.8%と最も多く、次いで「家族の心身の負担が軽くなるから」が26.2%、「在宅生活が不自由だから」が16.9%となっている。



１３．介護保険の負担に対する考え方

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

介護保険サービスと介護保険料の関係についての考えを尋ねたところ、「真に必要なサービスに重点を置くなどして、できるだけ保険料の上昇を抑えるべきである」が一般高齢者で77.0%、在宅高齢者が69.4%と最も多くなっている。「保険料の負担が増えても、もっとサービスを充実してほしい」は一般高齢者で12.0%、在宅高齢者で14.6%となっている。一方、「サービスを減らしてでも、保険料を下げるべきである」は一般高齢者で4.0%、在宅高齢者で5.4%となっている。



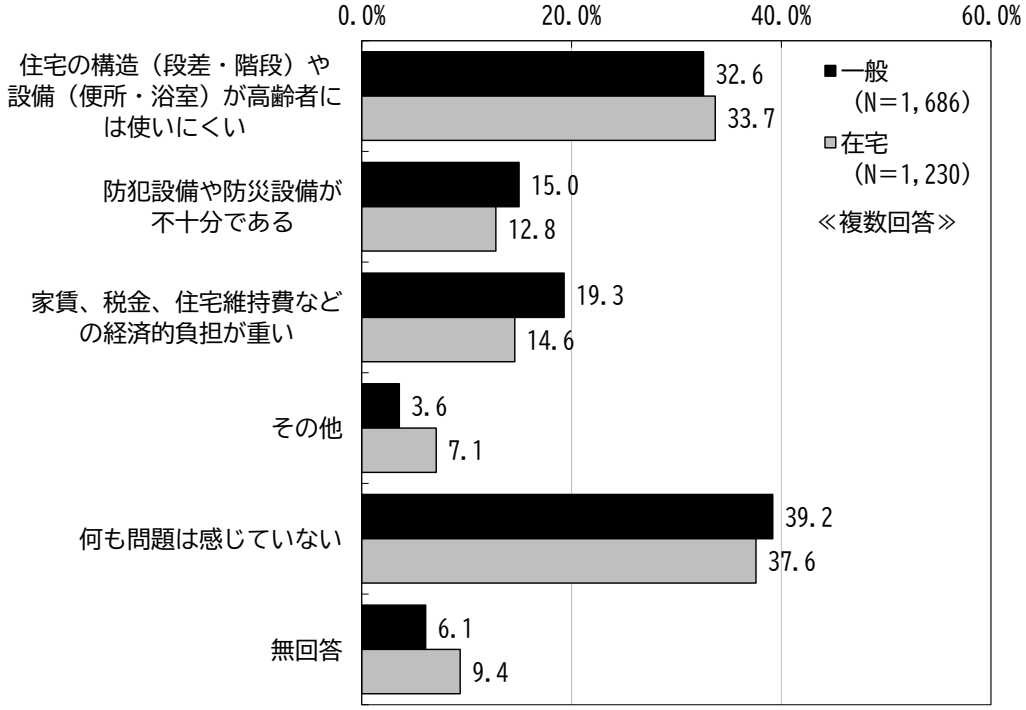
【令和元年度】
「真に必要なサービスに重点を置くなどして、できるだけ保険料の上昇を抑えるべきである」
一般：７８．５％　　在宅：６８．５％

１４．生活環境

（１）住宅の問題点

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

現在住んでいる住宅についてどのような問題を感じているか尋ねたところ、「何も問題は感じていない」が最も多く、一般高齢者で39.2%、在宅高齢者で37.6%となっている。次いで「住宅の構造（段差・階段）や設備（便所・浴室）が高齢者には使いにくい」（一般高齢者：32.6%、在宅高齢者：33.7%）、「家賃、税金、住宅維持費などの経済的負担が重い」（一般高齢者：19.3%、在宅高齢者：14.6%）、「防犯設備や防災設備が不十分である」（一般高齢者：15.0%、在宅高齢者：12.8%）となっている。

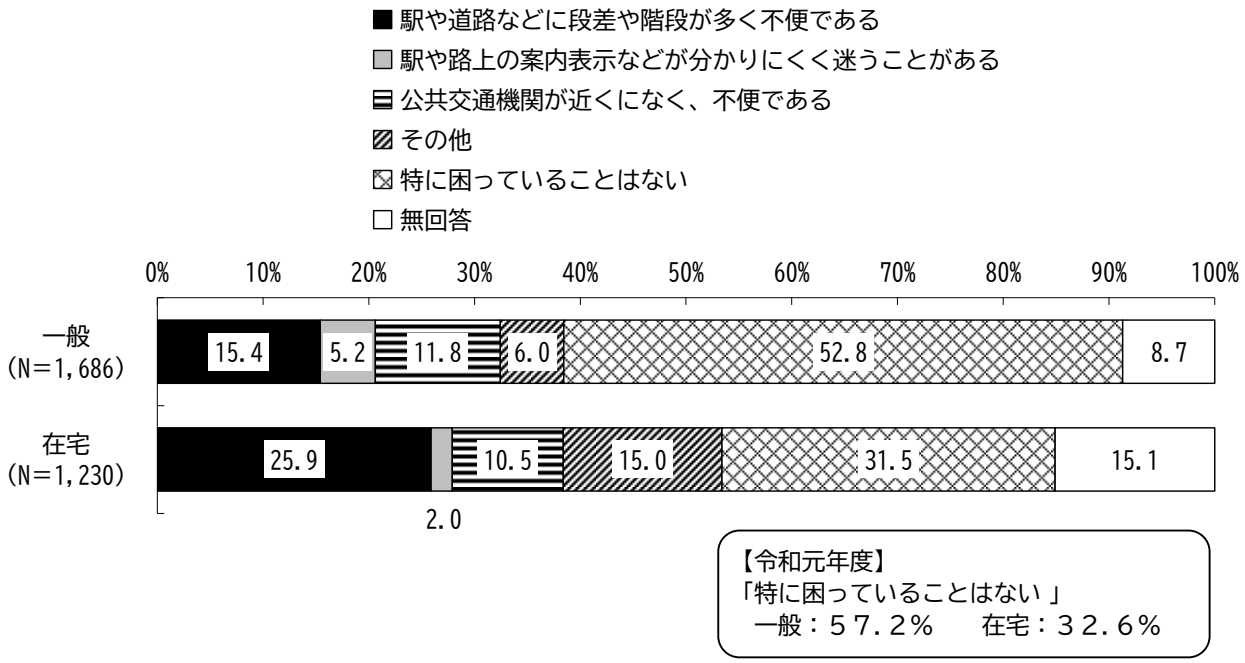


【令和元年度】
「何も問題は感じていない」
一般：３６．９％　　在宅：３７．６％

（２）外出・移動時の問題点

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

外出や移動のときに最も困っていることは何か尋ねたところ、「特に困っていることはない」が一般高齢者で52.8％、在宅高齢者で31.5％と最も多く、次いで「駅や道路などに段差や階段が多く不便である」が一般高齢者で15.4％、在宅高齢者で25.9％となっている。3番目に多かった回答は、一般高齢者では「公共交通機関が近くになく、不便である」が11.8％、在宅高齢者では「その他」が15.0％となっている。

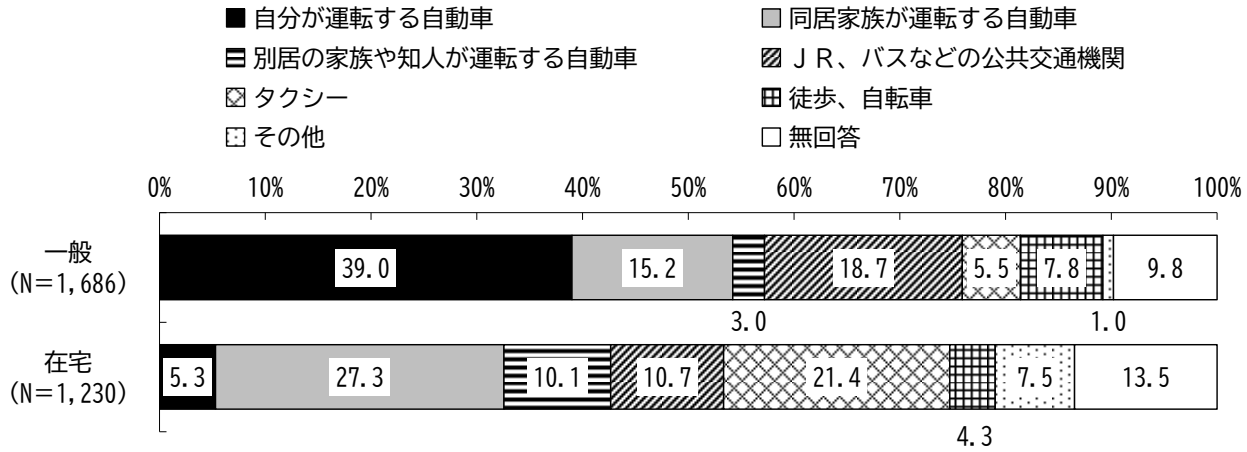


（３）外出の際に最も利用する移動手段

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

外出する際に最も多く使用する移動手段については、一般高齢者では「自分が運転する自動車」が39.0％と最も多く、次いで「ＪＲ、バスなどの公共交通機関」が18.7％、「同居家族が運転する自動車」が15.2％となっている。

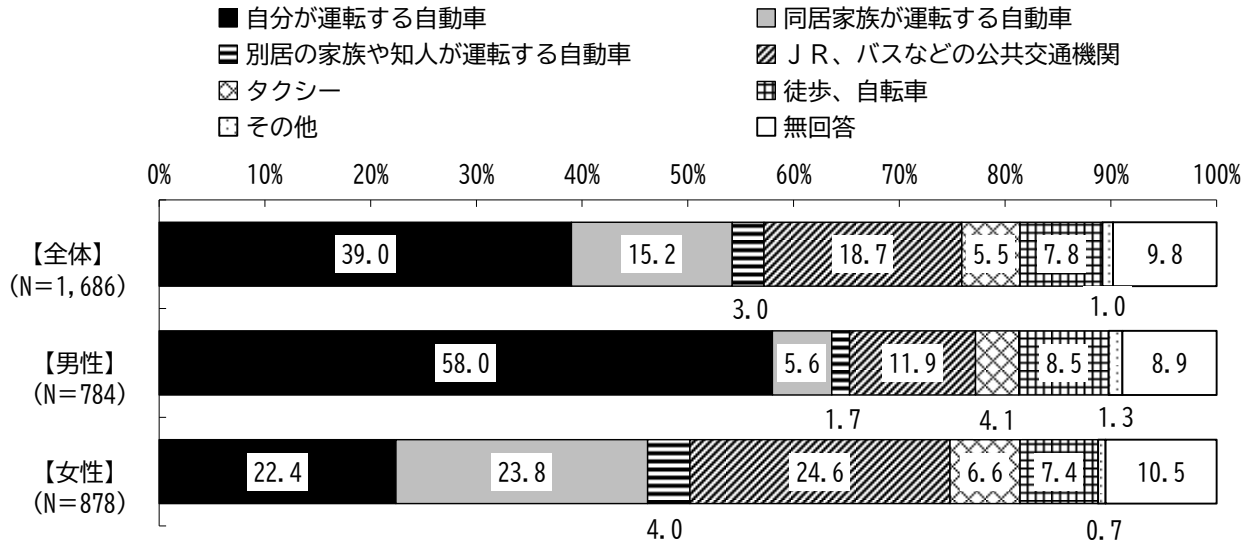
在宅高齢者では「同居家族が運転する自動車」が27.3％と最も多く、次いで「タクシー」が21.4％、「ＪＲ、バスなどの公共交通機関」が10.7％となっている。



【属性別特徴】

一般高齢者について男女別にみると、男性では「自分が運転する自動車」の割合が女性に比べ大幅に高い一方、「ＪＲ、バスなどの公共交通機関」の割合が低くなっている。

一般高齢者（男女別）

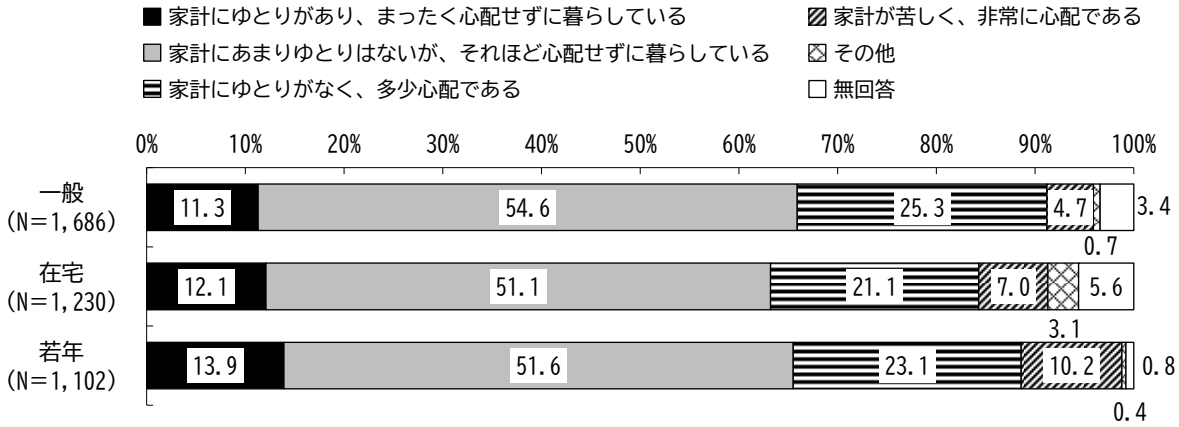


１５．暮らし向き

（１）現在の暮らし向き

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

現在の暮らし向きについては、「家計にゆとりがあり、まったく心配せずに暮らしている」は、一般高齢者で11.3%、在宅高齢者で12.1%、若年者で13.9%となっている。「家計にあまりゆとりはないが、それほど心配せずに暮らしている」は一般高齢者で54.6%、在宅高齢者で51.1%、若年者で51.6%となっており、過半数を占めている。



【令和元年度】
「家計にゆとりがあり、まったく心配せずに暮らしている」
一般：９.５%　在宅：９.２%　若年：９.３%

「家計にあまりゆとりはないが、それほど心配せずに暮らしている」
一般：５７.８%　在宅：５３.０%　若年：５２.１%

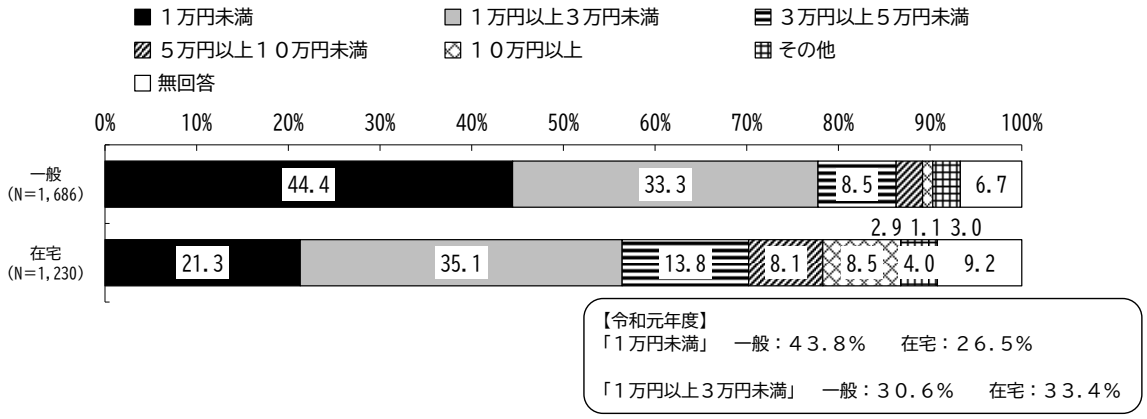
「家計にゆとりがなく、多少心配である」
一般：２３.４%　在宅：２２.７%　若年：２６.１%

（２）保健・医療・福祉関係サービスへの支出

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

保健・医療・福祉関係のサービスに対して支払っている金額（月額）について尋ねたところ、一般高齢者では「1万円未満」が44.4%と最も多く、次いで「1万円以上3万円未満」が33.3%、「3万円以上5万円未満」が8.5%となっている。

在宅高齢者では「1万円以上3万円未満」が35.1%と最も多く、次いで「1万円未満」が21.3%、「3万円以上5万円未満」が13.8%となっている。



【令和元年度】
「１万円未満」　一般：４３.８%　在宅：２６.５%

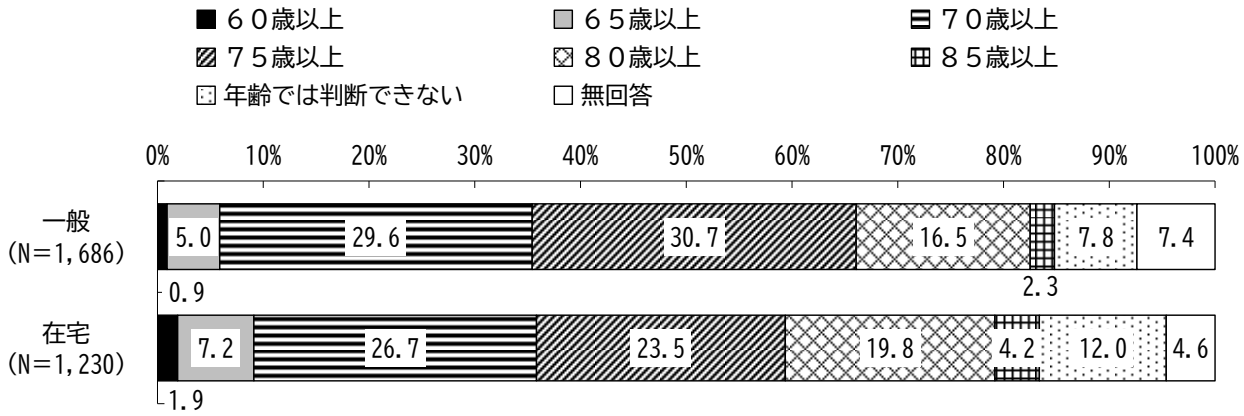
「１万円以上３万円未満」　一般：３０.６%　在宅：３３.４%

１６．高齢者

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

何歳頃から「高齢者」だと思うか尋ねたところ、一般高齢者では「75歳以上」が30.7％と最も多く、次いで「70歳以上」が29.6％、「80歳以上」が16.5％となっている。

在宅高齢者では「70歳以上」が26.7％と最も多く、次いで「75歳以上」が23.5％、「80歳以上」が19.8％となっている。



【令和元年度】

「８０歳以上」　一般：１３.５％　在宅：１７.９％

「７５歳以上」　一般：３０.９％　在宅：２８.８％

「７０歳以上」　一般：２９.８％　在宅：２７.４％

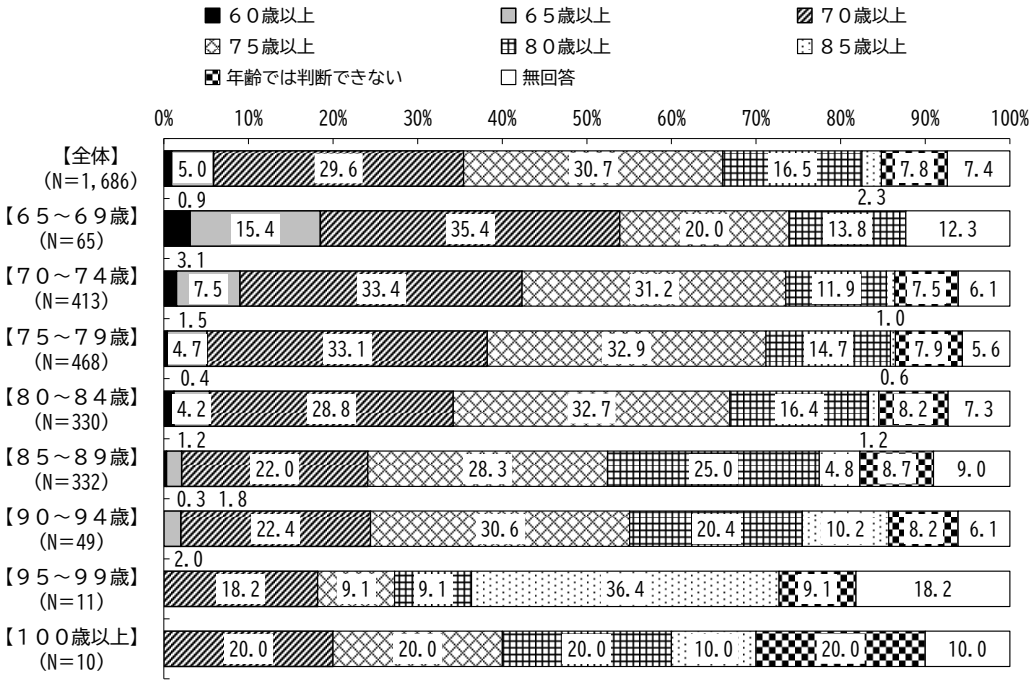
【属性別特徴】

年齢別にみると、おおむね回答者の年齢があがるにつれて「高齢者」という言葉からイメージする年齢は高くなる傾向がみられる。

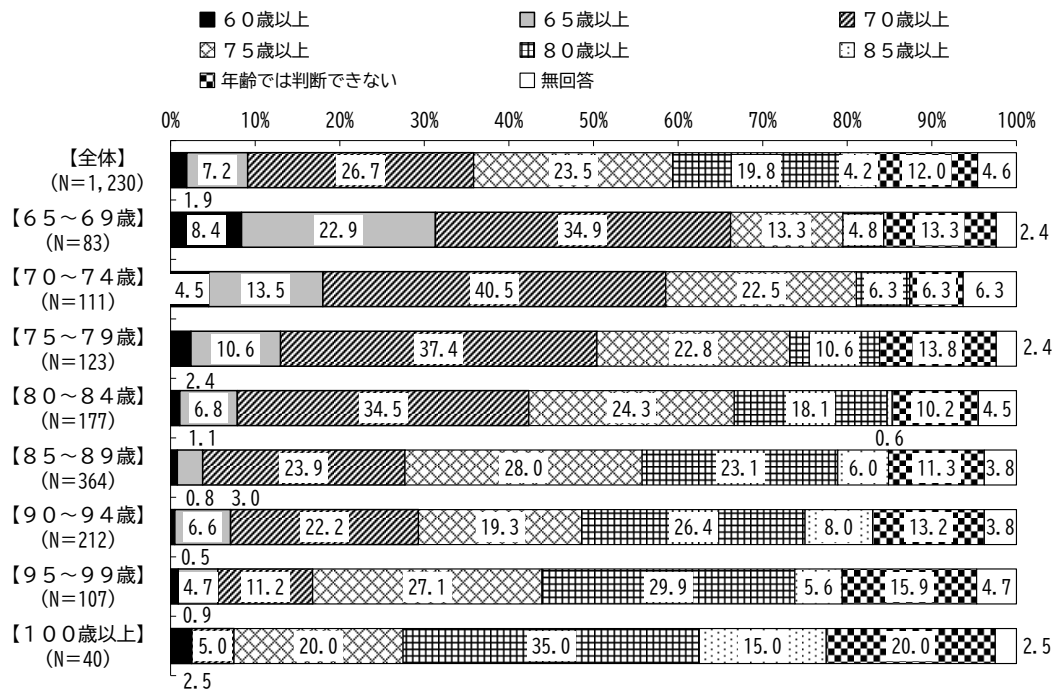
一般高齢者についてみると、79歳以下の年齢層では「70歳以上」が最も多くなっているが、80歳以上94歳以下の年齢層では「75歳以上」が最も多くなっている。

在宅高齢者については、84歳以下の年齢層では「70歳以上」が最も多く、85～89歳では「75歳以上」が最も多く、90歳以上の年齢層では「80歳以上」が最も多くなっている。

一般高齢者（年齢別）



在宅高齢者（年齢別）

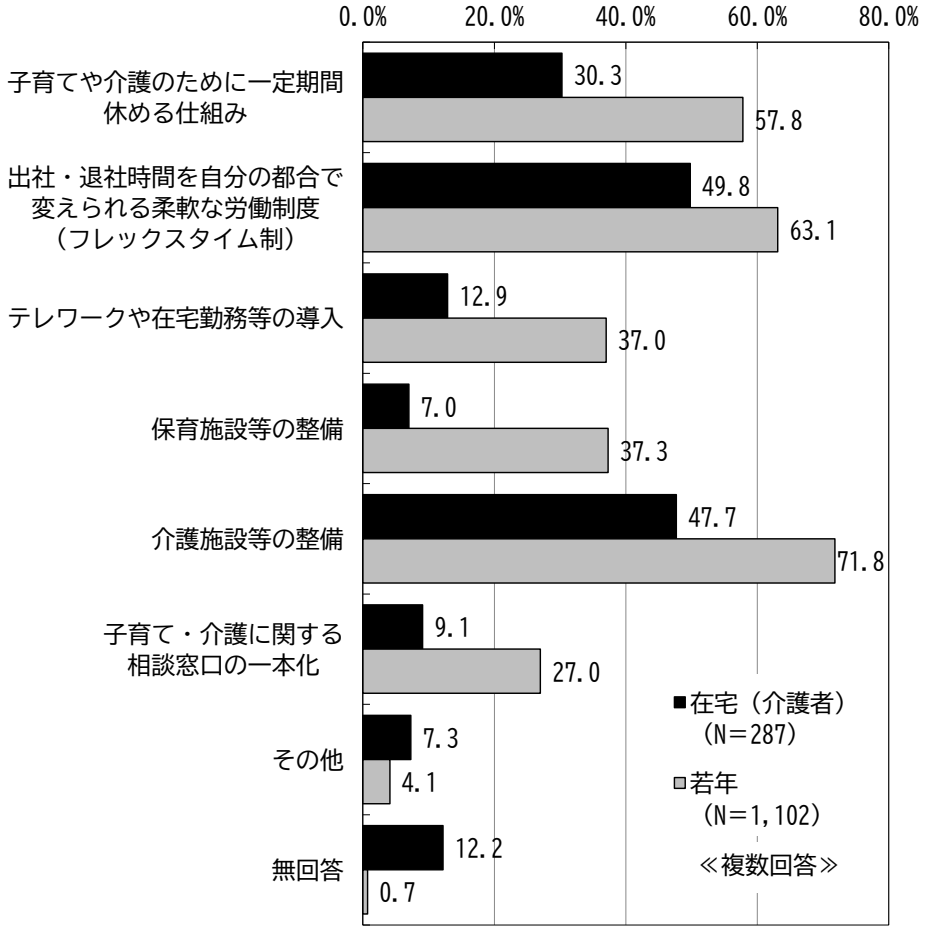


１７．高齢者福祉施策

（１）介護者の負担軽減のために必要な支援
対象：『在宅高齢者（介護者）』、『若年者』

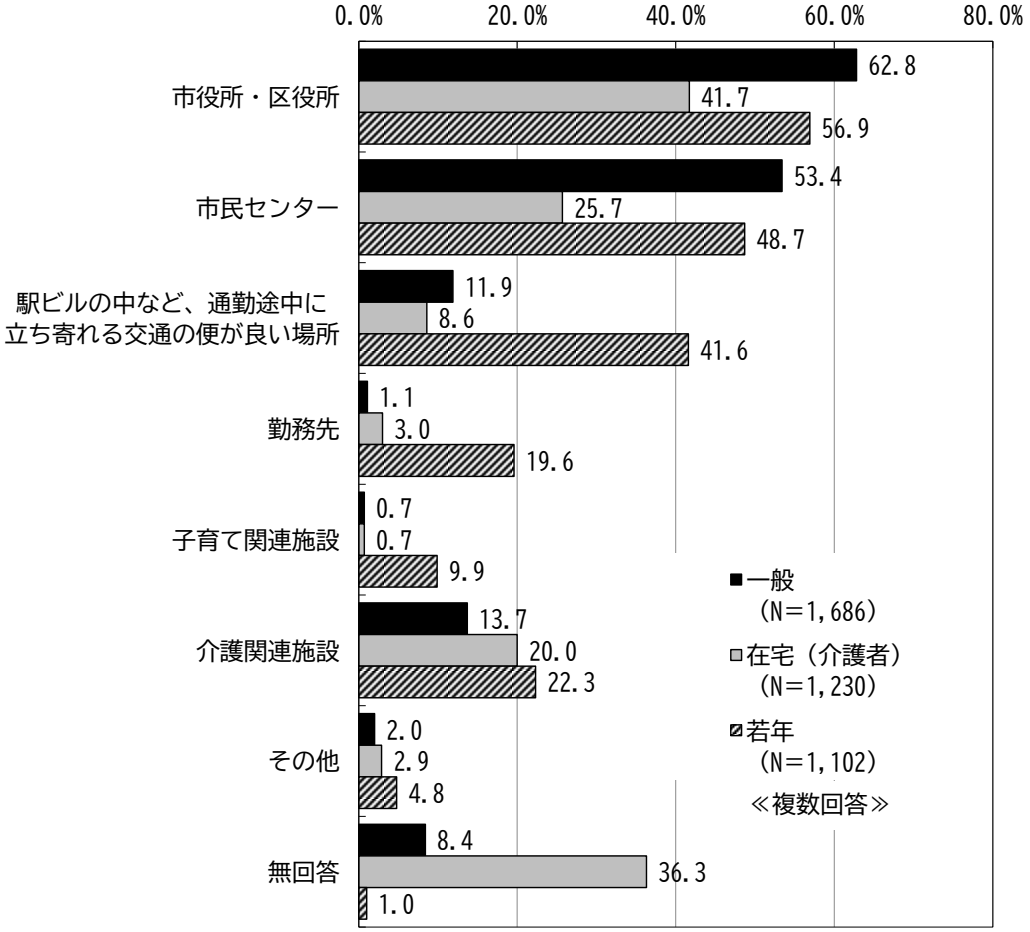
介護者の負担を軽くするために、どのような支援が必要と思うか尋ねたところ、現在働いている在宅高齢者の介護者では「出社・退社時間を自分の都合で変えられる柔軟な労働制度（フレックスタイム制）」が49.8％と最も多く、次いで「介護施設等の整備」が47.7％、「子育てや介護のために一定期間休める仕組み」が30.3％となっている。

若年者では「介護施設等の整備」が71.8％と最も多く、次いで「出社・退社時間を自分の都合で変えられる柔軟な労働制度（フレックスタイム制）」が63.1％、「子育てや介護のために一定期間休める仕組み」が57.8％となっている。



（２）相談窓口がどこにあれば気軽に立ち寄れるか
対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者（介護者）』、『若年者』

福祉に関する相談窓口がどこにあれば気軽に立ち寄れるか尋ねたところ、「市役所・区役所」が一般高齢者で62.8%、在宅高齢者（介護者）で41.7%、若年者で56.9%と最も多く、次いで「市民センター」が一般高齢者で53.4%、在宅高齢者（介護者）で25.7%、若年者で48.7%となっている。3番目に多かった回答は、一般高齢者、在宅高齢者（介護者）では「介護関連施設」が一般高齢者で13.7%、在宅高齢者（介護者）で20.0%となっている。若年者では「駅ビルの中など、通勤途中に立ち寄れる交通の便が良い場所」が41.6%となっている。



（３）北九州市が力を入れていくべき施策

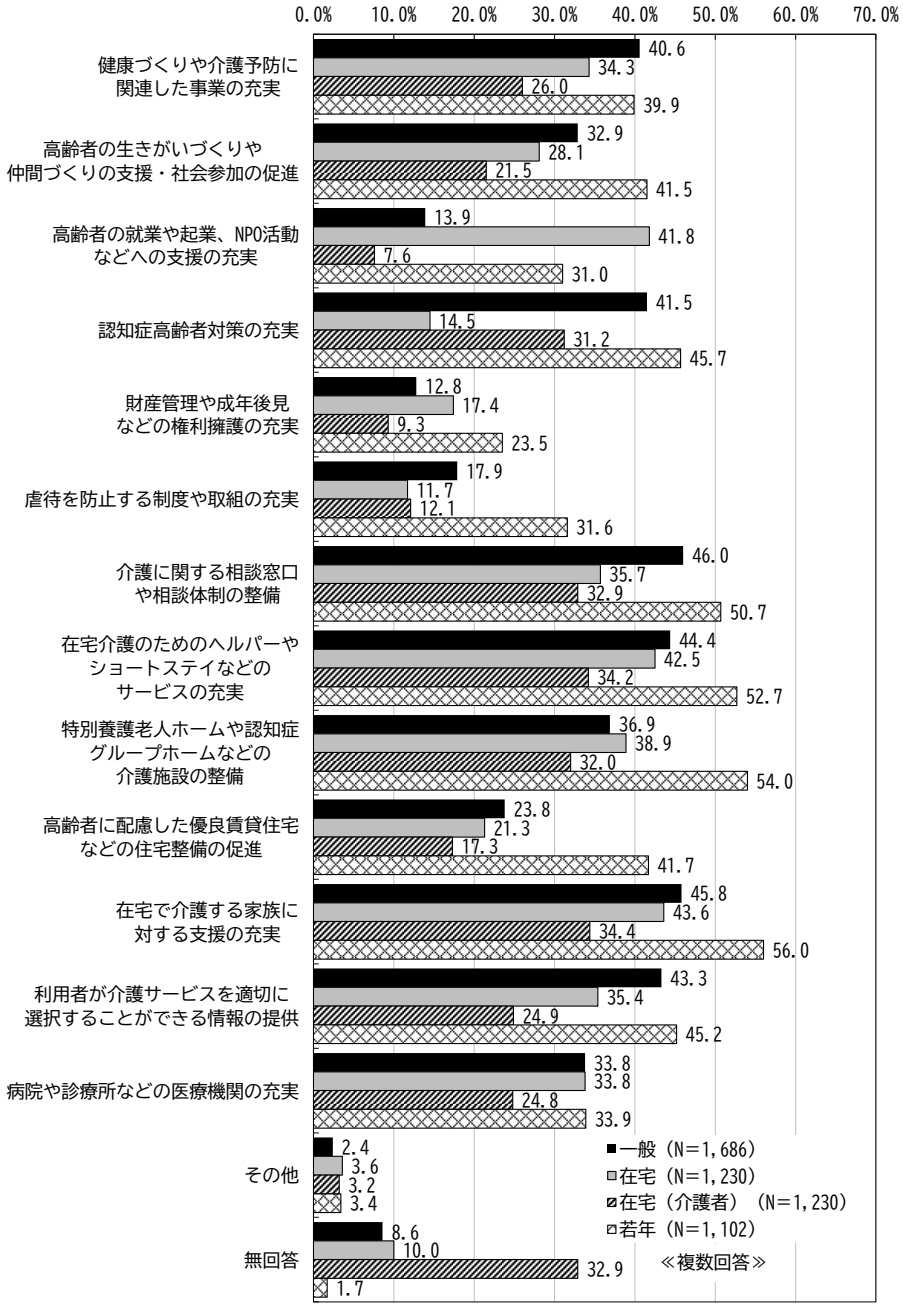
対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『在宅高齢者（介護者）』、『若年者』

どのような施策に力を入れていくべきか尋ねたところ、一般高齢者では「介護に関する相談窓口や相談体制の整備」が46.0％と最も多く、次いで「在宅で介護する家族に対する支援の充実」が45.8％となっている。

在宅高齢者本人では「在宅で介護する家族に対する支援の充実」が43.6％と最も多く、次いで「在宅介護のためのヘルパーやショートステイなどのサービスの充実」が42.5％となっている。

在宅高齢者（介護者）では「在宅で介護する家族に対する支援の充実」が34.4％と最も多く、次いで「在宅介護のためのヘルパーやショートステイなどのサービスの充実」が34.2％となっている。

若年者では「在宅で介護する家族に対する支援の充実」が56.0％と最も多く、次いで「特別養護老人ホームや認知症グループホームなどの介護施設の整備」が54.0％となっている。

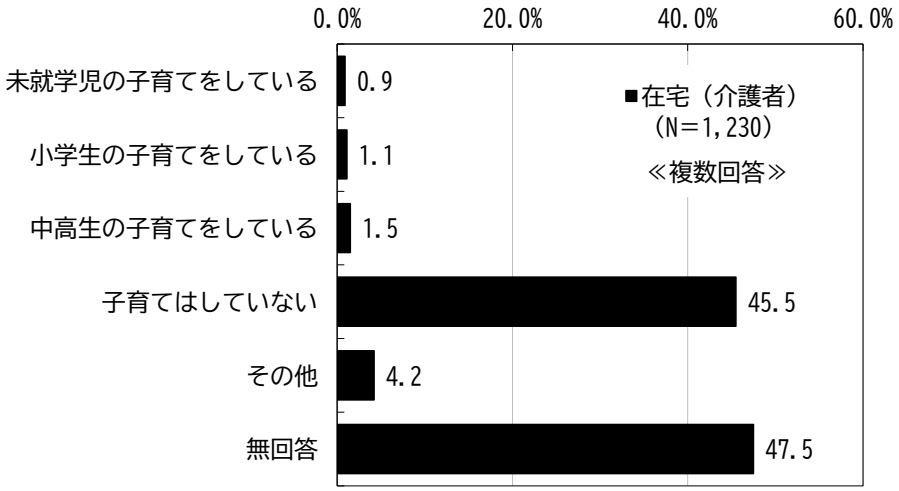


１８．子育てと介護（ダブルケア）

（１）子育ての状況

対象：『在宅高齢者（介護者）』

介護者が現在、子育てをしているか尋ねたところ、「子育てはしていない」が45.5％と最も多く、「中高生の子育てをしている」が1.5％、「小学生の子育てをしている」が1.1％、「未就学児の子育てをしている」が0.9％となっている。

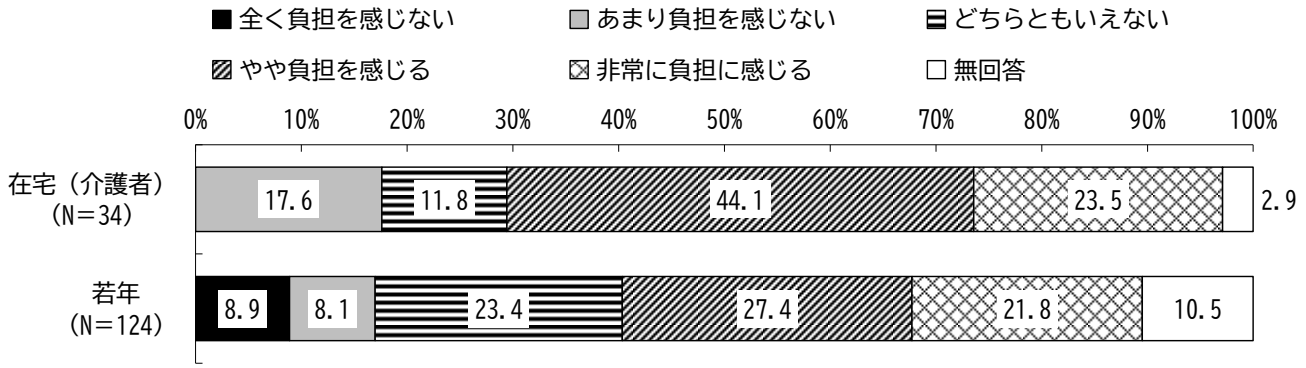


（２）子育て介護（ダブルケア）に対しての負担感

対象：『在宅高齢者（介護者）』、『若年者』

子育てと介護（ダブルケア）の負担感を尋ねたところ、在宅高齢者（介護者）は「やや負担を感じる」が44.1％と最も多く、次いで「非常に負担を感じる」が23.5％となっている。

若年者については、介護と子育ての両方をしているか尋ねたところ、有効回答数1,102名のうち124名（11.3％）から回答を得た。これらの124名に子育てと介護（ダブルケア）の負担感を尋ねたところ、「やや負担を感じる」が27.4％と最も多く、次いで「どちらともいえない」が23.4％となっている。

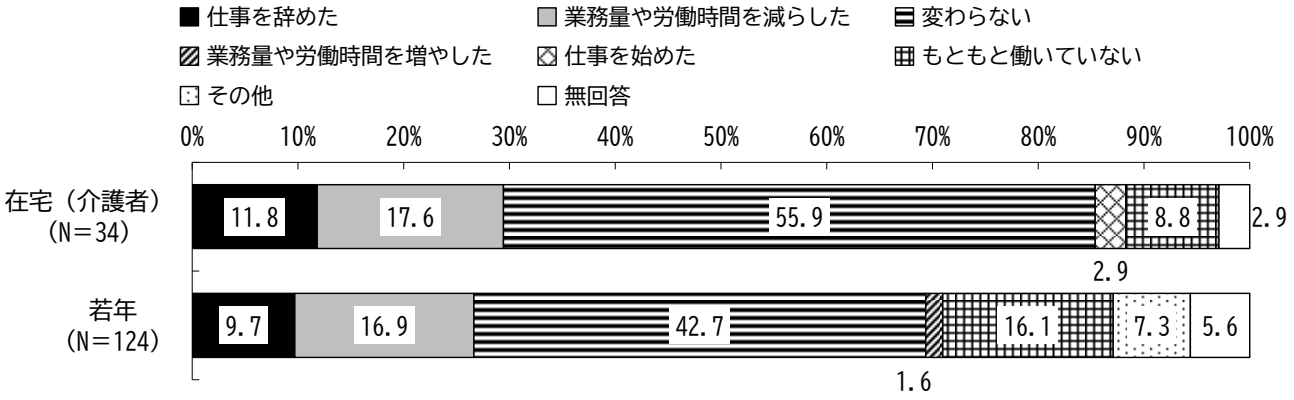


（３）ダブルケアによる就労状況の変化

対象：『在宅高齢者（介護者）』、『若年者』

ダブルケアが始まる前と後の就業状況の変化を尋ねたところ、在宅高齢者（介護者）では「変わらない」が55.9％と最も多く、次いで「業務量や労働時間を減らした」が17.6％、「仕事を辞めた」が11.8％となっている。

若年者では「変わらない」が42.7％と最も多く、次いで「業務量や労働時間を減らした」が16.9％、「もともと働いていない」が16.1％となっている。

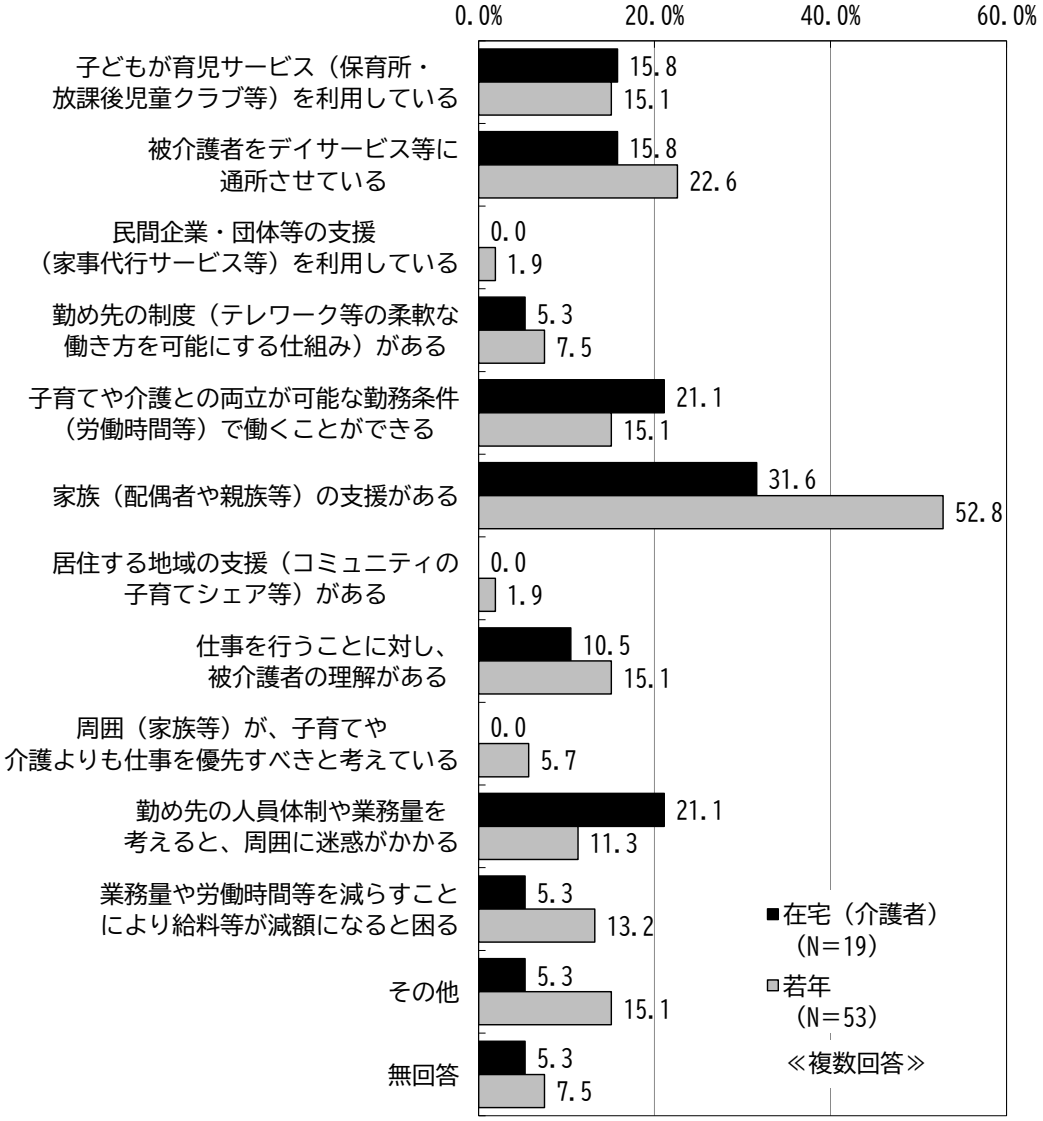


（３）－１　就業状況が変わらない理由

対象：『在宅高齢者（介護者）』、『若年者』

就業状況が変わらないと答えた人にその理由を尋ねたところ、在宅高齢者（介護者）では「家族（配偶者や親族等）の支援がある」が31.6％と最も多く、次いで「子育てや介護との両立が可能な勤務条件（労働時間等）で働くことができる」「勤め先の人員体制や業務量を考えると、周囲に迷惑がかかる」が21.1％、「子どもが育児サービス（保育所・放課後児童クラブ等）を利用している」「被介護者をデイサービス等に通所させている」が15.8％となっている。

若年者では「家族（配偶者や親族等）の支援がある」が52.8％と最も多く、次いで「被介護者をデイサービス等に通所させている」が22.6％となっている。

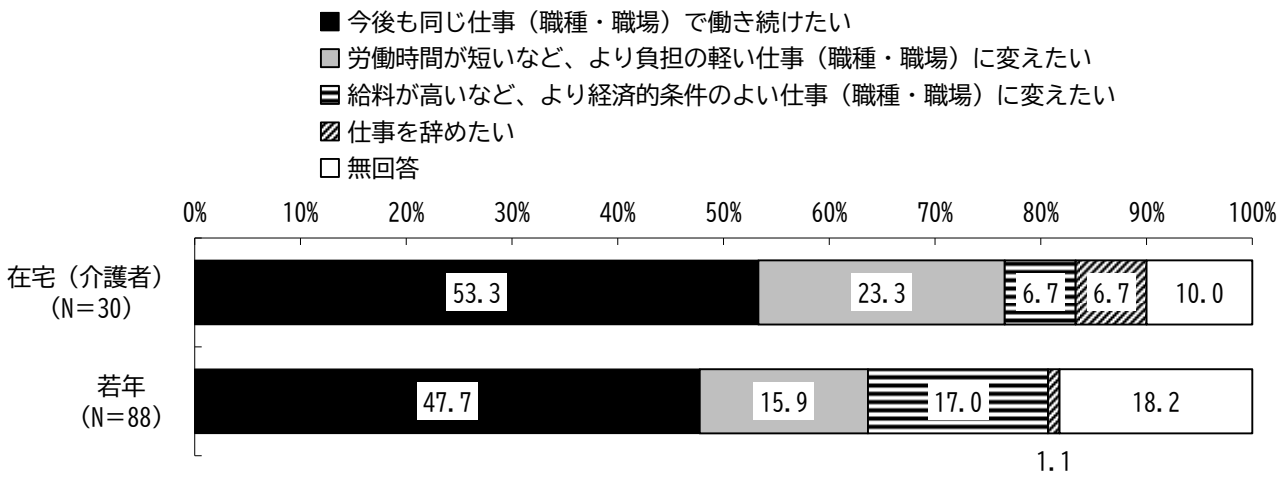


（３）－２　今後の働き方

対象：『在宅高齢者（介護者）』、『若年者』

今後どのような働き方（働かない場合も含めて）を考えているか尋ねたところ、在宅高齢者（介護者）では「今後も同じ仕事（職種・職場）で働き続けたい」が53.3％と最も多く、次いで「労働時間が短いなど、より負担の軽い仕事（職種・職場）に変えたい」が23.3％となっている。

若年者では「今後も同じ仕事（職種・職場）で働き続けたい」が47.7％と最も多く、次いで「給料が高いなど、より経済的条件のよい仕事（職種・職場）に変えたい」が17.0％となっている。



【令和元年度】
「今後も同じ仕事（職種・職場）で働き続けたい」
在宅（介護者）：５０．０％　若年：４５．７％

「労働時間が短いなど、より負担の軽い仕事（職種・職場）に変えたい」
在宅（介護者）：２１．４％　若年：１６．７％

「給料が高いなど、より経済的条件のよい仕事（職種・職場）に変えたい」
在宅（介護者）：９．５％　若年：１３．０％

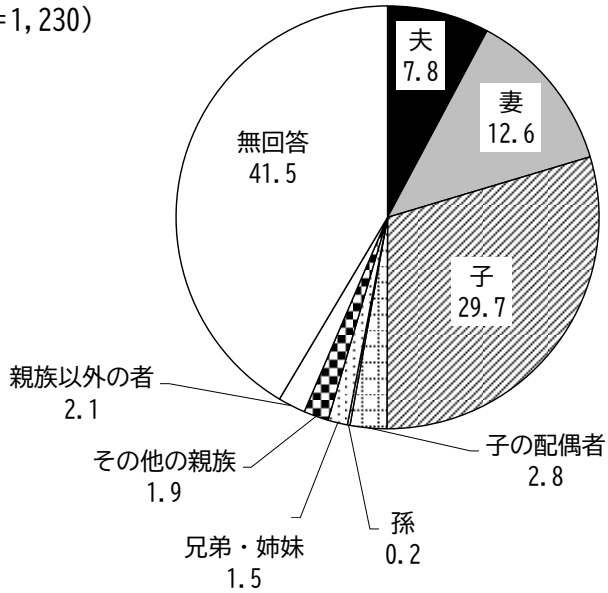
第４章　在宅高齢者の介護者

１．主な介護者

（１）要介護者との続柄

要介護者との続柄については、「子」が29.7％と最も多く、次いで「妻」が12.6％、「夫」が7.8％、「子の配偶者」が2.8％となっている。

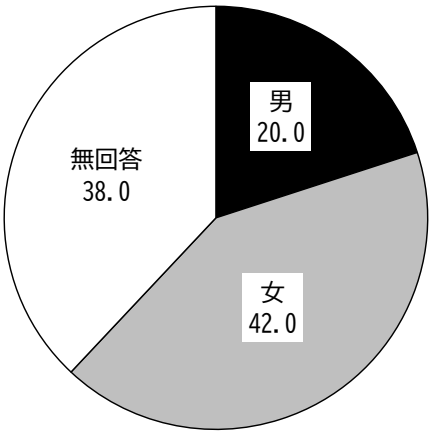
在宅（介護者）
（N＝1,230）



（２）性別

性別は、男性が20.0％、女性が42.0％となっており、女性の介護者が多い。

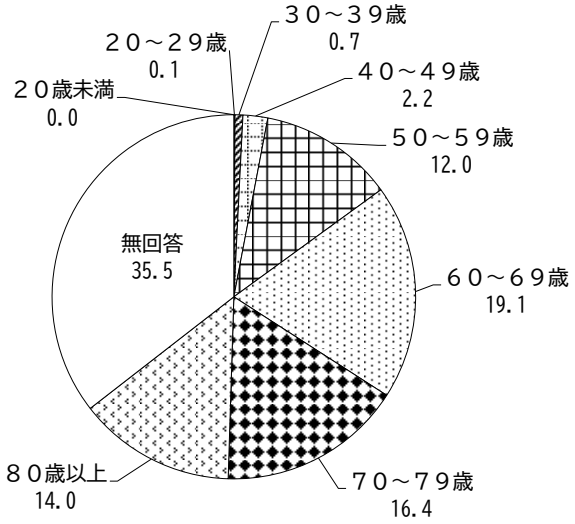
在宅（介護者）
（N＝1,230）



（３）年齢

介護者の年齢は、「60～69歳」が19.1％と最も多く、次いで「70～79歳」が16.4％、「80歳以上」が14.0％、「50～59歳」が12.0％となっている。

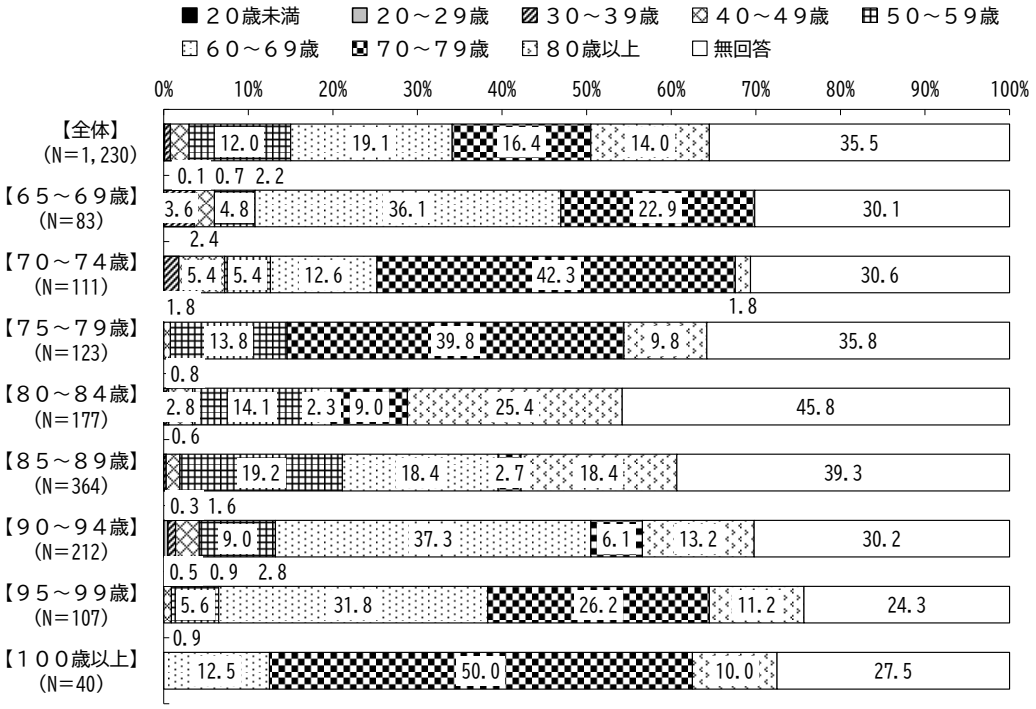
在宅（介護者）
（N＝1,230）



【属性別特徴】

在宅高齢者について年齢別にみると、調査対象者の年齢が65～69歳では、主な介護者の年齢が「60～69歳」、調査対象者の年齢が70～74歳、75～79歳では主な介護者の年齢が「70～79歳」の割合が約4割を占め、同世代が介護をしているケースが多い様子がうかがえる。調査対象者の年齢が85～89歳においては、主な介護者の年齢が子世代である「50～59歳」、「60～69歳」の割合が2割弱と高まっている。調査対象者の年齢が90～94歳、95～99歳では、主な介護者の年齢が「60～69歳」が3割以上を占めており、子世代による介護に移行している様子がうかがえる。

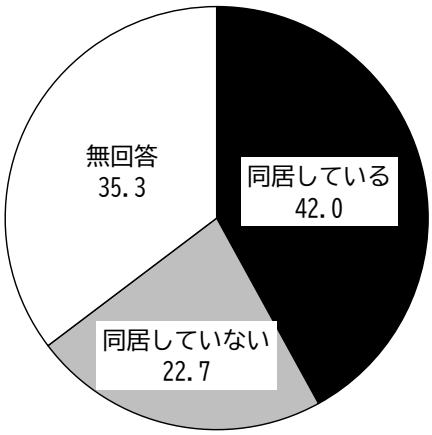
在宅高齢者（年齢別）



（４）要介護者との同居の状況

要介護者との同居の状況については、「同居している」が42.0%、「同居していない」が22.7%となっている。

在宅（介護者）
（N＝1,230）



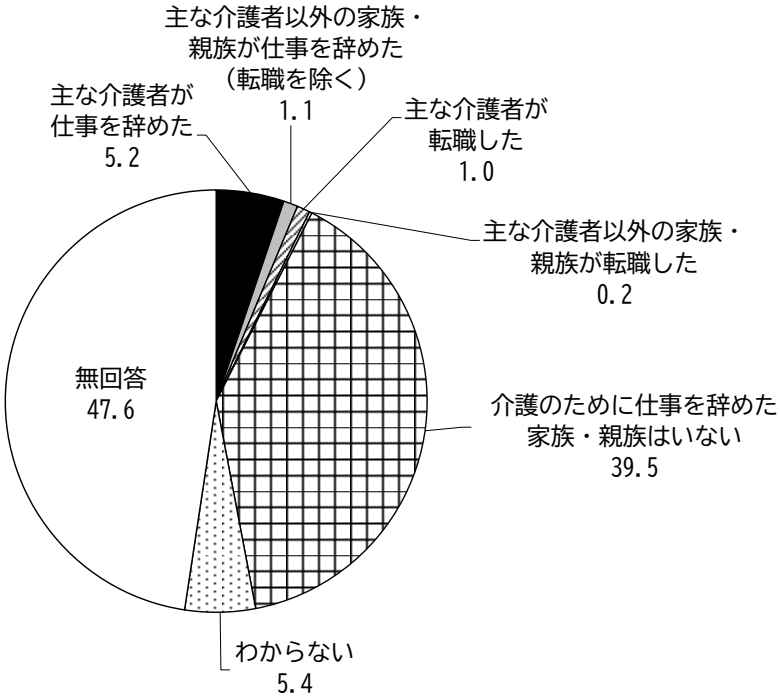
【令和元年度】
「同居している」
在宅（介護者）：４２.１％

「同居していない」
在宅（介護者）：２３.６％

（５）介護を主な理由として過去１年間に仕事を辞めたか

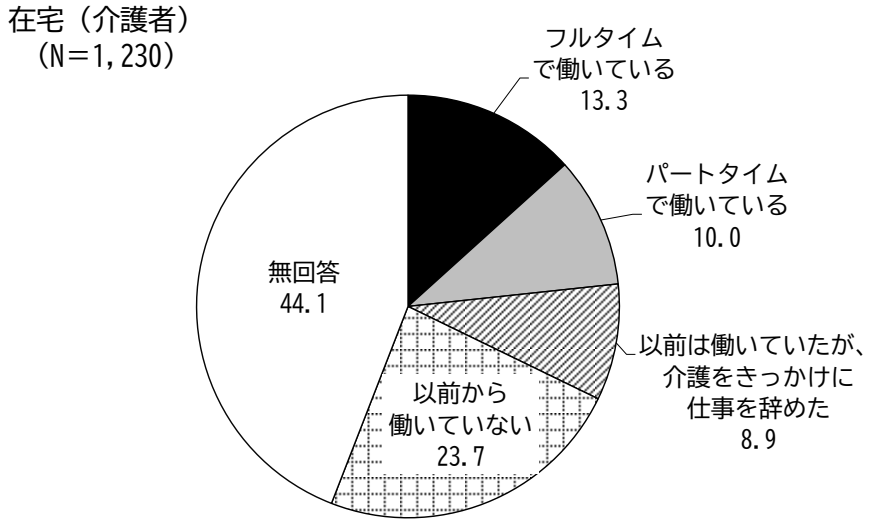
介護を主な理由として過去１年間に仕事を辞めたかについて尋ねたところ、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が39.5%と最も多く、次いで「わからない」が5.4%、「主な介護者が仕事を辞めた」が5.2%となっている。

在宅（介護者）
（N＝1,230）



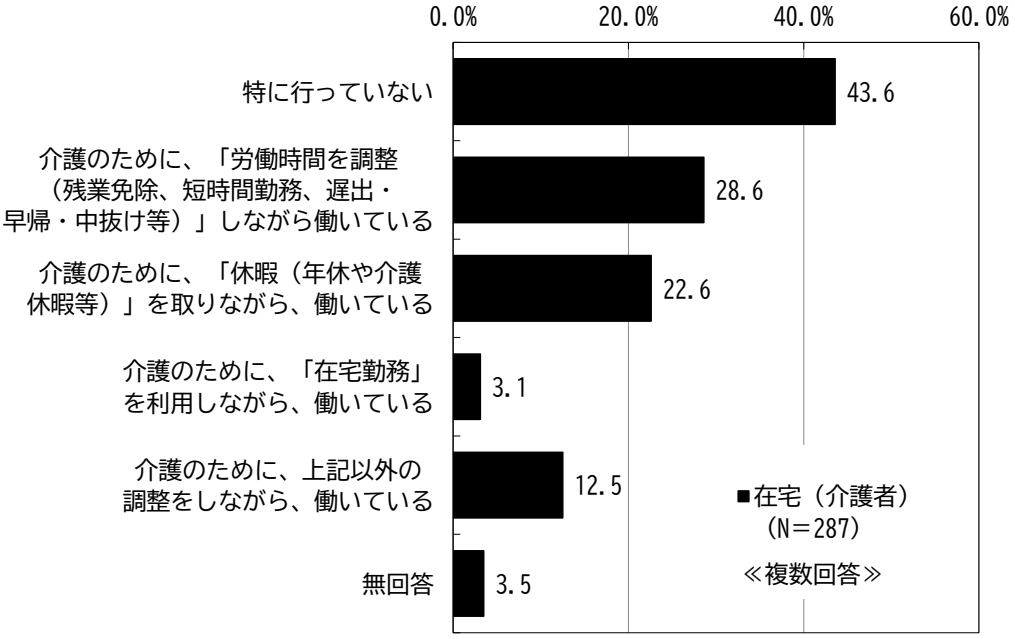
（６）勤務形態

介護者の勤務形態については、「以前から働いていない」が23.7％と最も多く、次いで「フルタイムで働いている」が13.3％、「パートタイムで働いている」が10.0％、「以前は働いていたが、介護をきっかけに仕事を辞めた」が8.9％となっている。



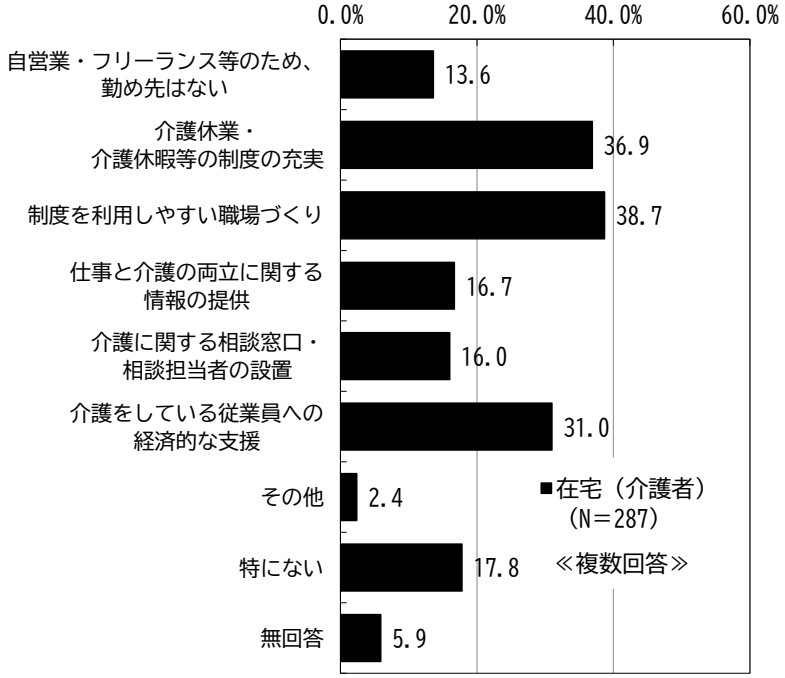
（６）－１　働き方の調整等

働いている介護者に対し、働き方の調整等をしているか尋ねたところ、「特に行っていない」が43.6％と最も多く、「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）』をしながら働いている」が28.6％、「介護のために、『休暇（年休や介護休暇等）』を取りながら、働いている」が22.6％、「介護のために、上記以外の調整をしながら、働いている」が12.5％となっている。



（６）－２　勤務先からの効果的な支援

働いている介護者に対し、勤め先からどのような支援があれば仕事と介護の両立に効果があると思うか尋ねたところ、「制度を利用しやすい職場づくり」が38.7%と最も多く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が36.9%、「介護をしている従業員への経済的な支援」が31.0%となっている。

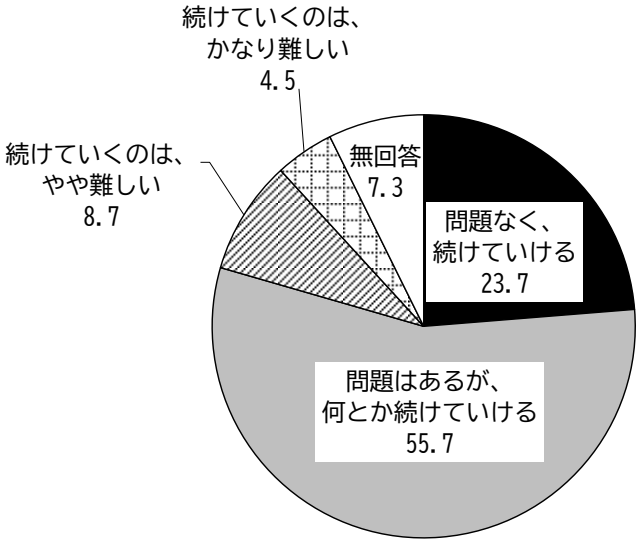


【令和元年度】
在宅（介護者）
３３．９％「制度を利用しやすい職場づくり」
３１．９％「介護休業・介護休暇等の制度の充実」
２７．５％「介護をしている従業員への経済的な支援」

（６）－３　介護継続の可能性

働いている介護者に対し、今後も働きながら介護を続けていけそうか尋ねたところ、「問題はあるが、何とか続けていける」が55.7%と最も多く、次いで「問題なく続けていける」が23.7%、「続けていくのは、やや難しい」が8.7%、「続けていくのは、かなり難しい」が4.5%となっている。

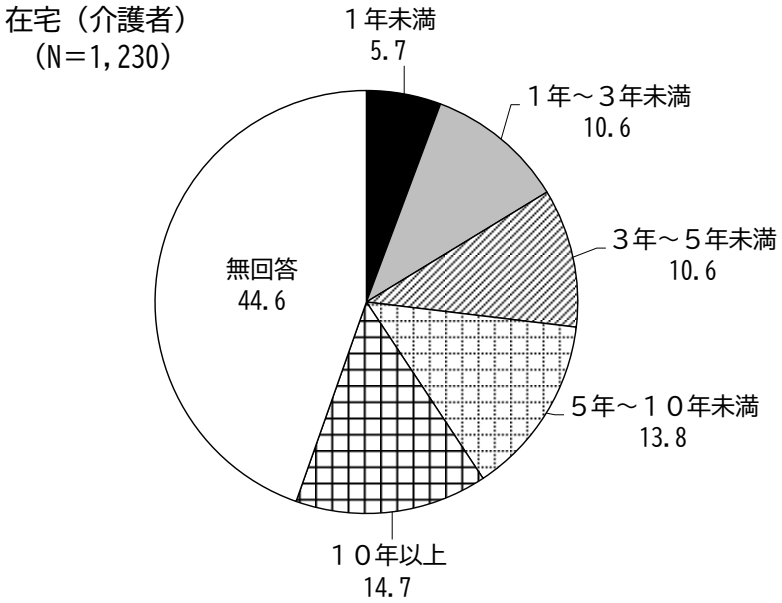
在宅（介護者）
（N＝287）



２．介護の状況

（１）介護期間

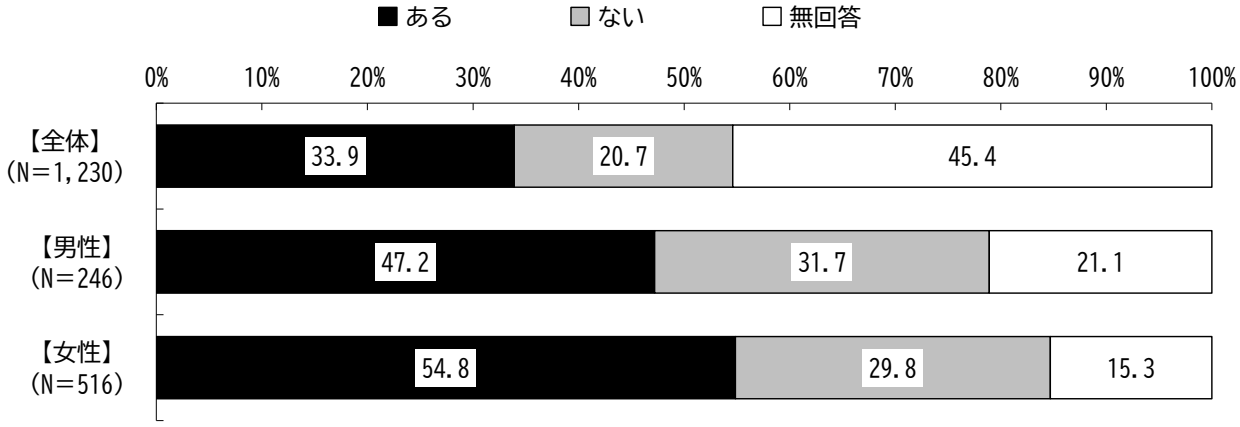
主な介護者がこれまで介護してきた期間を尋ねたところ、「10年以上」が14.7％と最も多く、次いで「5年～10年未満」が13.8％、「1年～3年未満」「3年～5年未満」が10.6％となっている。



（２）困っていることの有無

主な介護者が現在介護するうえで困っていることがあるか尋ねたところ、「ある」が33.9％、「ない」が20.7％となっている。

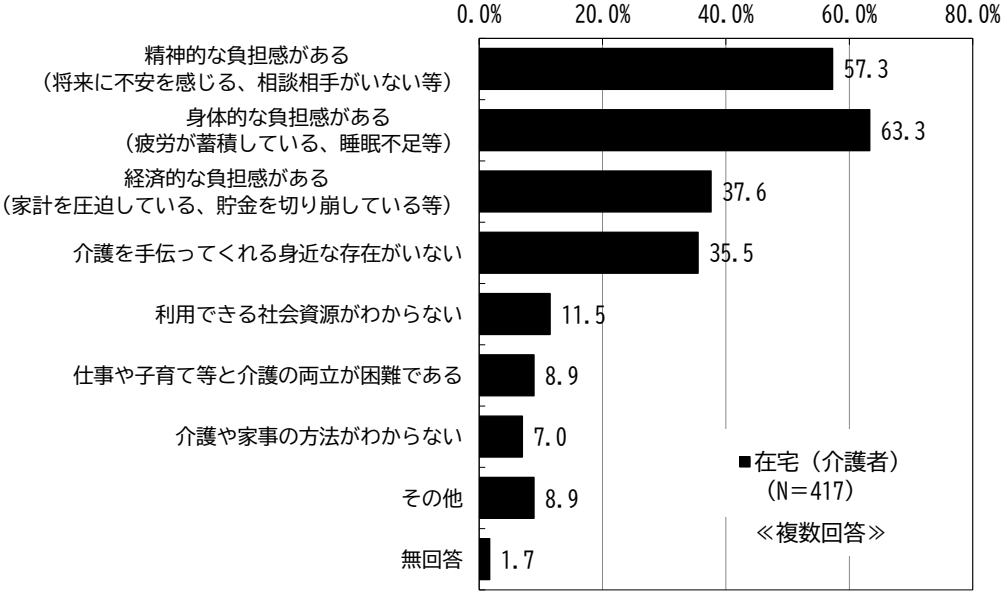
男女別にみると、女性では「ある」が54.8％となっており、半数以上が現在介護するうえで困っていることがあると回答している。



（２）－１　介護するうえで困っている内容

困っていることがある介護者に対し、困っていることは何か尋ねたところ、「身体的な負担感がある（疲労が蓄積している、睡眠不足等）」が63.3％と最も多く、「精神的な負担感がある（将来に不安を感じる、相談相手がいない等）」が57.3％、「経済的な負担感がある（家計を圧迫している、貯金を切り崩している等）」が37.6％、「介護を手伝ってくれる身近な存在がいない」が35.5％となっている。

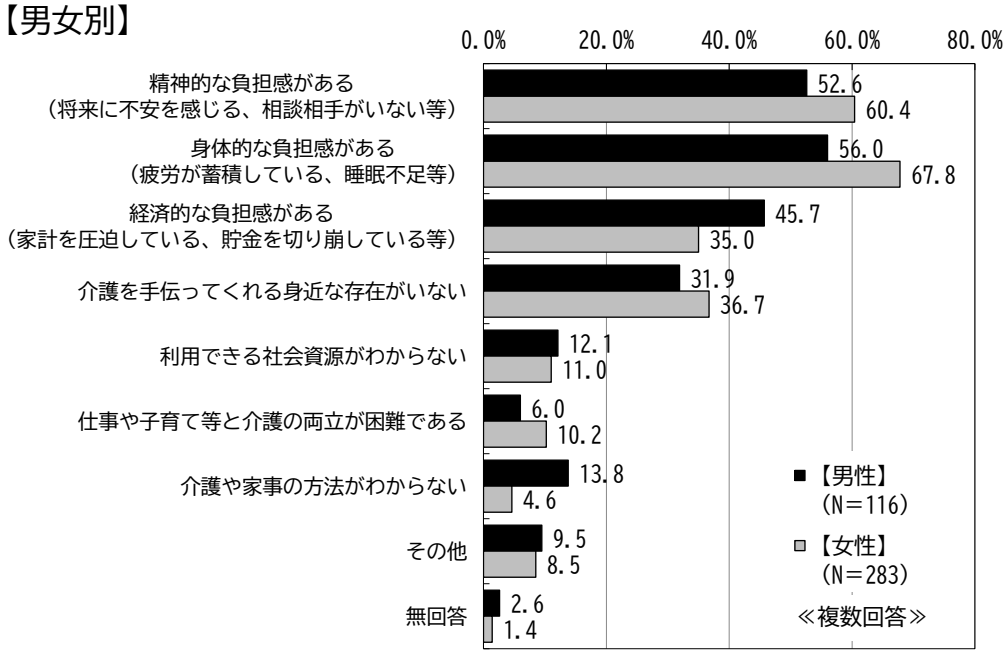
【全体】



【属性別特徴】

男女別にみると、「精神的な負担感がある（将来に不安を感じる、相談相手がいない等）」、「身体的な負担感がある（疲労が蓄積している、睡眠不足等）」の割合は女性の方が男性よりも高く、「経済的な負担感がある（家計を圧迫している、貯金を切り崩している等）」の割合は男性の方が女性よりも高くなっている。

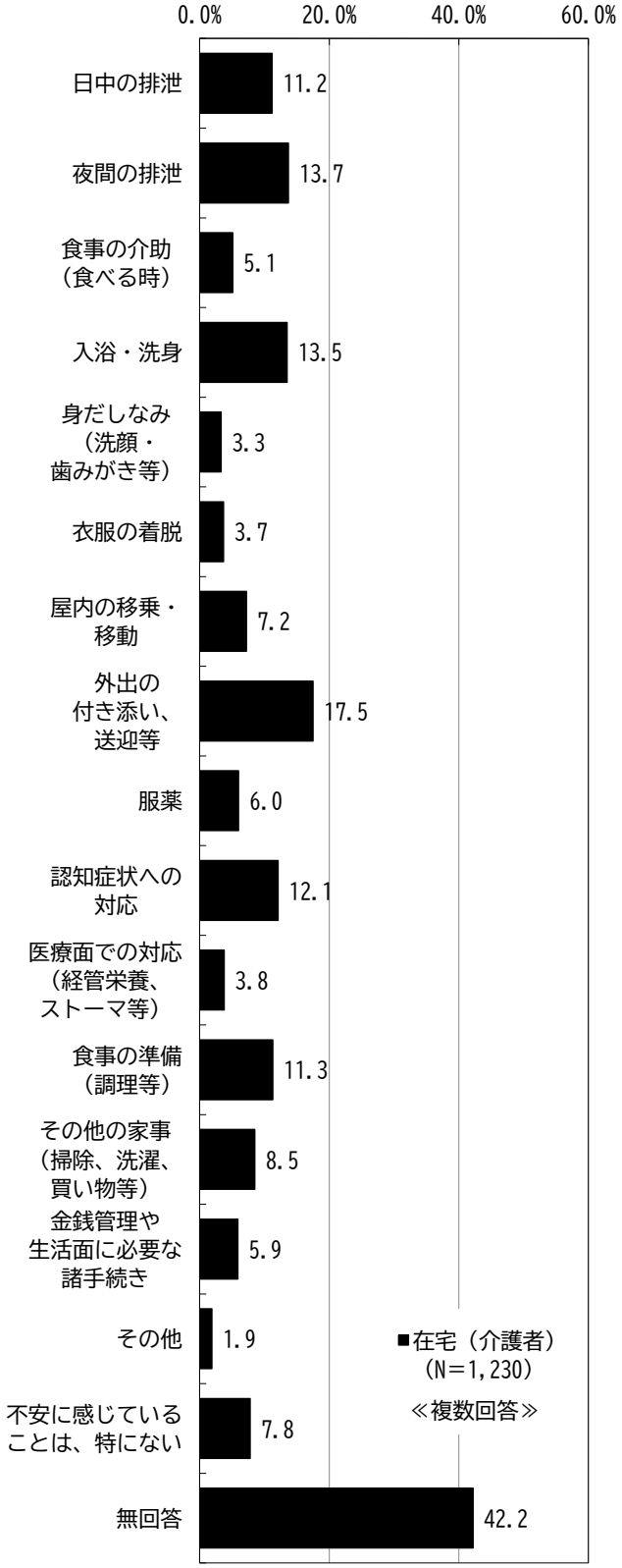
【男女別】



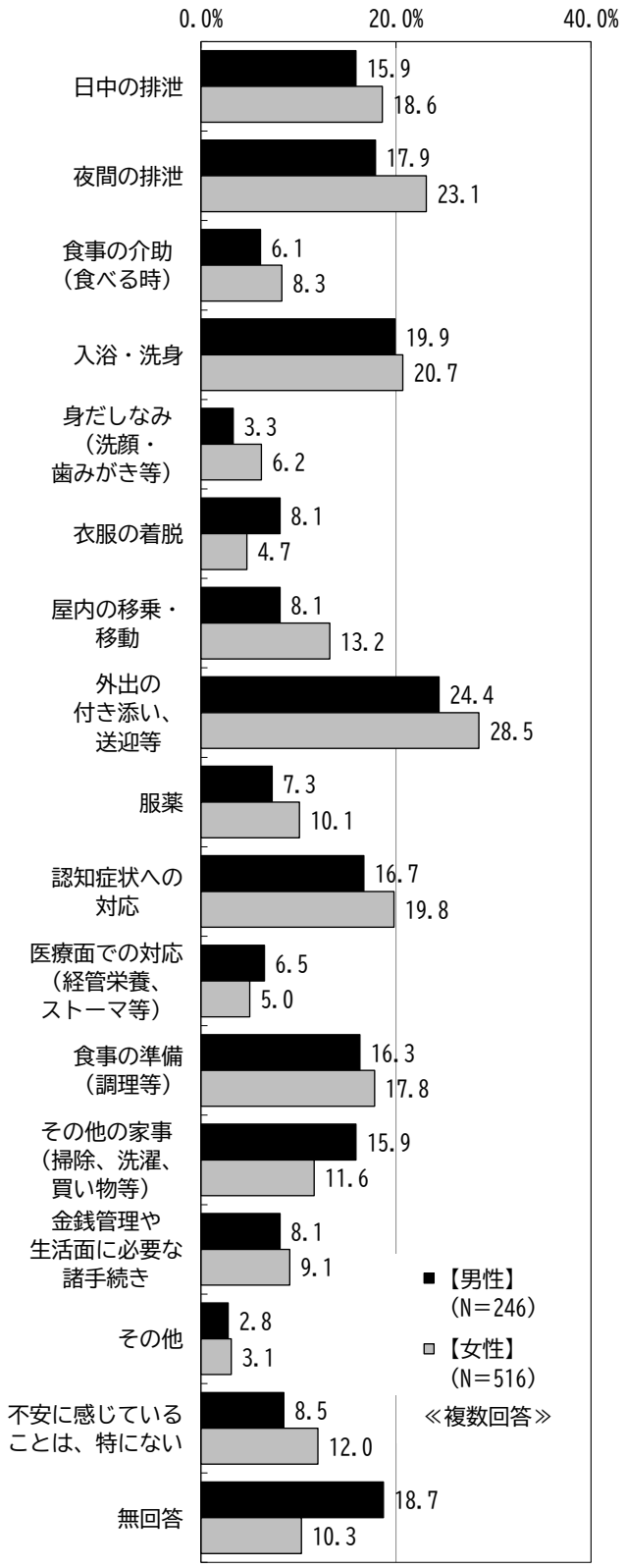
（３）主な介護者が不安に感じる介護

主な介護者が不安に感じる介護については、「外出の付き添い、送迎等」が17.5％と最も多く、次いで「夜間の排泄」が13.7％、「入浴・洗身」が13.5％、「認知症状への対応」が12.1％、「食事の準備（調理等）」が11.3％となっている。

【全体】



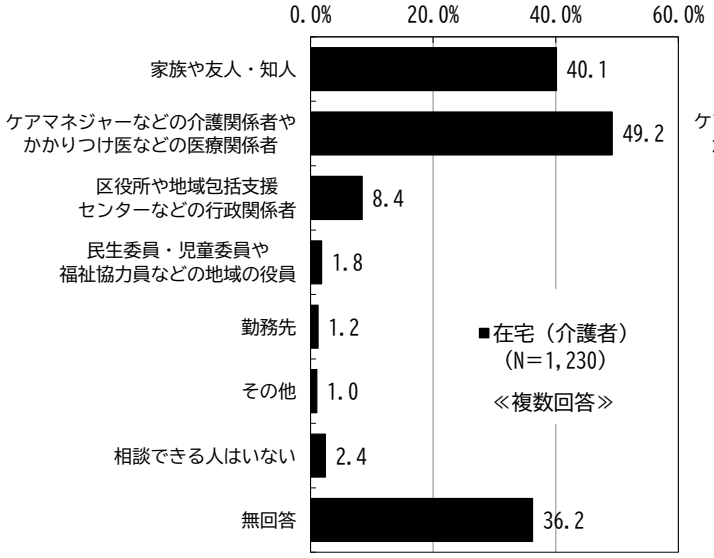
【男女別】



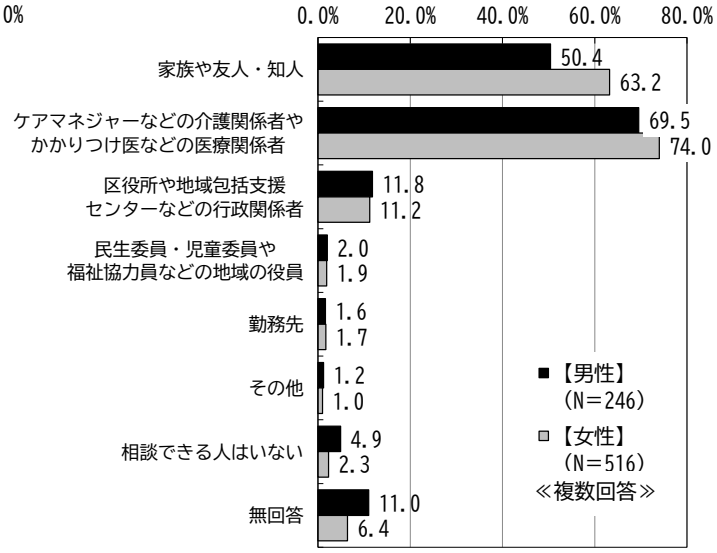
（４）相談相手

介護のことで困ったときに相談する相手については、「ケアマネジャーなどの介護関係者やかかりつけ医などの医療関係者」が49.2%と最も多く、次いで「家族や友人・知人」が40.1%となっている。

【全体】

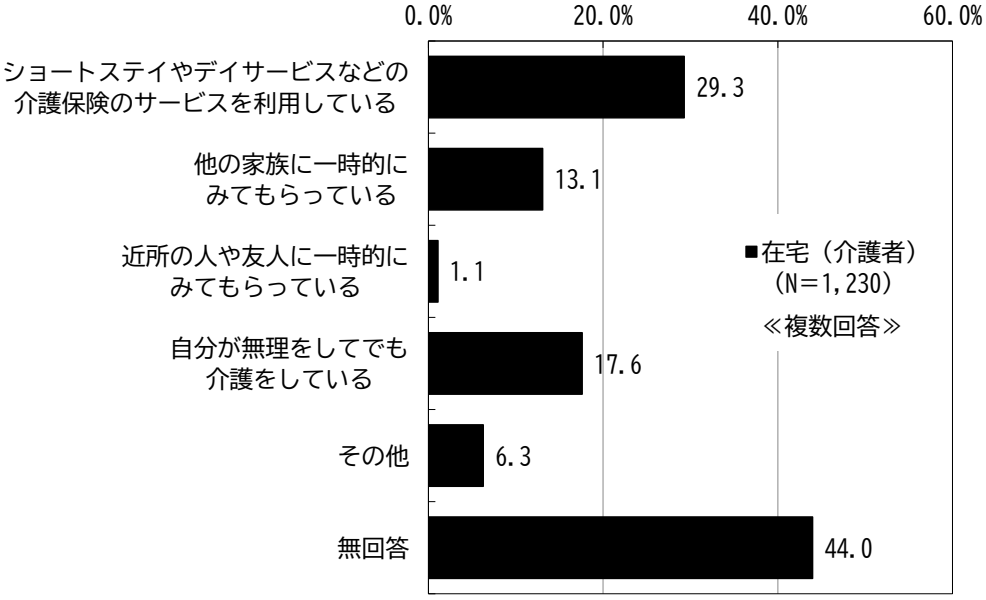


【男女別】



（５）介護困難時の対処方法

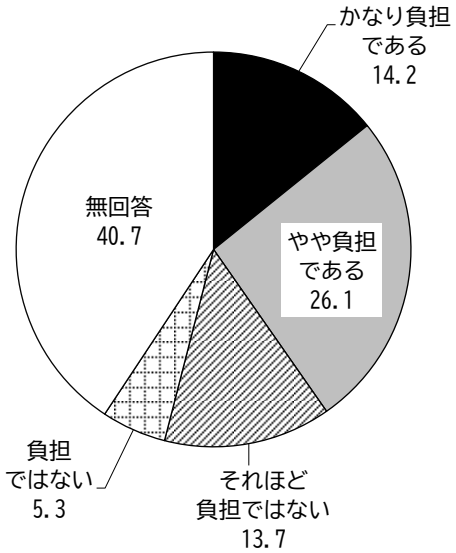
介護をすることが困難な場合にどのような対処をしているか尋ねたところ、「ショートステイやデイサービスなどの介護保険のサービスを利用している」が29.3%と最も多く、次いで「自分が無理をしてでも介護している」が17.6%、「他の家族に一時的にみてもらっている」が13.1%となっている。



（６）介護の負担感

介護者が感じている介護の負担感については、「かなり負担である」が14.2%、「やや負担である」が26.1%となっており、介護に負担を感じている人は40.3%となっている。一方で、「それほど負担ではない」は13.7%、「負担ではない」は5.3%となっている。

在宅（介護者）
（N＝1,230）

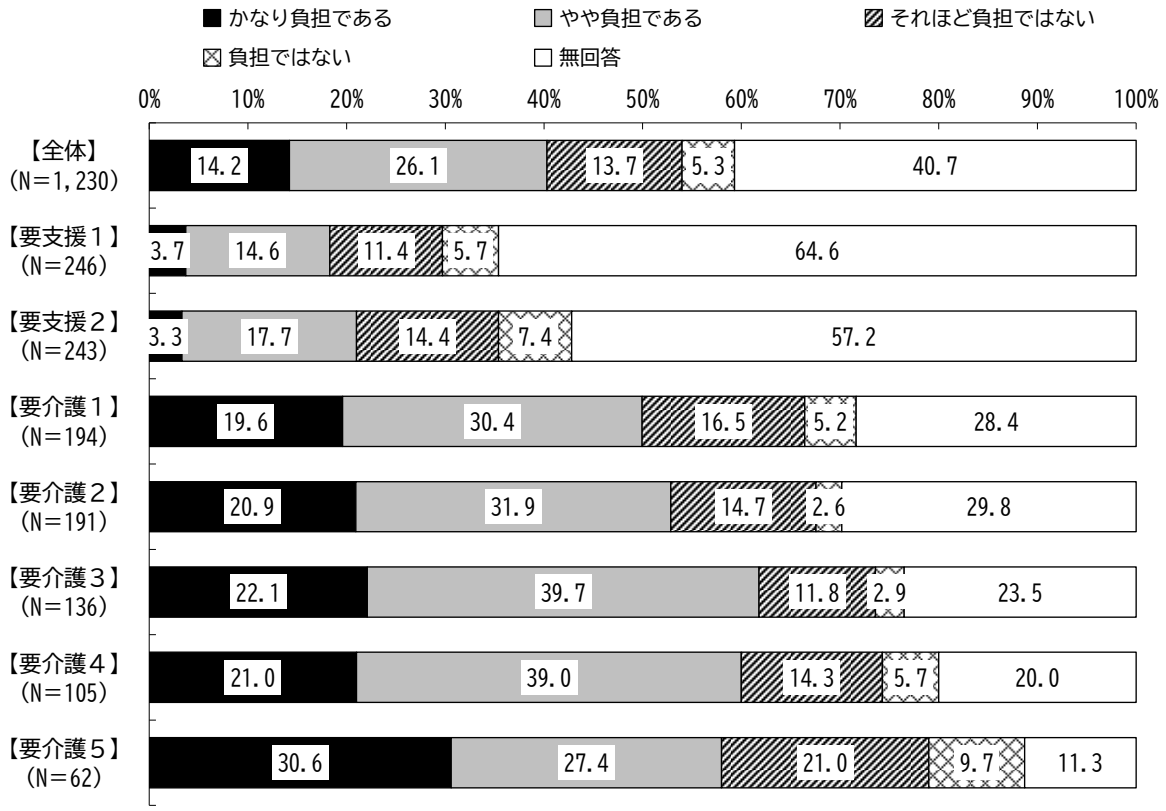


『介護に負担を感じている人』
（「かなり負担である」+「やや負担である」の合計）
【令和元年度】
在宅（介護者）：４０.５％

【属性別特徴】

在宅高齢者について要介護度別にみると、おおむね要介護度が高いほど負担感が大きい傾向にあり、「かなり負担である」と「やや負担である」を合わせた割合は、要介護3～5で約6割となっている。

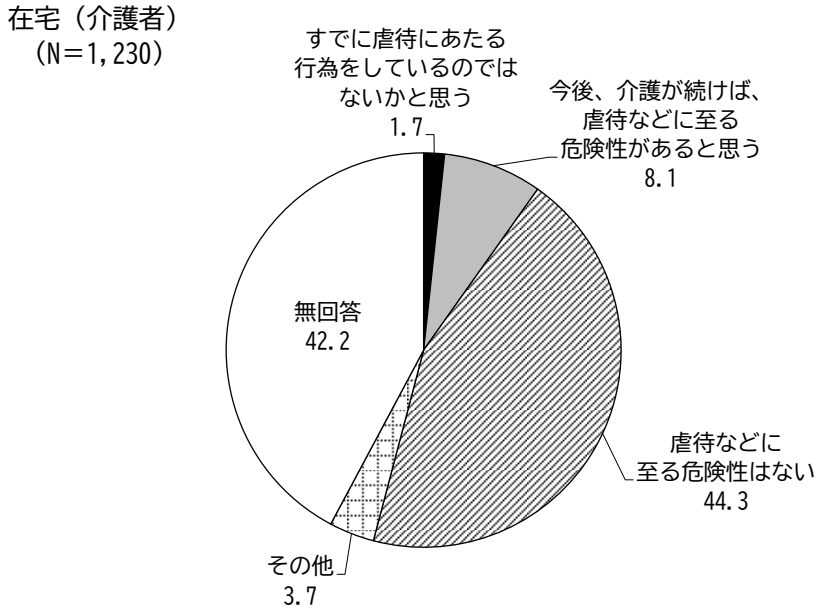
在宅高齢者（要介護度別）



３．高齢者の虐待

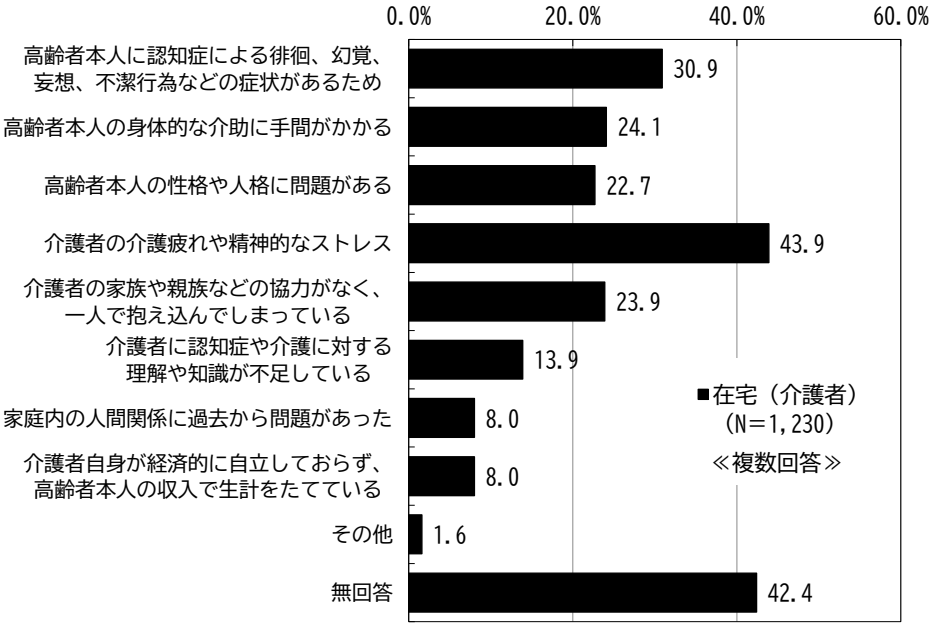
（１）要介護者虐待の危険性

介護者に要介護者への虐待に至る危険性を感じたことがあるか尋ねたところ、「虐待などに至る危険性はない」が44.3％と最も多く、次いで「今後、介護が続けば、虐待などに至る危険性があると思う」が8.1％、「すでに虐待にあたる行為をしているのではないかと思う」が1.7％となっている。



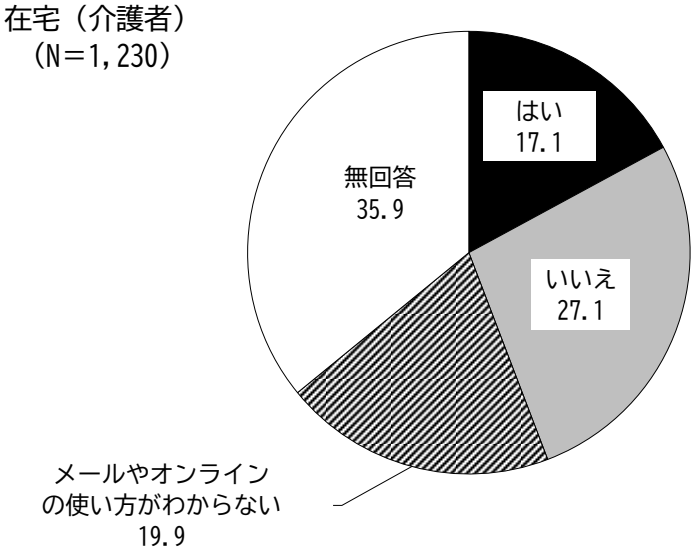
（２）要介護者虐待につながる要因

高齢者への虐待はどのような要因で起こると思うか尋ねたところ、「介護者の介護疲れや精神的なストレス」が43.9％と最も多く、次いで「高齢者本人に認知症による徘徊、幻覚、妄想、不潔行為などの症状があるため」が30.9％、「高齢者本人の身体的な介助に手間がかかる」が24.1％、「介護者の家族や親族などの協力がなく、一人で抱え込んでしまっている」が23.9％、「高齢者本人の性格や人格に問題がある」が22.7％となっている。



（３）介護や福祉の相談にメールやオンラインを利用したいか

介護や福祉の相談にメールやオンラインを利用したいか尋ねたところ、「はい」が17.1%、「いいえ」が27.1%、「メールやオンラインの使い方がわからない」が19.9%となっている。

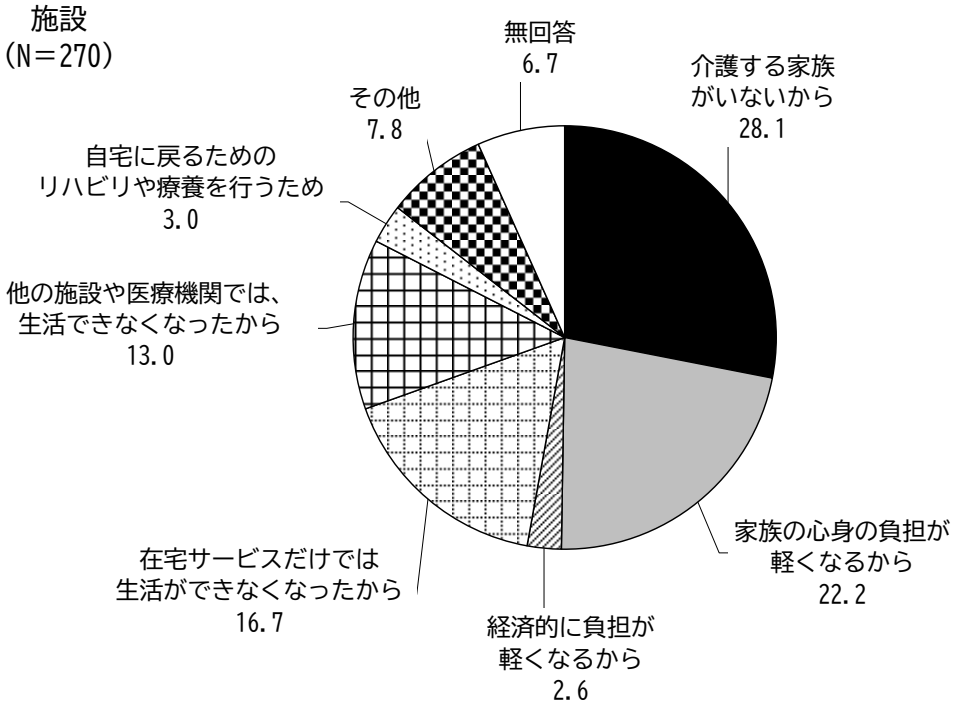


第５章　施設入居者の状況

１．施設サービスの利用状況

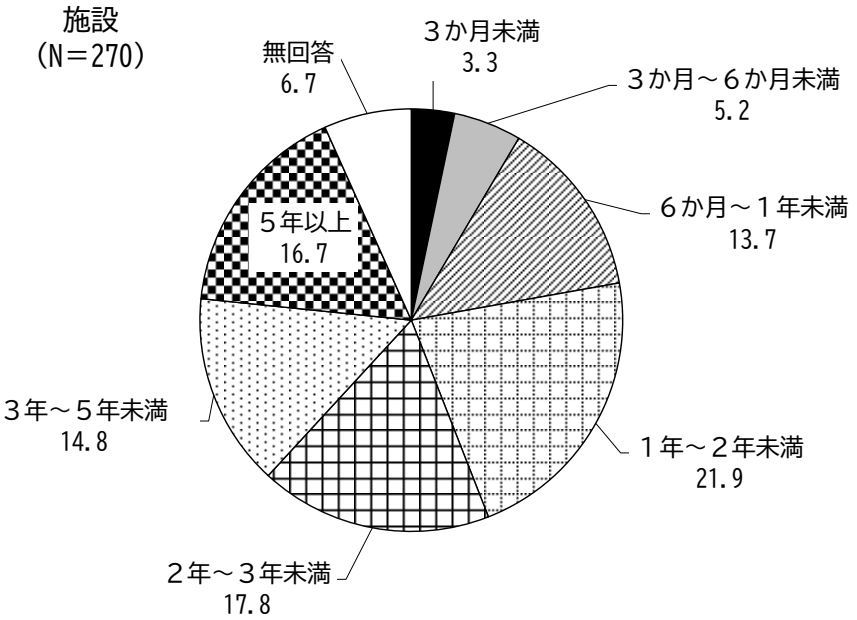
（１）施設に入所した理由

施設に入所した理由については、「介護する家族がいないから」が28.1％と最も多く、次いで「家族の心身の負担が軽くなるから」が22.2％、「在宅サービスだけでは生活できなくなったから」が16.7％となっている。



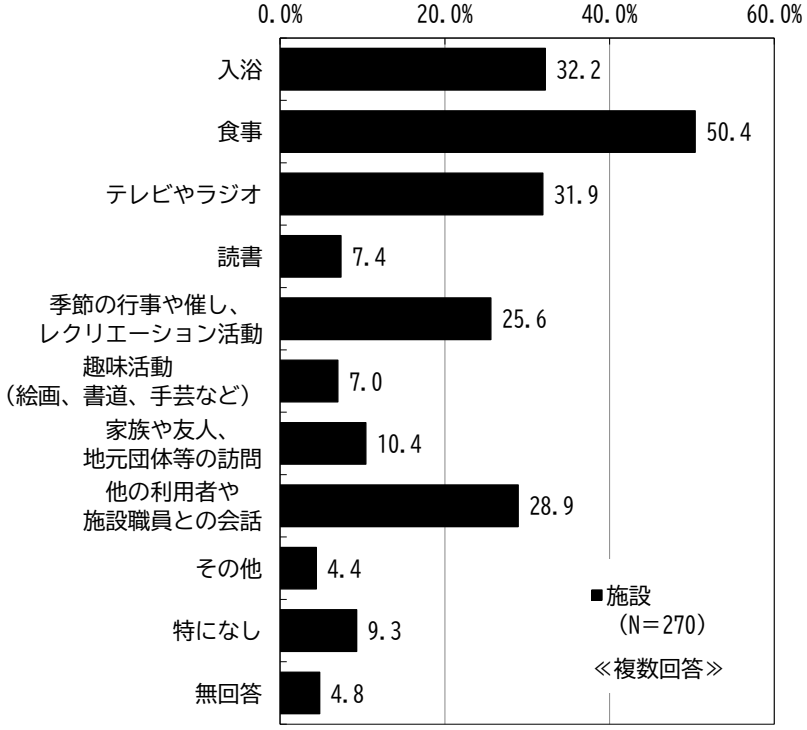
（２）施設入所期間

入所期間についてみると、「1年～2年未満」が21.9％と最も多く、次いで「2年～3年未満」が17.8％、「5年以上」が16.7％となっている。



（３）施設生活での楽しみ

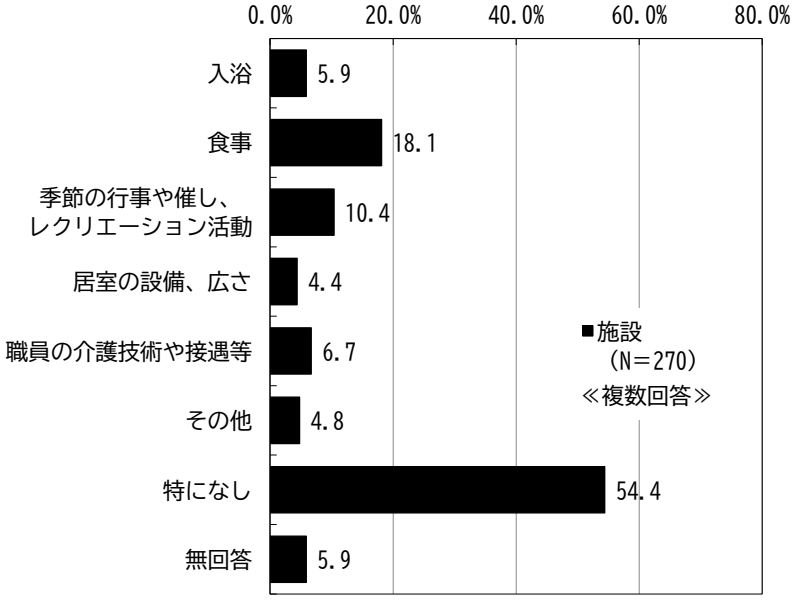
施設生活の楽しみで最も多いのが、「食事」で50.4％となっている。次いで「入浴」が32.2％、「テレビやラジオ」が31.9％、「他の利用者や施設職員との会話」が28.9％、「季節の行事や催し、レクリエーション活動」が25.6％、「家族や友人、地元団体等の訪問」が10.4％となっている。



【令和元年度】
施設：４３．７％「食事」
３１．８％「家族や友人、地元団体等の訪問」
３１．５％「季節の行事や催し、レクリエーション活動」

（４）改善してほしい点

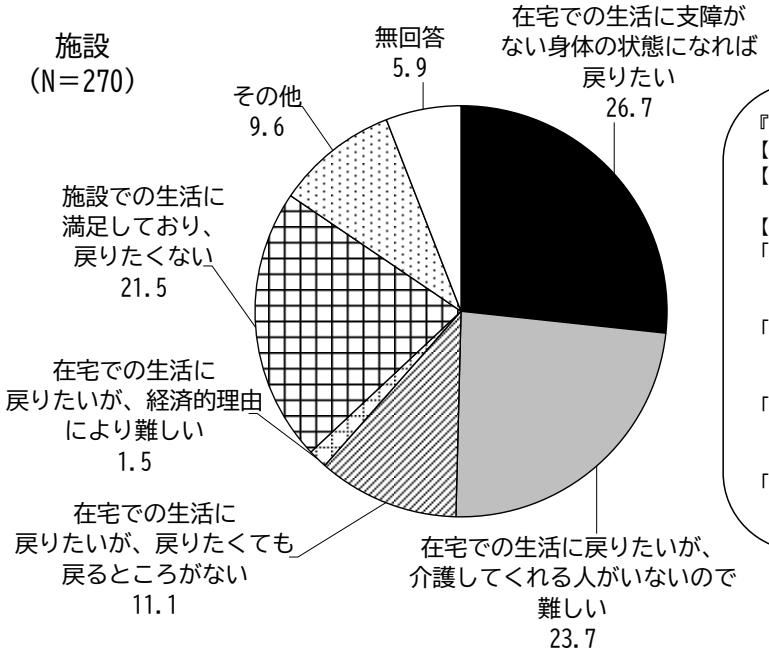
施設生活で改善してほしいと思うことは「特になし」が最も多く、54.4％となっている。改善点としては、「食事」が18.1％と最も多くなっている。



【令和元年度】
施設：５６．０％「特になし」
１４．１％「食事」

（５）在宅生活に戻る意向

在宅での生活に戻ることについて尋ねたところ、「在宅での生活に支障がない身体の状態になれば戻りたい」が26.7%、「在宅での生活に戻りたいが、介護してくれる人がいないので難しい」が23.7%、「在宅での生活に戻りたいが、戻りたくても戻るところがない」が11.1%、「在宅での生活に戻りたいが、経済的理由により難しい」が1.5%となっており、これらを合わせた在宅での生活に戻りたいと考えている入所者は63.0%となっている。一方で「施設での生活に満足しており、戻りたくない」は21.5%となっている。



『在宅での生活に戻りたい』
【令和元年度】施設：６０.５％（下記合計）
【令和４年度】施設：６３.０％

【令和元年度】
「在宅での生活に支障がない身体の状態になれば戻りたい」
施設：１９.０％

「在宅での生活に戻りたいが、介護してくれる人がいないので難しい」
施設：３３.６％

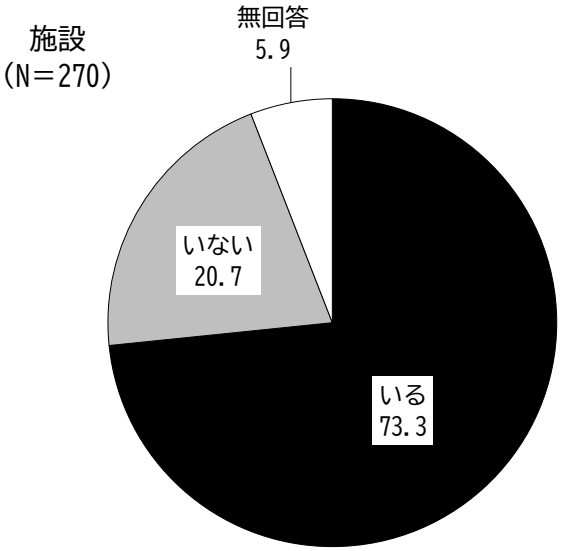
「在宅での生活に戻りたいが、戻りたくても戻るところがない」
施設：７.０％

「在宅での生活に戻りたいが、経済的理由により難しい」
施設：０.９％

２．家族の状況

（１）面会者の有無

家族や親族などで面会にくる人がいるか尋ねたところ、「いる」が73.3%、「いない」が20.7%となっている。

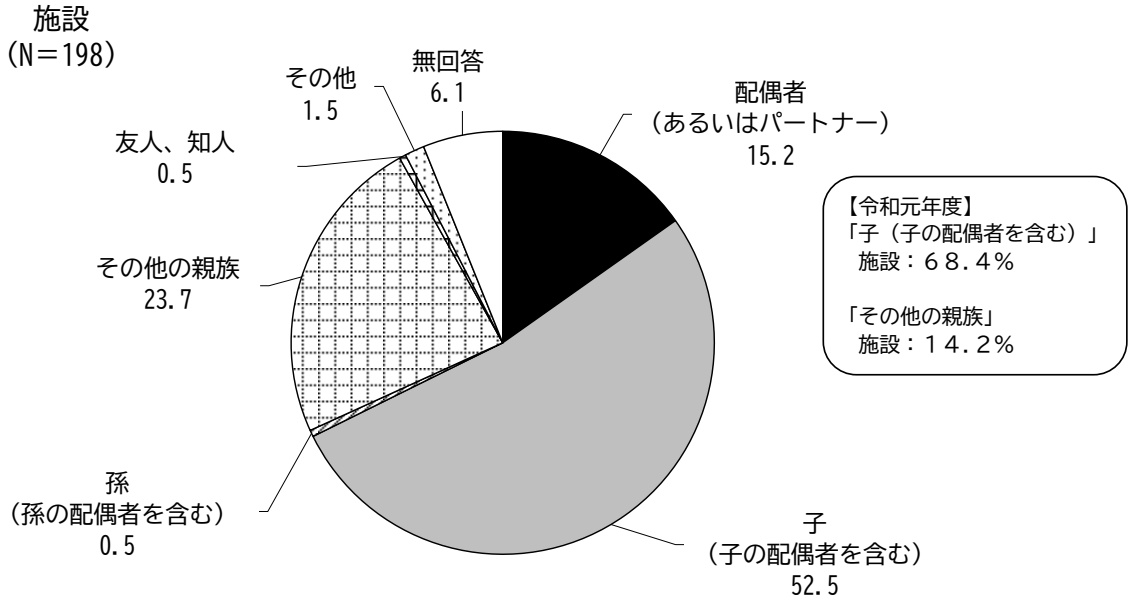


【令和元年度】
「いる」
施設：８８.１％

「いない」
施設：４.９％

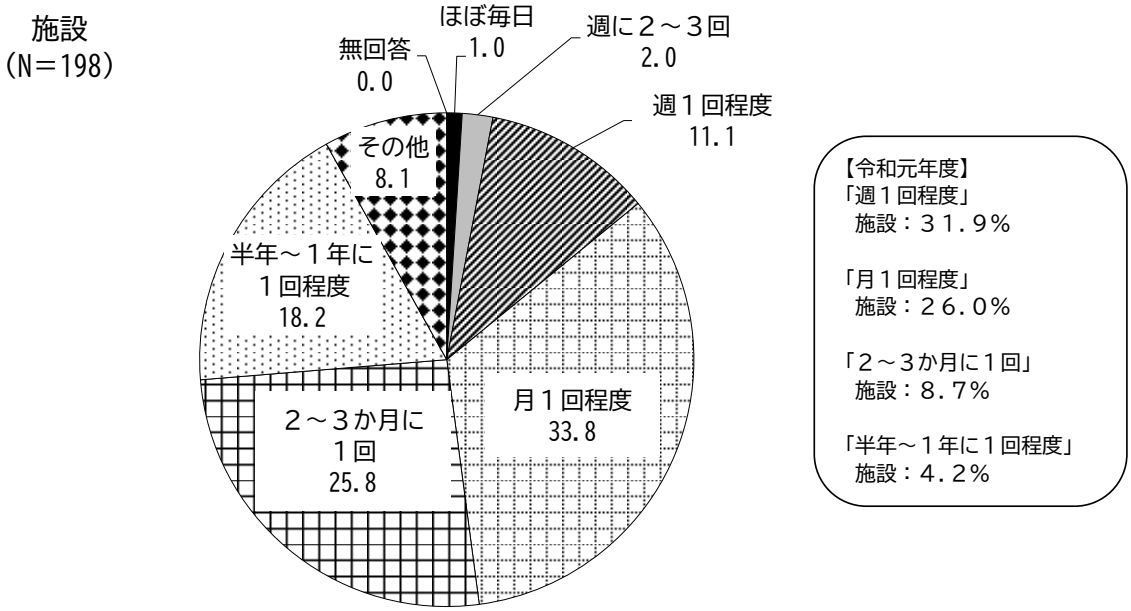
（１）－１　最も頻繁に来る面会者

最も頻繁に面会にくる人については、「子（子の配偶者を含む)」が52.5％と最も多く、次いで「その他の親族」が23.7％、「配偶者（あるいはパートナー)」が15.2％となっている。



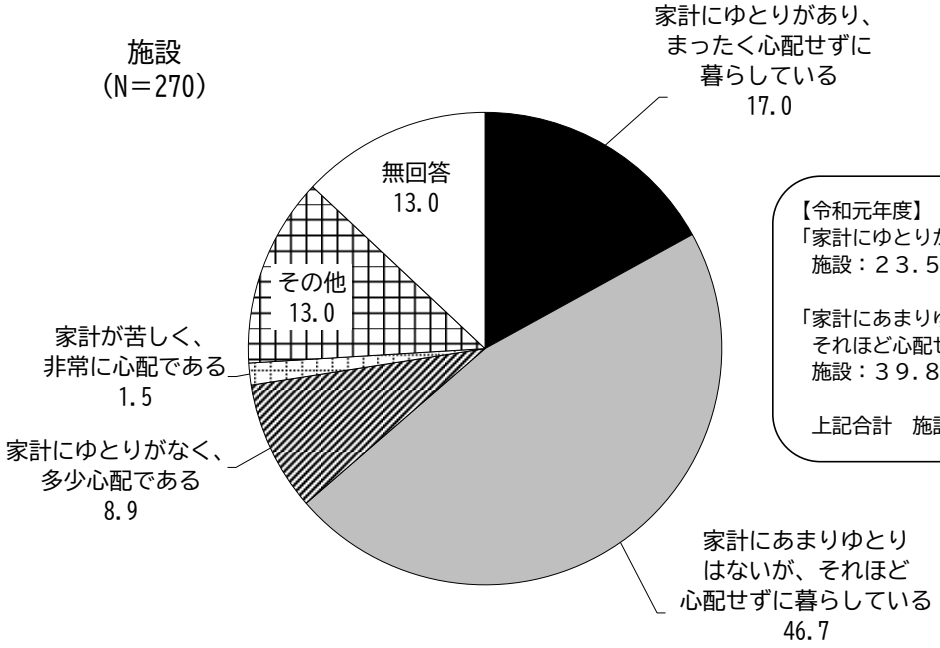
（１）－２　面会の頻度

面会の頻度については、「月1回程度」が33.8％と最も多く、次いで「2～3か月に１回」が25.8％、「半年～1年に１回程度」が18.2％となっている。



３．暮らし向き

暮らし向きについては、「家計にあまりゆとりはないが、それほど心配せずに暮らしている」が46.7%、「家計にゆとりがあり、まったく心配せずに暮らしている」が17.0%で、両者を合わせると63.7%となっている。



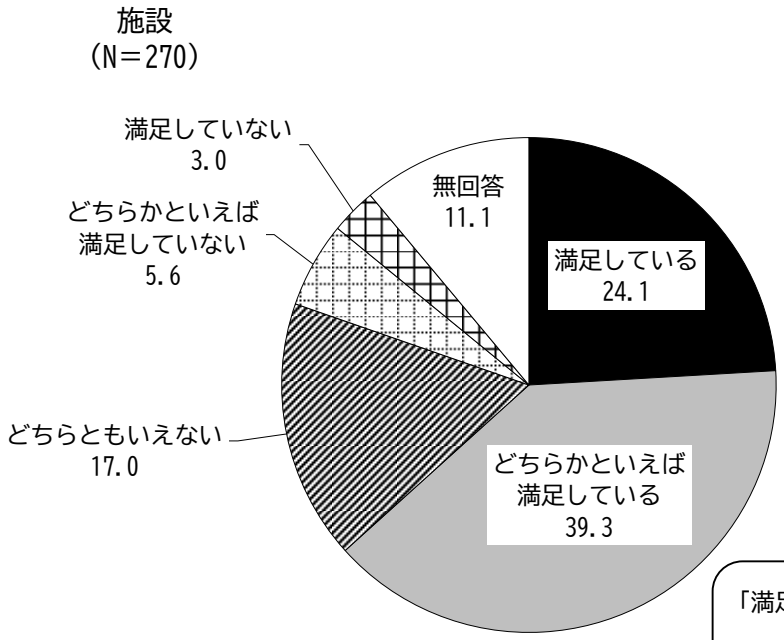
【令和元年度】
「家計にゆとりがあり、まったく心配せずに暮らしている」
施設：２３.５％

「家計にあまりゆとりはないが、
それほど心配せずに暮らしている」
施設：３９.８％

上記合計　施設：６３.３％

４．施設での生活全体の印象

施設での生活全体については、「どちらかといえば満足している」が39.3%と最も多く、次いで「満足している」が24.1%となっており、両者を合わせると63.4%となっている。



「満足している」+「どちらかといえば満足している」

【令和元年度】　施設：６３.３％
【令和４年度】　施設：６３.４％